

志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（12）

出口 B 遺 跡 · 潤 久 野 遺 跡
東 原 遺 跡 · 樽 野 遺 跡
上 原 遺 跡 · 平 原 A 遺 跡
平 原 B 遺 跡

1987年3月

鹿児島県曾於郡志布志町教育委員会

序

この埋蔵文化財発掘確認調査事業は、県営特殊農地保全整備事業平原地区、並びに県営畑地帯総合土地改良事業潤ヶ野工区の事業実施に先立ち、県教育庁文化課の指導を受けながら志布志町が主体となって実施したものです。

ここに、その調査結果を報告書として発行いたします。この報告書が文化財の保護と学術研究のために広く活用されることを願っております。

発刊にあたり発掘調査に参加された地元の方々をはじめ、文化財に対する深い御理解と御協力をいただきました関係者各位に対し、厚くお礼申し上げます。

昭和62年3月

志布志町教育委員会

例　　言

1. 本報告書は、志布志町教育委員会が文化庁及び鹿児島県の助成を得て実施した県営畑地帯総合土地改良事業（潤ヶ野地区）に伴う出口B遺跡・潤ヶ野遺跡・東原遺跡と県営特殊農地保全整備事業（平原地区）に伴う梅野遺跡・上原遺跡・平原A遺跡・平原B遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査の組織は、調査の経過の中で記した。
3. 本書で用いたレベル数値は、すべて海拔高である。
4. 本書で用いた挿図中の通し番号は遺跡ごとに行い、図版中の番号と同一である。
5. 本書の執筆分担は下記のとおりである。

第1章1・2節	米元史郎
第1章3節、第5・6・7章	立神次郎
第2・8・9・10章	戸崎勝洋
第3・4章	牛ノ浜修

目 次

第1章 調査の経過.....	1
第1節 調査に至るまでの経過.....	1
第2節 調査の組織.....	1
第3節 調査の経過（日誌抄）.....	2
第2章 遺跡の位置と環境.....	9
第3章 層位.....	17
第4章 出口B遺跡.....	19
第1節 調査の概要.....	21
第2節 各トレンチの調査.....	21
第3節 まとめ.....	37
第5章 潤ヶ野遺跡.....	39
第1節 調査の概要.....	41
第2節 各トレンチの調査.....	41
第3節 まとめ.....	58
第6章 東原遺跡.....	61
第1節 調査の概要.....	63
第2節 各トレンチの調査.....	64
第3節 まとめ.....	69
第7章 槍野遺跡.....	71
第1節 調査の概要.....	73
第2節 各トレンチの調査.....	73
第3節 まとめ.....	77
第8章 上原遺跡.....	79
第1節 調査の概要.....	81
第2節 各トレンチの調査.....	81
第3節 まとめ.....	87
第9章 平原A遺跡.....	89
第1節 調査の概要.....	92
第2節 各トレンチの調査.....	92
第3節 まとめ.....	104
第10章 平原B遺跡.....	105
第1節 調査の概要.....	107
第2節 各トレンチの調査.....	107
第3節 表面採集遺物.....	109
第4節 まとめ.....	110
図版.....	113
あとがき.....	139

挿 図 目 次

第1図	周辺の遺跡	14	第25図	2トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	44
第2図	土層柱状模式図	17	第26図	2トレンチ集石造構	45
第3図	出口B遺跡周辺地形図	19	第27図	2トレンチ出土遺物	45
第4図	出口B遺跡トレンチ配置図	20	第28図	3トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	46
第5図	1トレンチ土層断面図	21	第29図	3トレンチ出土遺物	47
第6図	2トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	22	第30図	4トレンチ土層断面図	48
第7図	2トレンチ出土土器	23	第31図	5トレンチ土層断面図	49
第8図	3トレンチ土層断面図	25	第32図	6トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	49
第9図	4トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	25	第33図	6トレンチ出土遺物(1)	50
第10図	5トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	26	第34図	6トレンチ出土遺物(2)	51
第11図	6トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	28	第35図	6トレンチ出土遺物(3)	52
第12図	7トレンチ土層断面図	28	第36図	7トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	53
第13図	8トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	29	第37図	7トレンチ出土遺物	54
第14図	8トレンチ出土土器(1)	30	第38図	8トレンチ土層断面図	55
第15図	8トレンチ出土土器(2)	31	第39図	9トレンチ土層断面図	56
第16図	9トレンチ土層断面図	32	第40図	10トレンチ土層断面図	56
第17図	10トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	33	第41図	11トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	57
第18図	11トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	34	第42図	11トレンチ出土遺物	58
第19図	12トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	35	第43図	東原遺跡の位置図	61
第20図	12トレンチ出土土器	36	第44図	東原遺跡トレンチ配置図	62
第21図	潤ヶ野遺跡の位置図	39	第45図	1トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	63
第22図	潤ヶ野遺跡トレンチ配置図	40	第46図	1トレンチ出土遺物	64
第23図	1トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	41	第47図	2トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	66
第24図	1トレンチ出土遺物	42	第48図	3トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	68
			第49図	4トレンチ土層断面図	68

第50図	梅野遺跡の位置図	71	第75図	3 トレンチ土層断面図	95
第51図	梅野遺跡トレンチ配置図	72	第76図	4 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	96
第52図	1 トレンチ土層断面図	73	第77図	4 トレンチ出土土器	97
第53図	2 トレンチ土層断面図	74	第78図	4 トレンチ出土石器(1)	98
第54図	3 トレンチ土層断面図	75	第79図	4 トレンチ出土石器(2)	98
第55図	4 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	75	第80図	5 トレンチ出土土器	98
第56図	4 トレンチ出土遺物	76	第81図	5 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	99
第57図	上原遺跡位置図	79	第82図	6 トレンチ土層断面図	100
第58図	上原遺跡トレンチ配置図	80	第83図	7 トレンチ出土石器	101
第59図	1 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	81	第84図	7 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	101
第60図	1 トレンチ出土土器	82	第85図	7 トレンチ出土土器	102
第61図	2 トレンチ土層断面図	83	第86図	8 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	103
第62図	3 トレンチ土層断面図	84	第87図	9 トレンチ土層断面図	104
第63図	4 トレンチ土層断面図	85	第88図	平原B遺跡位置図	105
第64図	5 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	85	第89図	平原B遺跡トレンチ配置図	106
第65図	5 トレンチ出土石器	86	第90図	平原B遺跡トレンチ配置図	106
第66図	5 トレンチ出土・表面採集土器	86	第91図	1 トレンチ土層断面図	107
第67図	表面採集石器	87	第92図	2 トレンチ土層断面図	108
第68図	平原A遺跡位置図	89	第93図	3 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	109
第69図	平原A遺跡トレンチ配置図	90	第94図	4 トレンチ土層断面図・遺物 出土分布図	110
第70図	平原A遺跡トレンチ配置図	91	第95図	表面採集土器	111
第71図	1 トレンチ土層断面図	92	第96図	表面採集石器(1)	111
第72図	2 トレンチ土層断面図	93	第97図	表面採集石器(2)	111
第73図	2 トレンチ石器等出土状況	94			
第74図	2 トレンチ出土石器	95			

目 次

第1表	周辺の遺跡	14・15
第2表	2トレンチ出土土器一覧表	24
第3表	8トレンチ出土土器一覧表	31
第4表	12トレンチ出土土器一覧表	37

図 版 目 次

図版1	1.各遺跡遠景	
	2.発掘風景 (渕ヶ野遺跡1トレンチ)	113
図版2	1.発掘調査風景 (出口B遺跡8トレンチ)	
	2.発掘調査風景 (上原遺跡1トレンチ)	114
図版3	1.出口B遺跡遠景(北から)	
	2.8トレンチ近景(南から)	115
図版4	1.12トレンチ近景(南から)	
	2.3トレンチ土層断面.....	116
図版5	1.7トレンチ土層断面	
	2.8トレンチ遺物出土状況.....	117
図版6	1.2トレンチ出土土器	
	2.8トレンチ出土土器(1)	118
図版7	1.8トレンチ出土土器(2)	
	2.12トレンチ出土土器.....	119
図版8	1.渕ヶ野遺跡遠景	
	2.2トレンチ集石造構.....	120
図版9	1.発掘調査風景	
	2.3トレンチ遺物出土状況(1) 121	
図版10	1.3トレンチ遺物出土状況(2)	
	2.6トレンチ遺物出土状況(1) 122	
図版11	1.6トレンチ遺物出土状況(2)	
	2.6トレンチ遺物出土状況(3) 123	
図版12	1・2・3トレンチ出土遺物.....	124
図版13	6・7・11トレンチ出土遺物.....	125
図版14	1.東原遺跡遠景	
	2.1トレンチ遺物出土状況.....	126
図版15	1.1トレンチ出土遺物	
	2.3トレンチ造構等出土状況.....	127
図版16	1.樽野遺跡近景	
	2.3トレンチ土層断面.....	128
図版17	1.4トレンチ土層断面	
	2.4トレンチ出土遺物.....	129
図版18	1.上原遺跡遠景	
	2.上原遺跡近景.....	130
図版19	1.上原遺跡近景	
	2.1トレンチ土層断面.....	131
図版20	1.上原遺跡出土土器	
	2.上原遺跡出土・表面採集遺跡..	132
図版21	1.平原A遺跡遠景	
	2.平原A遺跡近景.....	133
図版22	1.1トレンチ近景	
	2.2トレンチ近景.....	134
図版23	1.平原A遺跡出土土器(1)	
	2.平原A遺跡出土土器(2)	135
図版24	1.平原A遺跡出土土器(1)	
	2.平原A遺跡出土土器(2)	136
図版25	1.平原B遺跡表面採集遺物	
	2.上原遺跡発掘風景.....	137
図版26	1.発掘作業員の皆さん.....	138

第1章 調査の経過



第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県は、曾於郡志布志町平原地区において、県営特殊農地保全整備事業（平原地区）を、同町潤ヶ野地区において、県営畠地帯総合土地改良事業（潤ヶ野地区）を計画したところ、当該地域に平原A遺跡、平原B遺跡、樽野遺跡、上原遺跡（以上平原地区内）、出口B遺跡、潤ヶ野遺跡、東原遺跡（以上潤ヶ野地区内）の周知の遺跡が所在していることが判明した。

そこで鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は鹿児島県教育庁文化課、志布志町（耕地課）、志布志町教育委員会と協議し、埋蔵文化財の保護と活用と事業の調整を図るために、本年度（昭和61年度）に、団及び県の助成を得て、志布志町教育委員会が調査主体者となり、発掘調査を実施することとなった。

志布志町教育委員会は、発掘調査担当者の派遣及び発掘調査報告書の作成を鹿児島県教育庁文化課に依頼し、昭和61年10月27日から12月23日まで実施した。その後、遺物整理作業と報告書作成作業を行った。

第2節 調査の組織

調査主体者 志布志町教育委員会

調査責任者 志布志町教育委員会 教育長 野間 隆

〃 社会教育課 課長 山角 利行

〃 社会教育課長補佐 那加野 久廣

〃 総文化体育係長 哉地 正昭

〃 文化体育係 主査 谷口 隆博

〃 事務補助員 米元 史郎

〃 事務主事 荒平 安次

〃 〃 平田 広則

調査担当者 鹿児島県教育庁文化課

文化財研究員 立神 大郎

〃 主査 戸崎 勝洋

〃 主査 牛ノ浜 修

なお、調査企画において、県教育庁文化課長桑原一廣、同補佐川畑栄造、同主任幹中村文夫、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長立間多賀生、同企画助成係長浜松巖の各氏のほか、同企画助成係の指導、助言を得た。発掘調査中は志布志町文化財保護審議会委員瀬戸口望氏の協力を得た。出土遺物については、鹿児島考古学会会長河口貞徳氏の指導、助言を得た。

第3節 調査の経過

県営特殊農地保全整備事業（平原地区）ならびに県営畠地帯総合土地改良事業（潤ヶ野1区）の事業実施が計画され、平原地区の一部においては昭和59年度から事業を遂行している。

平原地区においては、樽野地区で昭和62年度に、平原1区が昭和63年度以降の実施計画であり潤ヶ野地区は、昭和62年度に1工区、残工区は昭和63年度以降に事業実施が計画されている。

これらの事業区で平原地区には、樽野遺跡、上原遺跡（昭和62年度事業区）、平原A遺跡、平原B遺跡（昭和63年度以降の事業区）、樽野地区には、出口B遺跡（昭和62年度事業区）、潤ヶ野遺跡、東原遺跡（昭和63年度以降事業区）の周知の遺跡が所在している。

発掘調査は、出口B遺跡から実施し、潤ヶ野遺跡、東原遺跡、平原A遺跡、平原B遺跡、樽野遺跡、上原遺跡の調査へと移行していった。調査方法は、それぞれの事業区で削平部分を主体に、 $2 \times 4\text{ m}$ のトレンチを基本に、一部、 $4 \times 4\text{ m}$ 、 $2 \times 4\text{ m}$ のトレンチに $1 \times 1\text{ m}$ の拡張のトレンチを設定し、トレンチによる確認調査を実施した。

調査は、昭和60年10月27日から12月23日まで実施した。その間の調査経過と概要については日誌抄をもってかえる。

10月27日(月) 発掘調査開始。本事業にあたり教育長あいさつ。作業員に対して調査の主旨と作業上の留意すべき事について注意と説明。プレハブ事務所・テント設営作業。

調査開始前に作業員を対象に潤ヶ野小学校において16mm映画「縄文時代」を上映し、啓蒙活動を行なう。出口遺跡から調査を実施する。1トレンチから4トレンチのトレンチ設定を実施する。1トレンチは耕作土の直下でシラスとなる。

2トレンチはII層まで掘り下げる。土器小破片の出土を認める。3トレンチは3層（アカホヤ）まで掘り下げる。4トレンチはIII層（アカホヤ）まで掘り下げを終了する。

10月28日(火) 雨天のため現地調査中止。発掘機材準備作業（各班へ分担）。今後の調査計画打合せ。小学校保管の採集遺物について調査および指導。

10月29日(水) 雨天のため作業中止。確認調査予定地選定作業。事務打合せ。

10月30日(木) 2トレンチはIIおよびIII層（一部）掘り下げ作業。II層より土器小破片を認めるが時期は不明である。3トレンチはV層（薩摩）掘り下げ中。4トレンチはIV層掘り下げ中。土器小破片の出土を認める。5トレンチはIII層掘り下げ作業中。

10月31日(金) 1トレンチは下位までシラス層で、この周辺は大幅な盛土を認める。土層断面実測準備作業。2トレンチは遺物出土状況平板準備作業。3トレンチはVI層（二次シラス）で掘り下げ終了。土層断面実測準備作業。5トレンチはVII層掘り下げ作業中。6トレンチは草刈り後トレンチ設定作業。III層掘り下げ中。7トレンチはIV層掘り下げ中。瀬戸口望氏来訪。

11月4日(火) 2トレンチは遺物出土状況平板実測作業。遺物取り上げ作業。IV層掘り下げ作業中。4トレンチはV層（薩摩）まで掘り下げ終了。このトレンチは大幅に削平

を受けている。5トレンチはⅦ層まで掘り下げ。7トレンチはⅧ層掘り下げ。8トレンチはトレンチ設定後表土層掘り下げ中。1・3トレンチについて、土層断面実測作業。潤ヶ野小学校6年生18名遠距見学。

11月5日(水) 2トレンチはVI層まで掘り下げ中、この層より縄文時代早期の前平式土器小破片が出土。6トレンチはⅦ層(二次シラス)まで掘り下げ終了。7トレンチはVI層(薩摩)まで掘り下げ中。8トレンチはII層より縄文時代晚期の土器破片(組織痕土器を含む)が出土。1・2・3トレンチについて写真撮影作業。4トレンチは遺物出土状況平板実測作業および土層断面実測作業。5トレンチは遺物出土状況平板実測作業。ベンチマーク設定作業のため打合せ(大隅耕地事務所・富永氏、佐多設計事務所所員)

11月6日(木) 2トレンチはVI層掘り下げ中。5トレンチはVI層掘り下げ。6トレンチは土層断面実測作業。7トレンチはⅨ層(チョコレート層)まで掘り下げ。土層断面実測作業。8トレンチは縄文時代晚期の土器破片が出土し、下位に下がるにつれ坂片が大きくなり、炭化物も多い。9トレンチはトレンチ設定後Ⅲ層掘り下げ中。10トレンチはトレンチ設定後Ⅳ層まで掘り下げ。土器破片が出土。

11月7日(金) 1トレンチから10トレンチについてトレンチ配置図作成作業。4・6・7・8トレンチ精査作業後写真撮影。1・3トレンチ埋め戻し作業。5トレンチはⅧ層掘り下げ中10トレンチはV層掘り下げ。IV層より土器小破片が出土。11トレンチはIV層まで掘り下げ。土器小破片が出土。

11月10日(月) 5トレンチは土層断面実測作業。2トレンチはVI層より条痕の深い縄文時代早期の前平式土器破片が出土。6トレンチは一部埋め戻し作業。7トレンチは埋め戻し作業。8トレンチは遺物出土状況平面実測作業後掘り下げ作業。10トレンチはⅦ層掘り下げ中。9トレンチはVI層掘り下げ終了。土層断面実測作業。11トレンチはV層まで掘り下げ。IIおよびIV層出土の遺物出土状況平板実測作業。

11月11日(火) 2トレンチは縄文時代早期の前平式土器が出土。4トレンチは埋め戻し作業。5トレンチは写真撮影後埋め戻し作業。8トレンチは遺物出土状況平板実測作業。9トレンチは写真撮影後土層断面実測作業。10トレンチはⅨ層まで掘り下げ終了。土層断面実測作業。11トレンチはⅢ層掘り下げ中。12トレンチはトレンチ設定後IV層掘り下げ中。III層より土器小破片が出土。

11月12日(水) 2トレンチは遺物出土状況平板実測作業。写真撮影。VI層はかなりの層厚を呈する。8トレンチはⅢ層遺物出土状況平板実測作業。依然として遺物が出土する。9トレンチは埋め戻し作業。11トレンチはVI層掘り下げ。

11月13日(木) 2トレンチはⅧ層(薩摩)まで掘り下げ終了。遺物出土状況平板実測作業。土層断面実測準備作業。8トレンチは2×4mを拡張する。土器破片が出土。一部

- III層掘り下げ、11トレンチはIV層掘り下げ。12トレンチはV層より塞ノ神式土器の破片が出土。遺物出土状況平板実測作業。6トレンチは埋め戻し作業。本日より潤ヶ野遺跡の調査を開始する。1トレンチはII層掘り下げ中。
- 11月14日(金) 出口B遺跡—2トレンチは遺物出土状況平板実測作業。写真撮影。土層断面実測作業。埋め戻し作業。12トレンチは遺物出土状況平板実測作業。潤ヶ野遺跡—1トレンチはIII層より土器小破片が出土。2トレンチはトレンチ設定後II層掘り下げ中。3トレンチはトレンチ設定後II層掘り下げ中。土器破片が出土。
- 11月18日(火) 潤ヶ野遺跡—1トレンチはIII・IV層遺物出土状況平板実測作業。2トレンチは集石遺構を検出。III層より土器小破片が出土。3トレンチはII層より青磁、土師器が出土。4トレンチはII層(二次シラス)掘り下げ。
- 11月19日(水) 出口B遺跡—11トレンチは土層断面実測作業。12トレンチは遺物出土状況平板実測作業。土層断面実測作業。東原遺跡本日より調査開始。1トレンチはトレンチ設定後II層掘り下げ。土器小破片が出土。潤ヶ野遺跡—1トレンチはVI層掘り下げ。3トレンチはIV層掘り下げ中。III層より土器破片が出土。4トレンチはIV層(二次シラス)掘り下げ完了。5トレンチはトレンチ設定後II層(アカホヤ)掘り下げ中。大幅な削平である。6トレンチはII層掘り下げ中。
- 11月20日(木) 潤ヶ野遺跡—1トレンチはIV層遺物出土状況平板実測作業。2トレンチは集石遺構の平面実測作業。3トレンチは遺物出土状況平板実測作業。6トレンチはII層掘り下げ。一次加工の礫が出土。東原遺跡—1トレンチはIII層掘り下げ。土器、礫、黒曜石の剥片などが出土。2トレンチはトレンチ設定後III層掘り下げ中。II層より土器小破片が出土。
- 11月21日(金) 潤ヶ野遺跡—1トレンチはV層掘り下げ中。打製石鎌が出土。2トレンチは集石遺構周辺の掘り下げ。3トレンチはIV層掘り下げ中。4トレンチは土層断面実測作業。5トレンチはII・III層掘り下げ作業。礫が多く出土するが、まとまりはない。6トレンチはIV層掘り下げ。縄文時代後期の土器破片および礫の出土も多い。東原遺跡—1トレンチは遺物出土状況平板実測作業。2トレンチはIII層掘り下げ中。
- 11月25日(火) 潤ヶ野遺跡—1トレンチはV層掘り下げ作業。2トレンチは集石遺構部分掘り下げ。3トレンチはIV層掘り下げ。5トレンチはII・III・IV層掘り下げ終了。6トレンチはIV層掘り下げ中。土器小破片、礫、打製石鎌が出土。東原遺跡—1トレンチはIII・IV層掘り下げ中。土器破片が出土。2トレンチはIII・IV層掘り下げ中。
- 11月26日(水) 潤ヶ野遺跡—1トレンチはV・VI層掘り下げ。3トレンチはIV層掘り下げ。土器小破片が出土。6トレンチはV層掘り下げ。土器小破片や礫(角や円)が出土。東原遺跡—1トレンチはIV層掘り下げ中。2トレンチはIII・IV層掘り下げ中。3

トレンチはトレンチ設定後II層（アカホヤ）掘り下げ中。

11月27日(木) 出口B遺跡-12トレンチは埋め戻し作業。8トレンチは遺物出土状況平板実測作業。潤ヶ野遺跡-4トレンチは埋め戻し作業。6トレンチは写真撮影。3トレンチは土層断面実測作業。東原遺跡-1トレンチはVI層掘り下げ。土器小破片や黒曜石の剝片が出土。2トレンチはIV・V層掘り下げ。3トレンチはIII層掘り下げ中。これらのトレンチを含めて削平を受けている。

11月28日(金) 東原遺跡-1トレンチはVI層掘り下げ。2・3トレンチは写真撮影。土層断面実測作業。出口遺跡-8トレンチは土層断面実測作業。潤ヶ野遺跡-5トレンチは土層断面実測作業。6トレンチは遺物出土状況平板実測作業。

12月1日(月) 東原遺跡-1トレンチはVI層掘り下げ。土器破片や打製石錐が出土。2トレンチは埋め戻し作業。3トレンチは写真撮影、土層断面実測作業。潤ヶ野遺跡-6トレンチは写真撮影。土層断面実測作業。7トレンチはII・III層掘り下げ。耕作土の直下には客土（約80cm）を確認。8トレンチはトレンチ設定後II・III層掘り下げ。9トレンチはトレンチ設定後IV層まで掘り下げ。10トレンチはトレンチ設定後表層掘り下げ中。本日より平原地区の調査を実施する。平原A遺跡-1・2トレンチはトレンチ設定後II層掘り下げ中。2トレンチは耕作土の直下に礫（角や円）や石器が出土し、トレンチ全面で確認。

12月2日(火) 潤ヶ野遺跡-7トレンチは遺物出土状況平板実測作業。8トレンチはV層まで掘り下げ終了。9トレンチは耕作土・II層掘り下げ。10トレンチはIV層掘り下げ。東原遺跡-1トレンチは遺物出土状況平板実測作業。3トレンチは遺物および集成石構造の出土状況平板実測作業。出口遺跡-8トレンチは写真撮影作業。平原A遺跡-1トレンチは一部土層が横転している。2トレンチはII層で礫（角や円）が多く出土。3トレンチはII・III・IV層掘り下げ。

12月3日(水) 潤ヶ野遺跡-2トレンチは土層断面実測作業。8トレンチはVI層掘り下げ終了後土層断面実測作業。9トレンチはIV・V層掘り下げ後土層断面実測作業。10トレンチはV・VI層掘り下げ作業。IV・V・VIトレンチは埋め戻し作業。出口B遺跡-8トレンチは写真撮影後埋め戻し作業。平原遺跡-3トレンチはIV・V層掘り下げ作業。4トレンチはトレンチ設定後III層まで掘り下げ終了。礫および土器小破片出土。5トレンチはトレンチ設定後耕作土の直下に搅乱層を認め、層厚がかなりある。6トレンチはトレンチ設定後II層掘り下げ作業。

12月4日(木) 潤ヶ野遺跡-3・7・8トレンチは埋め戻し作業。うち、8トレンチは土層断面実測作業。11トレンチはトレンチ設定後IV層まで掘り下げ終了。III層より土器小破片が出土。東原遺跡-1トレンチは土層断面実測作業。平原A遺跡-3トレンチはV層まで掘り下げ終了。4トレンチはII層より土器小破片が出土。5トレンチは耕作土直下に搅乱層がかなりある。6トレンチはIV層掘り下げ。7トレン

チはトレンチ設定後表解土堀り下げ作業。土器破片が混在して出土。1トレンチはII層掘り下げ中。

12月5日(金) 潤ヶ野遺跡-9・10トレンチは埋め戻し作業。11トレンチは遺物出土状況平板実測作業。土層断面実測作業。東原遺跡-1・3・4トレンチは埋め戻し作業。平原A遺跡-4トレンチは遺物出土状況平板実測作業。写真撮影。II層掘り下げ。土器が出土するが量は少ない。5トレンチはII・III層掘り下げ。土器破片が少量出土する。6トレンチはIV層まで掘り下げ終了。7トレンチはIV層掘り下げ。II層より土器小破片が出土。8トレンチはIV・V層掘り下げ中。このトレンチを設定した畑地は傾斜地であり、造成地が多い。

12月8日(月) 平原A遺跡-4トレンチはIV層掘り下げ。5トレンチは遺物出土状況平板実測作業II・III・IV層の掘り下げ。7トレンチは遺物出土状況平板実測作業。平原B遺跡-1トレンチはトレンチ設定後II層掘り下げ中。礫が多く出土。石器らしい痕跡を持つものはない。2トレンチはII層より土器破片が出土。

12月9日(火) 平原A遺跡-3トレンチは土層断面実測作業。4トレンチはII・IV層遺物出土状況平板実測作業。5トレンチはIV・V層まで掘り下げ。7トレンチはV・VI層まで掘り下げ。V層より少量の縄文時代早期相当の土器破片が出土。平原B遺跡-1トレンチII層掘り下げ中。2トレンチは遺物出土状況平板実測作業(II層より出土)。III・IV・V層掘り下げ中。

12月10日(水) 平原A遺跡-1・5・7トレンチは土層断面実測作業。うち7トレンチは遺物出土状況平板実測作業後実施。4トレンチはIV・V層掘り下げ終了。土層断面実測準備作業。平原B遺跡-2トレンチはVI層掘り下げ終了。3・4トレンチはトレンチ設定後耕作土より掘り下げ。3トレンチはII層がアカホヤとなり、IV層掘り下げ中。4トレンチはII層より土器破片1点が出土。樽野遺跡一本日から調査開始。1・2トレンチはトレンチ設定作業。1トレンチは耕作土II層(アカホヤ最下部)・III層掘り下げ中。

12月11日(木) 平原B遺跡+1・2・3・4トレンチは土層断面実測作業。うち3・4トレンチはIV・V層掘り下げ終了後精査する。平原A遺跡-8トレンチは土層断面実測作業。平原A遺跡-4トレンチは土層断面実測作業。樽野遺跡-1トレンチはV層まで掘り下げ終了。2トレンチはII層掘り下げ中。耕作土から土器破片が出土。3・4トレンチはトレンチ設定後掘り下げ。3トレンチはIII層掘り下げ中。4トレンチは造成による盛土で、その除去作業。

12月12(金) 樽野遺跡-1トレンチは土層断面実測作業。2トレンチはIII・IV・V層まで掘り下げ。3トレンチはVI層まで掘り下げ。4トレンチは旧耕作土直下に擾乱層を確認。その下位層より土器破片が出土。上原遺跡本日より調査開始。1・2トレンチはトレンチ設定後掘り下げ。1トレンチはII層より土器破片が出土。2ト

ンチは耕作土および盛土掘り下げ。

12月15日(月) 樽野遺跡-2トレンチはIV層掘り下げ終了後土層断面実測作業。3トレンチはVI層まで掘り下げ終了後土層断面実測作業。4トレンチはVII層掘り下げ作業。遺物出土状況平板実測作業。土層断面実測作業。平原A遺跡-9トレンチはIV層掘り下げ後土層断面実測作業。上原遺跡-1トレンチはII層より土器破片が多く出土し、さらに2×4m拡張する。2トレンチはV層まで掘り下げ。土層断面実測作業。3トレンチはV层掘り下げ中。4トレンチはVI層掘り下げ中。

12月16日(火) 上原遺跡-1トレンチは拡張区掘り下げ作業。森山小学校5・6年生体験学習のため現地で掘り下げ。2トレンチはVI層掘り下げ作業中。3・4トレンチはVI-VIII層掘り下げ作業中。5トレンチはトレンチ設定後V層まで掘り下げ。遺物が出土。平原A遺跡-2トレンチは土層断面実測作業。立園埋蔵文化財係長(県文化課)来跡。

12月17日(水) 上原遺跡-2・3・4トレンチは写真撮影。土層断面実測作業。3トレンチは埋め戻し作業。1トレンチはII層掘り下げ。遺物出土状況平板実測作業。土層断面実測作業。5トレンチはII・IV層掘り下げ中。樽野遺跡-1から4トレンチまで写真撮影。1トレンチは埋め戻し作業。平原A遺跡-1・3・4・5・7トレンチは写真撮影。平原A遺跡-8・9トレンチは写真撮影。平原B遺跡-1・2・3・4トレンチまで写真撮影。

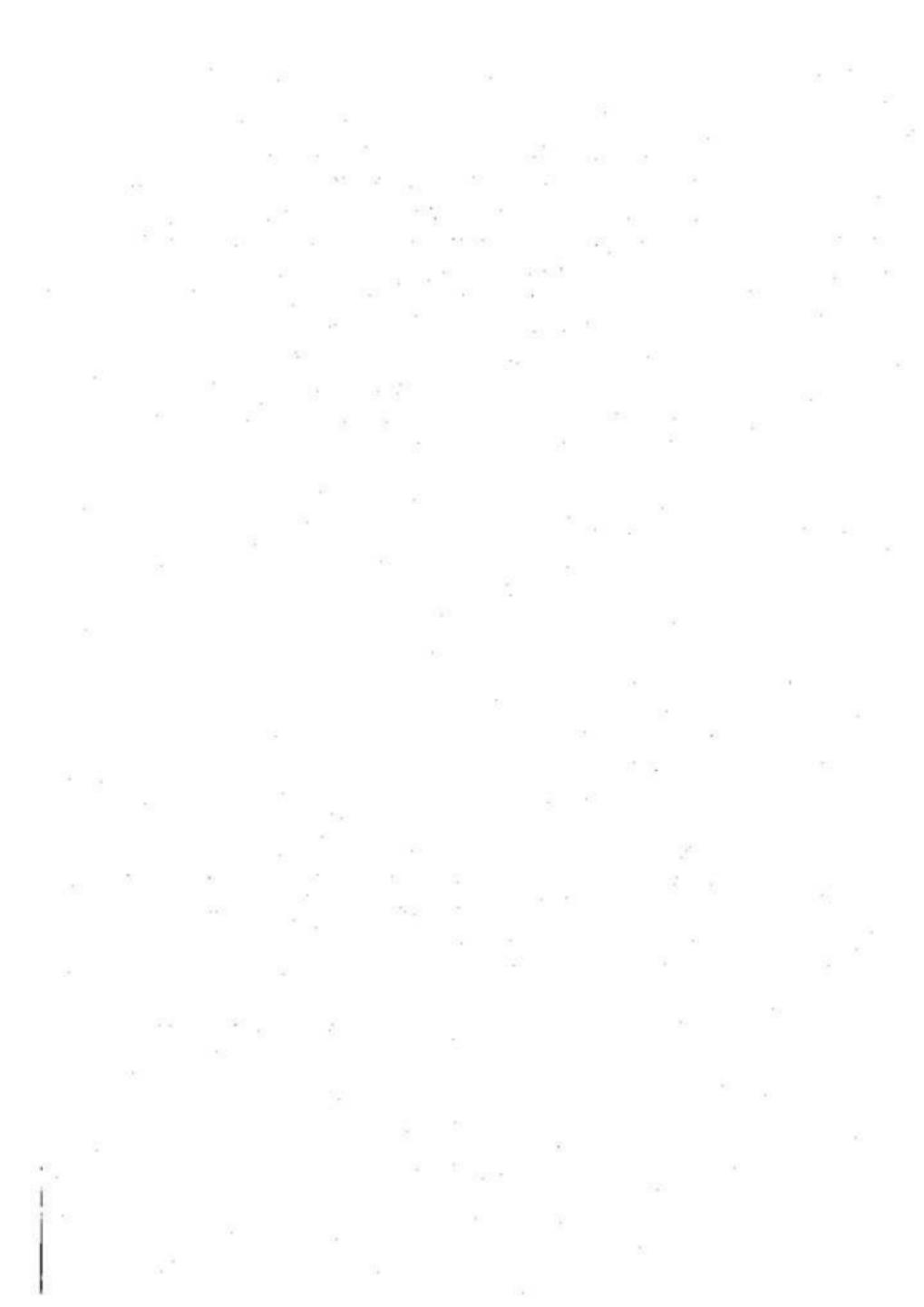
12月18日(木) 雨天のため整理作業。図面整理、遺物水洗作業。

12月19日(金) 上原遺跡-1トレンチは写真撮影。遺物出土状況平板実測作業。5トレンチは遺物出土状況平板実測作業。土層断面実測作業。平原A遺跡-3から7トレンチまでは埋め戻し作業。8・9トレンチは埋め戻し作業。平原B遺跡-1・2・3・4トレンチ埋め戻し作業。樽野遺跡-1から4トレンチまで埋め戻し作業。

12月22日(月) 樽野遺跡-4トレンチは埋め戻し作業。上原遺跡-1トレンチは写真撮影。土層断面実測作業。3・5トレンチは埋め戻し作業。平原A遺跡-2トレンチは土層断面実測作業。埋め戻し作業。各遺跡のトレンチ配置図作成。潤ヶ野遺跡-11トレンチは埋め戻し作業。プレハブ設置場所耕運作業。発掘機材・器具かたづけ作業。機材運搬作業(文化会館)。

12月23日(火) 各遺跡について遠景写真撮影。町教育委員会へあいさつ。整理作業について打合せ。

整理作業は、県教育庁文化課埋蔵文化財重富収蔵庫において、昭和61年12月23日から昭和62年3月31日まで実施し、報告書作成のための作業を行なった。



第2章 遺跡の位置と環境



第2章 遺跡の位置と環境

遺跡の所在する志布志町は、鹿児島県の南東部で大隅半島の東海岸。南面する志布志湾のはば中央部に位置する。

南は、すべて志布志湾に接し本町部分で約10kmの長さである。この海岸線は幅約1kmの細長い平野部を経て背後のシラス台地となる。内陸部は約24kmを測り釣鐘状の平面形を呈する。

行政区画でいえば、北東から東側は宮崎県都城市および串間市に接して県境となし、北西から西側は、曾於郡松山町、有明町と接する。

交通のうち国鉄は、志布志駅を基点として志布志線・大隅線・日南線が三方に通じ、港は、志布志湾唯一の商港として上代から発展し、現在では国の重要港湾の指定を受け大形新港や埋立地には多くの畜産基地も立地する一方、阪神地方と結ぶ大型カーフェリーが寄港するなど、陸上及び海上交通上の要衝となっている。

志布志町の地形を概観すると、北西部の御在所岳（標高530m）を最高峰に、志布志湾に向かってゆるやかに傾斜し、海岸近くで急崖となったあとわずかな沖積平野を経て志布志湾に連なっている。

このうち南面する海岸線は、ほぼ中央に位置する市街地を狭んで、西側は砂丘海岸が続くに比べ、東側は日南層群で構成される岩礁海岸となっている。約40mの海食崖が特異な景観をみせているところもある。

なお、市街地は比高差約40mのシラス台地の海食崖下に生じた古期砂丘上に立地している。

内陸部は、北部から東部にかけての山岳地帯である。この山岳地帯は、主に新生代古第三期の地層と考えられている日南層群よりなる雨那珂山系の西端域となり。これより西へ広がる姶良カルデラの生成になるシラス台地が広大にひろがっている。

このシラス台地には、この山系より派生する残丘山地が北東より南西方向に、散発的にしかも小起伏となって伸びている。

シラス台地は、南流する前川や安楽川等大小の河川によって形成された深い侵食谷によって分断され、さらにその支流の侵食作用によって樹枝状にのびる谷頭侵食で細かく刻まれ、大小幾多の狭長な台地を作っている。

このようにシラス台地を侵食する河川のうち安楽川は、志布志町の西側にあり延長約24kmを



枕 槍 島

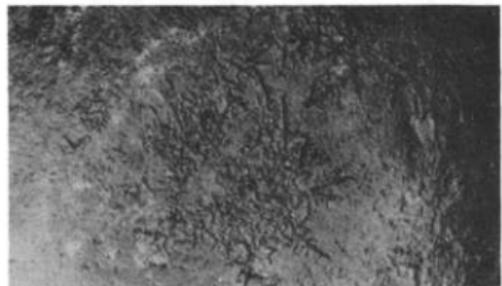
測るもので、南流して志布志湾に注いでいる。東側は延長約15kmの前川が南流し、同様に志布志湾に注いでいる。

なお、北部の四浦地区には大矢取川が宮崎県串間市を経て志布志湾に注いでいる。これらの河川のうちの安楽川には、元来熱帯に分布し、急流中に生育する水生の顕花植物のカワゴケソウが生育している。

一方、南面する志布志湾の沖合を黒潮が流れているため温暖な気候に恵まれている。

沖合4kmに浮かぶ桜島は、周囲約4km、面積17.7haの無人島で、ビロウ、アコウ、クワズイモ等が繁茂し、熱帯の森林をしのばせる。この桜島は、「桜島亜熱帯性植物群落」として国指定となっている。

以上、志布志町の自然環境を概観したが、この自然の豊かな恵み恩恵を受けて、古くより人々の営みがあった。



カワゴケソウ

昭和60年発行の「志布志町の埋蔵文化財」によると、先史時代の遺跡は159ヶ所にのぼり、特に縄文時代の遺跡の多さにおどろくのである。

これ等の遺跡の多くは、山稜に付随する山麓台地上、あるいはその縁辺部に多く立地している。多くの遺跡のうち、東黒土田遺跡は、前川上流の宮崎県境に近い八郎ヶ野の台地上にあり、昭和55年12月、河口貞徳、瀬戸口望両氏によって発掘調査が実施された。調査の結果、隆帶文土器、舟型石組遺構等のほか、貯藏穴より多量の木の実が出土した。木の実は落葉性の堅果類で放射性炭素測定の結果、 11300 ± 130 Y.B.P. の年代が与えられた。



片野洞穴

鎌石橋遺跡は、前川中流域の県道111号線を立花追集落で分岐し鎌石集落へ通じる鎌石橋を渡りきっと右側一帯の河岸段丘上に立地する。昭和56年2月、河口貞徳、瀬戸口望両氏によって調査が行われ、細石刃、細石核、剥片石器、ナイフ形石器、石錐のほか、隆帶文土器、前平式土器、塞ノ神式土器、曾煙式土器等が出土し、炉跡や石組遺構等も検出された。

両遺跡のうち隆帶文土器の出土は、本県ではきわめてめずらしく南九州における縄文時代早期の充実に不可欠な、そして貴重な資料を提供してくれた。

片野洞穴は、本町の北東部の片野集落の北約200mに位置し、入口幅約12m、奥行19m、高さ約4mを測る南面する水蝕洞穴で、入口近くには小川が蛇行している。昭和39年8月河口貞徳氏等により発掘調査が実施された。土器は、轟式土器、曾畠式土器、岩崎上層式土器、市来式土器、西平式土器及び弥生式土器等が出土し、石器は少なかったが、獸骨は多く出土した。



倉園B遺跡

倉園B遺跡は、前川上流約12kmの北側台地上に立地し、昭和57、58年に農業基盤整備事業に伴い発掘調査が実施された遺跡である。

発掘調査の結果、石坂式土器、吉田式土器、前平式土器等の土器の他、竪穴式住居跡、土塁集石、配石等の遺構も検出された。

なかでも連続式土塁10基は鹿児島市の加栗山遺跡につぐものであり、土器や他の遺構とともに縄文時代早期の解明に貴重な資料を提供してくれた。

また、昭和59年5月には個人の宅地造成に伴って中原遺跡が発掘された。

中原遺跡は、安楽川と小瀬川に挟まれた舌状台地の先端部に近い傾斜面に立地する。

中原遺跡の土器は、縄文時代中期終末から後期初頭にかけての遺物がほとんどで、南福寺式土器や阿高式土器系の類似土器、磨消繩文、擬似繩文、指宿式土器等が多量に出土し、特に磨消繩文系で、瀬戸内地方の福田K II式の完形に近い土器が出土したことは、この期の文化の伝播や交流を考える上で貴重な資料である。



中原遺跡出土土器

石器は、大型磨製石斧、小型ノミ状石器や約400個をこえる石錐や、約1000個の土製加工品（メンコ）、性器や勾玉を模した軽石製加工品、土器の器面調整に使用したとみられる軽石製の調整具等が出土し、貴重な資料を提供してくれた。

以上の遺跡のほか、縄文時代を中心とする遺跡は、石踊遺跡、野久尾遺跡、小瀬遺跡、山上遺跡、弓場ヶ尾遺跡、柳遺跡、倉園A遺跡、倉園B遺跡等多数にのぼり、多くの発掘による成果も報告されている。

弥生時代の遺跡では、夏井海岸遺跡や横尾下遺跡等が從来から知られた遺跡であるが、縄文時代に比較して極端に少ない。

夏井海岸遺跡からは、有肩石斧、扁平打製石斧、叩石、石錐等多数の石器類が出土している。

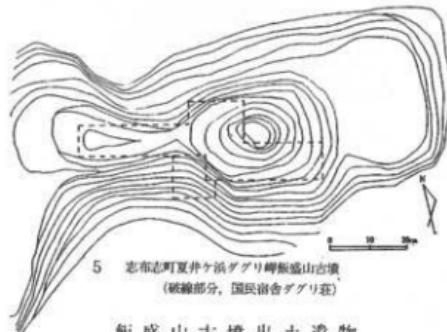
横尾下遺跡では、弥生時代中期の壺形土器が出土し、近辺からは有肩石斧等も出土しており

今後多くの遺跡の発見の可能性は高い。

古墳時代では、本町が置かれた地理的位置と、肥沃な肝付平野をひかえた自然条件により早く高塚古墳を受容することになる。

本町の東側の夏井のダグリ岬は標高約50mの岬であるが、この岬上に飯盛山古墳が立地する。飯盛山古墳は、昭和38年の国民宿舎建設で破壊されたが、当時の測量図から古墳は前方部の低い古式の前方後円墳で、全長約80m、前方部の長さ43m、幅20m、高さ1.5m、後円部の長さ37m、幅30m、高さ4.5mの大きさで周囲は高さ約1mの玉石でめぐらされていたといわれる。

この玉石はおそらく葺石と思われる。内部構造は竪穴式石室であったようである。



飯盛山古墳出土遺物



中原遺跡出土土器

遺物は、壺形埴輪、ガラス製勾玉、丸玉、小玉が出土している。

これらのことから本古墳は5世紀代のものと考えられ本県では最古の高塚古墳である。

このほか、本町の西端の安楽川の上流約1kmの台地先端部には前方後円墳と思われる小牧1号古墳が所在する。

ところが、南九州独自の墓制といわれる地下式横穴は、当地域に

に多く存在するにも関わらず、本町では未だ明確な発見例をみない。

古墳時代の墓制の1つに、横穴がある。本町ではシラスの急崖下に横穴を掘ったものが六月坂で確認されている。

この横穴から出土した須恵器によれば、古墳時代後期から奈良時代にかけてのものといわれる。

以上のはか、歴史時代になると
山宮神社境内出土の青白磁の合子
や藏骨器もある。

これまで、発掘調査の成果をも
とに本町の先史時代を概観してき
たところである。

本町では、縄文時代の遺跡が多
く立地し、今後の研究に寄与する
ところ大であり。古墳時代は、本
県最古の高塚古墳を有する町とし
て地理的、歴史的にも貴重である。

以上、主に発掘調査が実施されたうちの比較的最近の調査例をもって、本町の先史時代を概
観した。

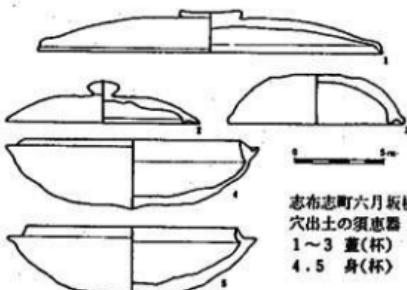
ところで、今回発掘調査を実施したのは都合7遺跡であるが、地形的には2区分するこ
ができる。1つは、出口B遺跡、潤ヶ野遺跡、東原遺跡で、平原A遺跡、平原B遺跡、上原遺跡、
梅野遺跡が1つである。

出口B遺跡等は、志布志町の市街地より北東約4.5kmの通称潤ヶ野台地一帯に位置する。

遺跡は西より出口B遺跡、潤ヶ野遺跡、東原遺跡となる。遺跡の所在するところは、前川の
中流域で、下刻作用が激しいため小規模の渓谷をつくり蛇行しながら流れている付近で、前川
左岸で帶状台地となる。遺跡は県道大堂津・志布志線よりのびる町道小川内線が台地のほぼ中
央を略南し、この道路の西側と東側とに分される傾斜地や台地縁辺部に立地する。この台地
は、それぞれの畑地で畑地造成が行なわれ、削平を受けている。

平原A遺跡等は、本町の北西部の志布志町内之倉の一帯に位置する。

遺跡は東より平原A遺跡、平原B遺跡、上原遺跡、梅野遺跡となる。遺跡の所在するところ
は、安楽川及び安樂川の支流の森山川によって侵食された侵食谷によって台地は基部を除き孤
立し、長さ約2km、幅約400mの舌状の台地となる。この台地中央部には町道梅野・山久保線
が走り、この道路を中心にして台地は北面と南面する傾斜に分かれ。遺跡は、この両面する
傾斜地ないしは台地縁辺部に立地する。かつては緩傾斜を呈していたものと考えられるが、現
在は畑地造成のため削平の個所が著しい。



六月板横穴出土遺物

志布志町六月板横
穴出土の須恵器
1~3 盆(杯)
4.5 身(杯)

周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代	出土遺物	備考
1	野久尾	帖野首	縄文	撚糸文、轟式、春日式 指宿式、石錠	志布志町埋蔵文化財 発掘調査報告書(2)
2	石踊	# 石踊	#	石坂式、吉田式、塞ノ神 式、轟式、曾畠式、岩崎式	" (3)
3	蓑輪	# 蓑輪	縄文・弥生	吉田式、山口式、石錠	" (4)
4	柳	# 柳	タタ	石坂式、吉田式、押型文 撚糸文、住居跡、集石	" (4)
5	十字	内之倉十文字	縄文	岩崎上・下層式、指宿式 石錠、石錘	" (5)
6	柳井谷	帖柳井谷	#	岩崎上・下層式、指宿式 市来式、草野式、黒川式	" (6)
7	倉園B	内之倉倉園	#	石坂式、吉田式、前平式 連穴土埴、集石	" (7)
8	池野	# 池野	#	春日式、石斧、石皿	" (8)
9	井手平	# 井手平	旧石器・縄文	細石核 吉田式、前平式、塞ノ神式	" (8)
10	中原	安楽中原	縄文	指宿式、福田KII式 加工品(石製、土製、軽石製)	" (9)
11	倉園A	内之倉 大原	#	岩崎上・下層式、指宿式 鐘ヶ崎式、石皿	" (10)
12	土光	# 土光	#	轟式、春日式、大平式、 塞ノ神式、石錠、石皿	" (10)
13	風穴	# 風穴	#	石坂式、塞ノ神式 磨石、石皿	" (10)
14	山久保A	田之浦山久保	#	阿高式、黒川式、入佐式	" (11)
15	山久保B	# #	#	塞ノ神式	" (11)
16	小追	# 小追	#		" (11)
17	山口B	帖野久尾		本文	" (12)
18	潤ケ野	# 上ノ原		タ	" (12)
19	東原	# 東原		タ	" (12)
20	平原A	内之倉 平原		タ	" (12)
21	平原B	# #		タ	" (12)
22	樽野	# 樽野		タ	" (12)

第1表

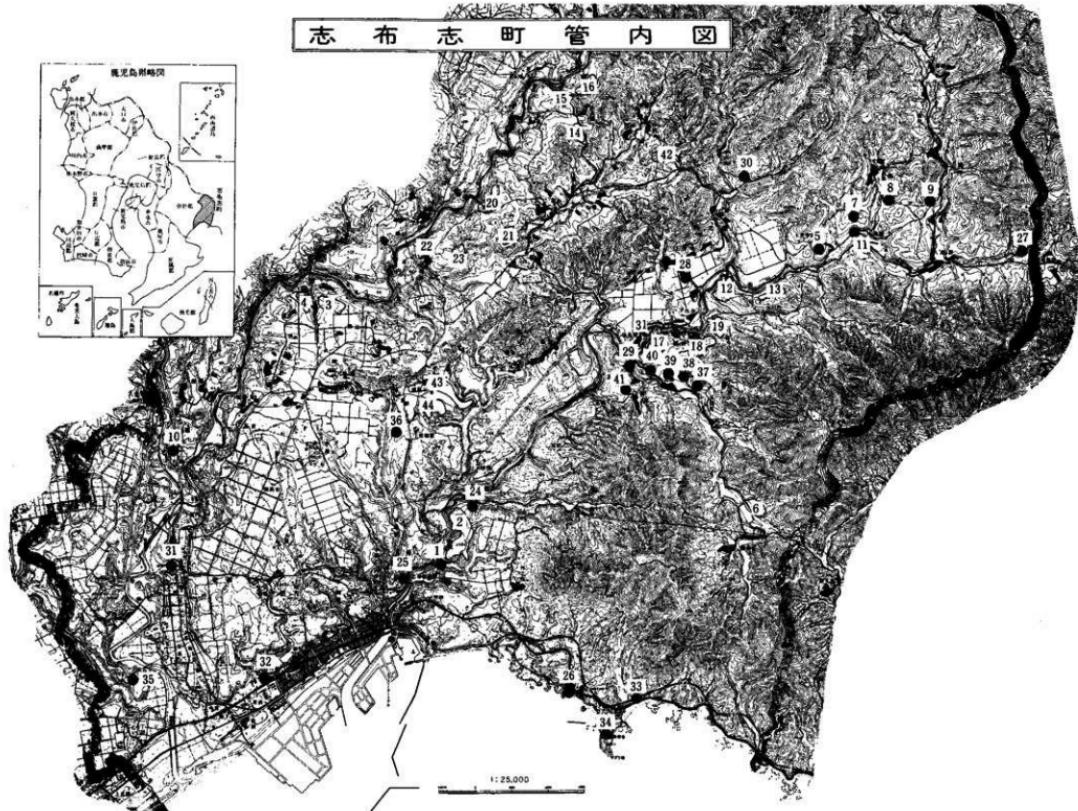
周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代	出土遺物	備考
23	上原	内之倉 上原		本文	志布志町埋蔵文化財調査報告書(1)
24	山之上	帖 石踊	繩文	石坂式、塞ノ神式、石核	鹿児島考古第5号
25	小 潟	" 小潟	"	岩坂上・下層式、指宿式、市来式、草野式、石錐	"
26	夏井ヶ浜	夏井 前田	"	御領式、大石式、三万田式、石斧、石鎌、石錐	" 第7号
27	東黒土田B	内之倉東黒土田	"	隆蒂文、平格式、塞ノ神式木ノ実貯藏穴、舟型石組	" 第14・15号
28	上出水	内之倉 東原	"	石坂式、吉田式石斧、磨石、住居跡	" 第16号
29	鎌石橋	帖 前畠	"	隆蒂文、前平式、塞ノ神式、曾畠式、細石核、細石刃	" 第16号
30	片野洞穴	内之倉中川内	繩文・弥生	轟式、曾畠式、岩崎上層式、市来式西平式	"
31	山宮土壙	安楽 上宮内	平安	仿製鏡、直刀、骨壺	志布志町誌上巻
32	水ヶ迫土壙	志布志水ヶ迫	奈良	土師器、骨壺	"
33	打出ヶ浜古墳	夏井 堀ノ内	古墳	小石で固めた石棺男女三人の墓葬	"
34	飯盛山古墳	" 車田	"	ガラス丸玉2個、小玉2個勾玉1個、壺形埴輪	"
35	小牧1号古墳	安楽 小牧	"	土師器、須恵器、鉢石加工品	志布志の埋蔵文化財
36	島廻	帖 島廻	弥生		
37	堂ノ下	" 堂ノ下	繩文	指宿式、市来式、草野式磨石、石皿、石斧	
38	家ヶ野	" 家ヶ野	"	"	
39	天 堀	" "	"	"	
40	松 崎	" 松崎	"	"	
41	鎌 石	" 鎌石	"	吉田式、薄圧痕土器石斧	
42	道 重	内之倉弓場ヶ迫	"	押型文、塞ノ神式、阿高式石斧	
43	上 牧	帖 上牧	"		
44	白木牛田	" 白木牛田	繩文・弥生	石錐	

第1表



志布志町管内図



第3章 層 位

第3章 層位

潤ヶ野地区・平原地区的層序は、遺跡ごとに若干の違いはみられたが、大別して第2図のように10層に区分できる。遺跡ごとの詳細は各章で行った。

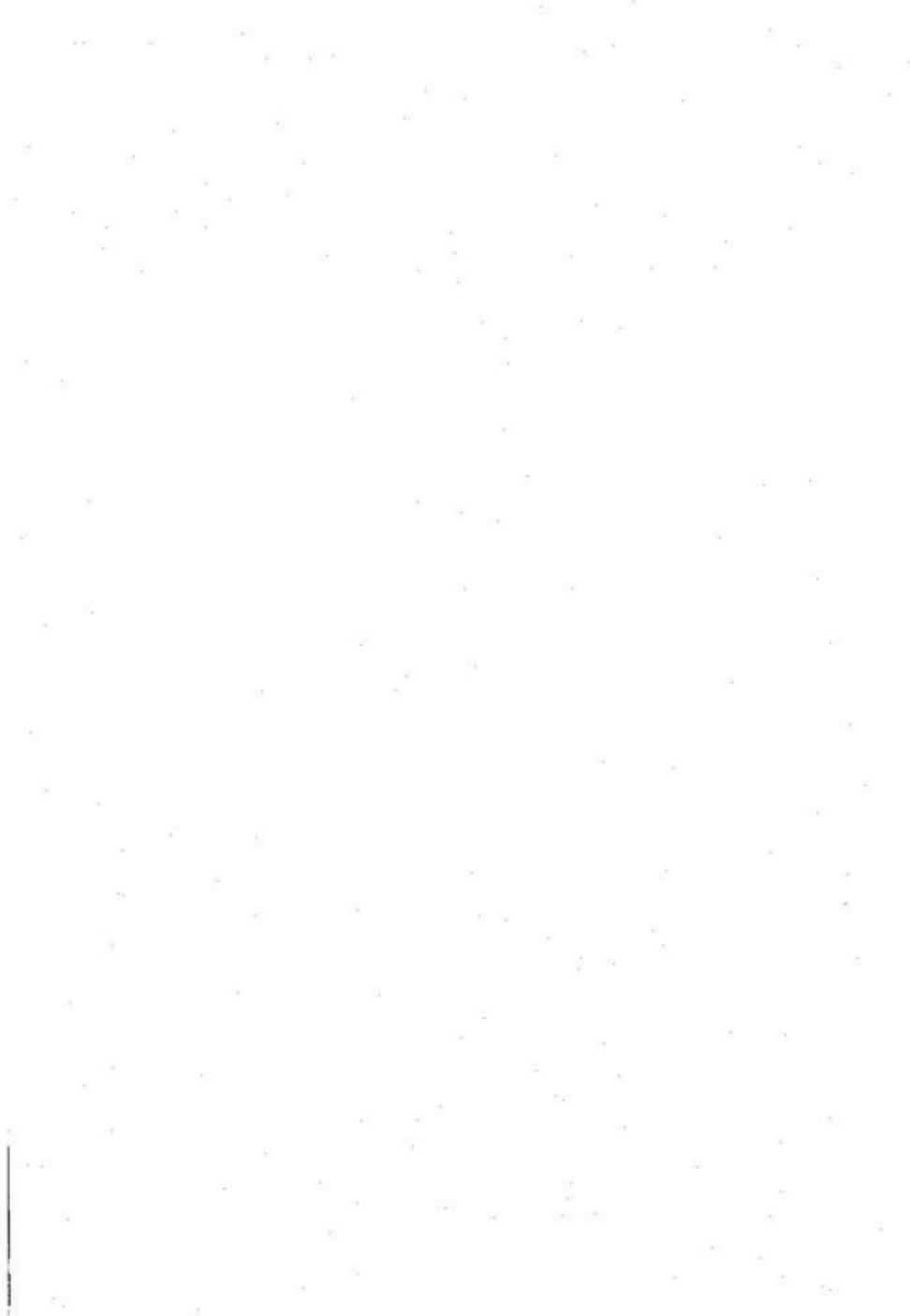
	X	V
I		
II		
III a		
III b		
IV		
V a		
V b		
VI		
VII		
VIII		
IX		

- I 層 黒褐色火山灰土。耕作土であり、大正3年の桜島火山が堆積しているところもある。色調・粒子の量などで2・3分されるところもある。
- II 層 黒色腐植火山灰土。黒色微粒の火山灰土で、やや粘質を帯びる。奈良～平安時代の遺物を包含している。
- III a層 淡黒褐色火山灰土。やや粘質を帯びた火山灰土で、縄文時代晚期の遺物を包含している。
- III b層 暗褐色火山灰土。やや粘質を帯び、上部には霧島火山御池軽石に対比できる微粒の軽石がみられる。
- IV 層 暗褐色火山灰土。
- V a層 明黄褐色火山灰土。やや粘質を帯び、径1～2cmの軽石混じりである。
- V b層 黄褐色軽石。ブロック状にはいるところが多く、約6300年前の鬼界カルデラ起源のアカホヤ（幸屋火碎流）に対比される。
- VI 層 黒褐色火山灰土。濃い黒色で粘質が強く、若干の軽石を含む。乾くとクラックが発達する。
- VII 層 淡黄褐色火山灰土。VI層の下位にブロック状にはいるところが多く、風化がはげしく粘土化しているところも多い。約11,000年前の桜島起源の軽石（薩摩）に対比できる。
- VIII a層 黑褐色粘質火山灰土。極めて微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。
- VIII b層 褐色粘質火山灰土。微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。
- IX 層 黄シラス。VII層との漸移層である。
- X 層 シラス。約22,000年前の姶良カルデラ起源のシラス（入戸火碎流堆積物）に対比できる。

* V b層とVI層の間に地域においては次の層位がみられるところもある。

- a層 青灰色軽石混土。青灰色を帯びたやや硬質の火山灰土で、5mm～1cmの大の黄色軽石を含む。
- b層 黄白色軽石。径1～2cmの黄色軽石で、層の中程には砂粒、岩片をレンズ状にはさんでいる。桜島火山第Ⅳ降下軽石に対比できる。

第2図
土層模式柱状図

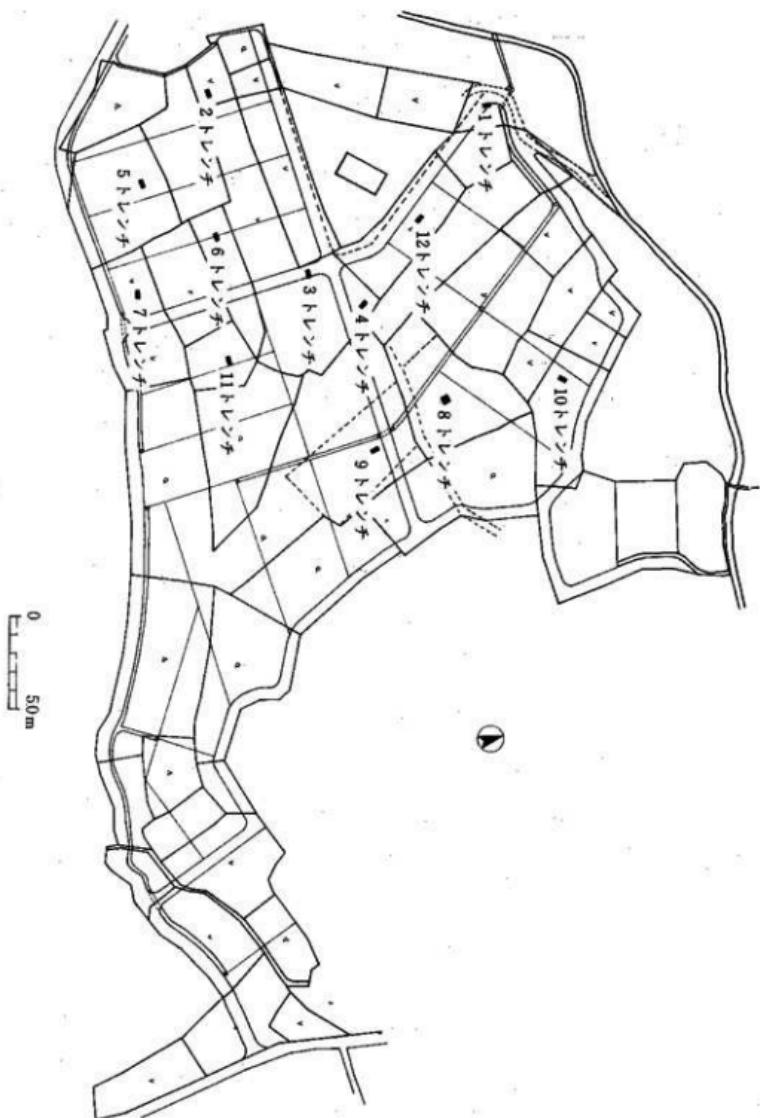


第4章 出口B 遺跡





第3図 出口B遺跡周辺地形図



第4図 出口B 遺跡トレンチ配置図

第1節 出口遺跡の調査概要

出口B遺跡は、曾於郡志布志町帖野首に所在する。立地としては笠紙岳（標高444m）の裾野にあたる台地上にある。標高70~85mの台地で遺跡は台地の西端にあたる。台地北側を前川が西進し、南側を大畠川が流れ前川と合流する。前川よりの比高は約40mである。

前川沿いは、周辺遺跡でも述べたように縄文時代の遺跡が多いところである。低地周辺にわずかに立地する弥生遺跡を除けば、ほとんどの遺跡が縄文時代のもので、その密度はかなり高い。前川は湧水箇所が多く、県指定のウスカワゴロモの生息地として知られている。遺跡下位の船迫橋の付近にも枯れることなく湧きでている。大畠川が前川に合流する手前に、集石炉を検出した鎌石橋遺跡が所在し、前川の河岸段丘には独鉛石を2点出土した出口A遺跡がある。

出口B遺跡は、4m×2mのトレンチを12ヶ所、任意に設定し調査した。

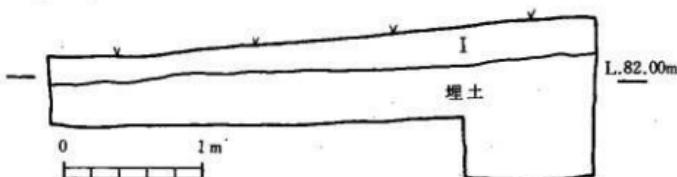
第2節 各トレンチの調査

1トレンチ（第5図）

入り口際の畠地に、南北に長い2m×4mのトレンチを設定し掘り下げた。以前個人で耕作地整理をおこなっている為、埋土が深く以前の耕作土を検出したところで調査を終了した。

土層

Ia層は現在の耕作土であり、Ib層はシラスとその他の土層の混土であり、他の地域よりの埋め土である。



第5図 1トレンチ土層断面図

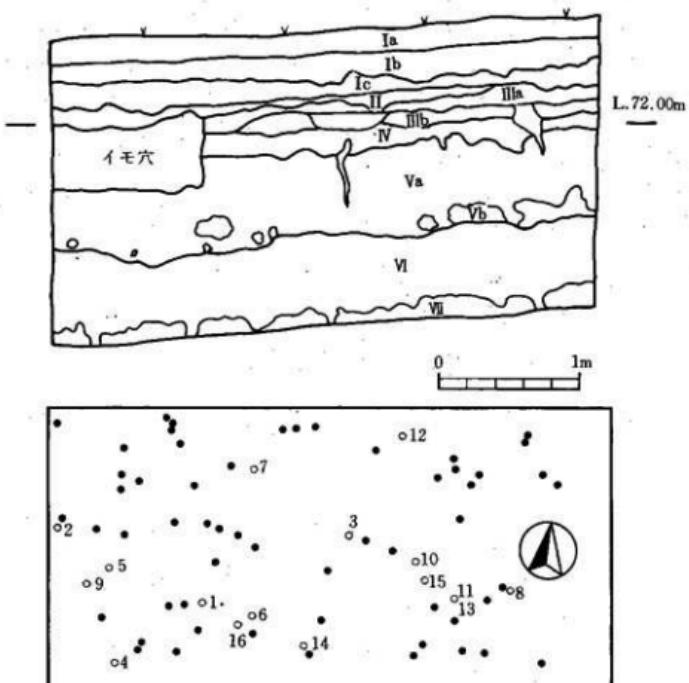
2トレンチ（第6・7図 図版6）

今回の土地改良事業の潤ヶ野工区の一番西端にあたるところで、1トレンチの南約150mに東西に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。その結果、縄文時代早期・弥生時代の遺物を出土した。

土層

2トレンチの土層は残存がよく、大正3年の桜島火山灰も検出できた。

Ia層 黒褐色の表土で東から西へ傾斜し、約20cmの厚さである。下位には大正3年の桜島火山灰が2~3cmの厚さで堆積している。Ib層は淡黒褐色で大正時代以前の耕作土である。10~



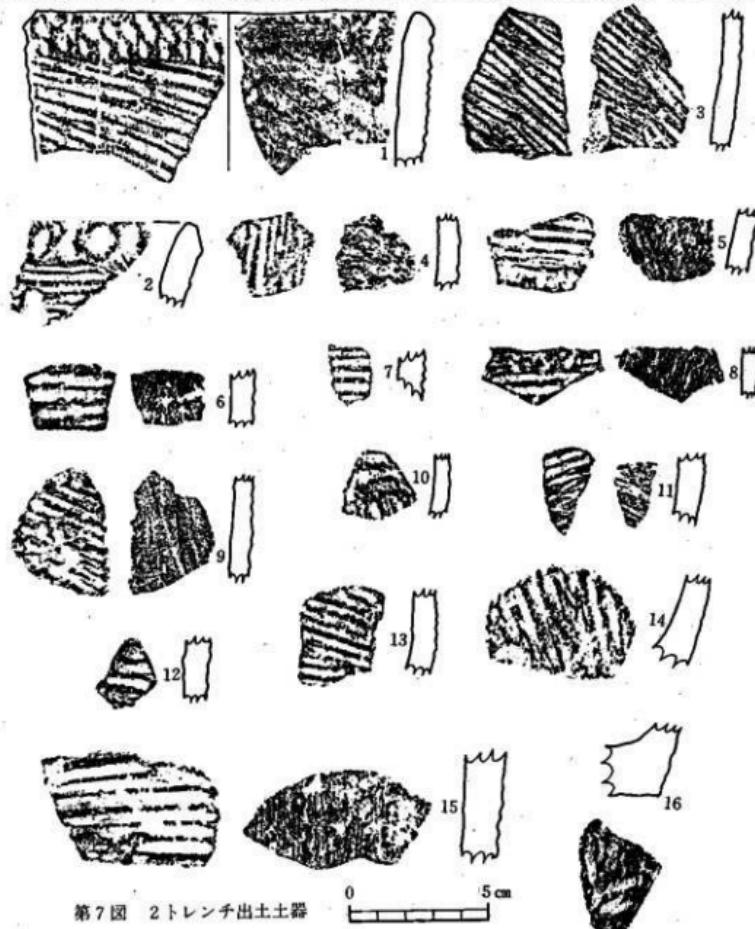
第6図 2トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

20cmの厚さがあり、東から西へ傾斜している。イモ穴と思われる。この層の落ち込みが数ヶ所みられた。II層は黒色の腐植火山灰土である。黒色微粒の火山灰層で、やや粘質を帯びる。奈良～平安時代の遺物が含まれていた。IIIa層は淡黒褐色土であり、10cm内外の厚さを呈する。IIIb層は褐色火山灰土でやや粘質を帯び、上部には轟島火山御池軽石に対比できる微粒の軽石がみられる。10～20cmの厚さがある。IV層は暗褐色土である。Va層は明黄褐色火山灰土で1～2cmの軽石混じりである。50～70cmの厚さである。Vb層は黄褐色軽石で、Va層の下位にブロック状にはいるところが多く、約6300年前の鬼界カルデラ起源のアカホヤ（赤屋火碎流）に対比されるものである。VI層は黒褐色火山灰土である。濃い黒色で粘質が強く、軽石を含まず、乾くとクラックが発達する。50～60cmの厚さを呈し、東から西へ傾斜している。VII層は淡黄褐色火山灰土。風化がはげしく粘土化しているところも多い。桜島起源の軽石層（薩摩）に対比できる。

遺物

II・III層41点、IV層30点の計71点出土した。II・III層の土器は小片で図化することは出来なかったが、胎土・器面等から判断すると弥生土器と思われる。VI層の土器の特徴は、器形は円筒形土器で、器壁が厚く、器面には横位または斜位方向の貝殻条痕がみられるものである。

1・2は口縁部である。1は、ヘラ状施文具による押圧文が口唇部と口縁部に施されている。外面には斜位方向にやや深い貝殻条痕が施され、内側口縁端部に線がみられる。内面は粗い



第7図 2トレンチ出土土器

ヘラ調整である。2は貝殻状施文具によって口縁端部外面に連続刺突押引文が施され、外面側部には横位に貝殻条痕文が施される。口唇部は平坦で、内面はヘラナデ整形がなされている。外面から内面にかけて穿孔が行われ、内面は狭い孔で貫通するものである。貝殻条痕整形後、荒いタッチで穿孔されている。3~15はやはり円筒形土器の胸部である。貝殻条痕が横位、斜位に施されている。3は内側に貝殻条痕が斜位に施され、その他はヘラ調整が認められる。16は円筒形土器の底部である。底部の形状は平底で比較的厚い。外底部に貝殻条痕が施されている。器形・文様等の特徴から前平式土器である。

第2表 2トレンチ出土土器一覧表

番号	土層	胎土	焼成	色調	
				外面	内面
1	Ⅳ	長石、石英	やや良	淡褐色	褐色
2	"	長石、石英	普通	褐色	褐色
3	"	長石、石英	やや良	暗褐色	淡赤褐色
4	"	長石、石英	普通	褐色	暗褐色
5	"	長石、石英	普通	淡茶褐色	暗褐色
6	"	長石、石英	普通	暗褐色	暗褐色
7	"	長石、石英	普通	暗褐色	暗褐色
8	"	長石、石英	やや良	褐色	暗褐色

番号	土層	胎土	焼成	色調	
				外面	内面
9	Ⅳ	長石、石英	普通	淡橙褐色	暗褐色
10	"	長石、石英	普通	淡茶褐色	暗茶褐色
11	"	長石、石英	やや良	茶褐色	淡茶褐色
12	"	石英	普通	淡褐色	淡褐色
13	"	石英	普通	淡褐色	褐色
14	"	石英	やや粗	暗褐色	暗茶褐色
15	"	石英	普通	褐色	淡褐色
16	"	石英	普通	淡橙褐色	褐色

3トレンチ(第8図、図版4)

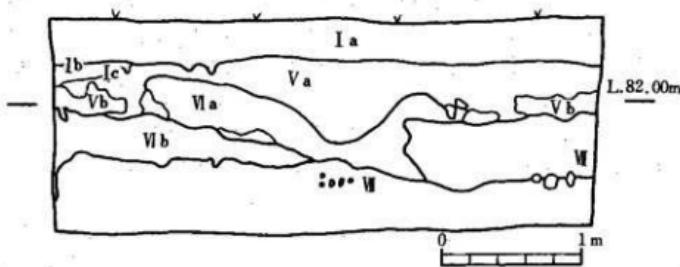
2トレンチの東約140mに東西に長い4m×2mのトレンチを設定し堀り下げた。

土層

Ia層は黒褐色の耕作土で、30~40cmの厚さである。西側の下位には大正3年の桜島火山灰が5cm前後みられる。Ic層は淡黒褐色土で大正噴火以前の耕作土である。西側でみられる。3トレンチではII~IV層は削平されている。トレンチ中央部は土層が複雑にいりこみ、風倒木等の変動があったものと思われる。Va層は明黄褐色火山灰土で、径1~2cmの軽石が混じっている。20cm内外の厚さをもち、中央部ではくぼみがみられる。Vb層は黄褐色軽石で、鬼界カルデラ起源のアカホヤ(幸屋火碎流)に対比される。Vla層は淡黒褐色土でやや粘質をもつ層で、中央部のくぼみ部にみられる。Vlb層は黒褐色火山灰土である。濃い黒色で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。40~50cmの厚さを呈する。Vi層は淡黄褐色火山灰土で、Vi層の下位にブロック状にはいっている。風化がはげしく粘土化しているところも多い。桜島起源の軽石層(薩摩)に対比できる。Vii層は黒褐色粘質火山灰土で極めて微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。下位になるにしたがって乳白色がかかってくる。

遺物

3トレンチでは遺物は皆無であった。



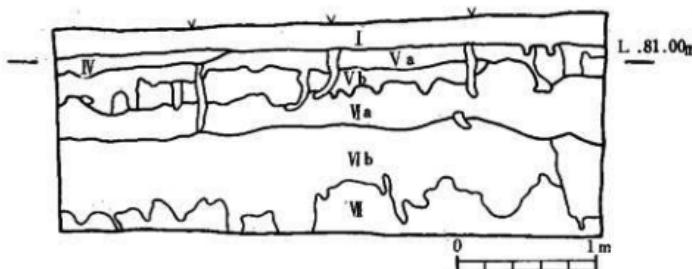
第8図 3トレンチ断面図

4トレンチ (第9図)

3トレンチの北東約30mに、南北に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。

土層

I層は黒褐色の耕作土で20m30cmの厚さである。II～IV層は削平されている。IV層は暗褐色



第9図 4トレンチ断面図、遺物出土分布図

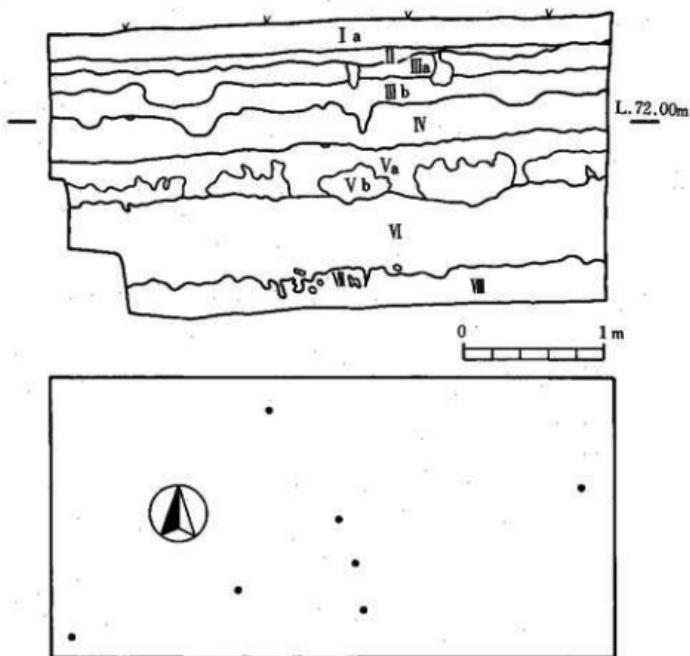
土である。北側では10cm内外残存しているが、南側では削平されている。Va層は明黄褐色火山灰土で、径1cm内外の軽石が混じる。若干削平されているが、10cm内外の厚さを呈する。Vb層は黄褐色軽石で、鬼界カルデラ起源のアカホヤ（幸屋火碎流）に対比される。Va層の下位にブロック状にみられるところもある。10~30cmの厚さを呈する。Via層は淡黒褐色土でやや粘質をもつ層で30~40cmの厚さで北から南へ傾斜している。Vib層は黒褐色火山灰土である。濃い黒色で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。40~50cmの厚さを呈する。VII層は淡黄褐色火山灰土で、桜島起源の軽石層（薩摩）に対比できる。

遺物

遺物はVia層の淡黒褐色土から1点だけ出土した。色調は、内・外面とも黄褐色を呈し、胎土に角閃石、長石・石英、細礫を含み焼成は良好である。形式名がわかる文様等は認められなかったが、土層、器面等より縄文時代早期に相当するものと思われる。

5 トレンチ（第10図）

2トレンチの南東約60mに東西に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。



第10図 5トレンチ断面図、遺物出土分布図

土層

I層は黒褐色の耕作土で20cm内外の厚さである。II層は黒褐色腐植火山灰土で、黒色微粒の火山灰土層で、やや粘質を帯びる。東側では削平されているが、10cm内外の厚さで西へ傾斜している。IIIa層は淡黒褐色七層で10~20cmの厚さを呈し東から西へ傾斜している。IIIb層は褐色火山灰土層でやや粘質を帯び20~30cmの厚さを呈する。IV層は暗褐色I層で30cm内外の厚さを呈し、東から西へ傾斜している。Va層は明黄褐色火山灰土層で、径1cm内外の軽石混じりである。Vb層は黄褐色軽石層でVa層の下位にブロック状にはいるところが多く、約6300年前の鬼界カルテラ起源のアカホヤ（幸星火碎流）に対比される。VI層は黒褐色火山灰土層である。濃い黒色で粘質が強く、軽石は含まず、乾くとクラックが発達する。50~60cmの厚さを呈する。VII層は淡黄褐色火山灰土層で、VI層の下位にブロック状にはいっている。風化がはげしく粘土化しているところも多い。桜島起源の軽石層（薩摩）に対比できる。VIII層は黒褐色粘質火山灰土で、極めて微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。

遺物

IIIb層2点、Va層4点、VI層1点の計7点出土した。土器は細片の為、形式名がわかる文様は認められなかったが、土層・器面等より縄文時代早期~後期に相当するものである。

6トレンチ（第11図）

5トレンチの北東約50mに東西に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。

土層

I層は黒褐色の耕作土で、20~30cmの厚さである。II~IV層は削平されている。IV層は暗褐色土である。東側では10cm内外残存しているが、西側では削平されている。Va層は明黄褐色火山灰土で、径1~2cmの軽石が混じる。若干削平されているが、40~60cmの厚さを呈する。Va層は黄褐色軽石で、約6300年前の鬼界カルテラ起源のアカホヤ（幸星火碎流）に対比される。Vb層の下位にブロック状にみられる。10~20cmの厚さを呈する。VI層は黒褐色火山灰土である。濃い黒色で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。50~60cmの厚さを呈し、東から西へ傾斜している。VII層は淡黄褐色火山灰土で、約11000年前の桜島起源の軽石層（薩摩）に対比できる。

遺物

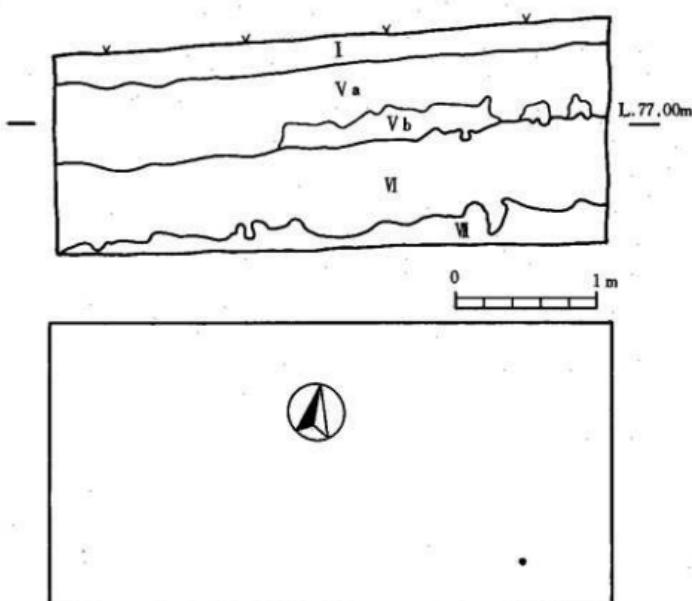
遺物は表層から3点とII層上面から1点出土した。II層上面の遺物の色調は黄褐色を呈し、胎土に角閃石・長石・石英を含んだ土器で細片の為、文様等は不明である。

7トレンチ（第12図、図版5）

5トレンチの東約60mに東西に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。

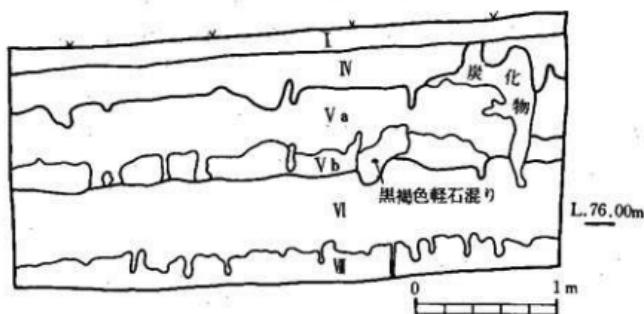
土層

I層は黒褐色と耕作土で、20cm内外の厚さである。II~IV層は削平されている。IV層は暗褐



第11図 6トレンチ断面図、遺物出土分布図

色土で20~30cmの厚さを呈し、東から西へ傾斜している。Va層は明黄褐色火山灰土で、径1cm内外の砾石が混じる層である。60cm内外の厚さを呈し、やはり東から西へ傾斜している。Vb層は黄褐色軽石で、約6300年前の鬼界カルデラ起源のアカホヤ（幸屋火碎流）に対比される。Va層の下位にブロック状にみられる。20cm内外の厚さを呈する。一部にVa層の下位に20cm厚さの



第12図 7トレンチ断面図

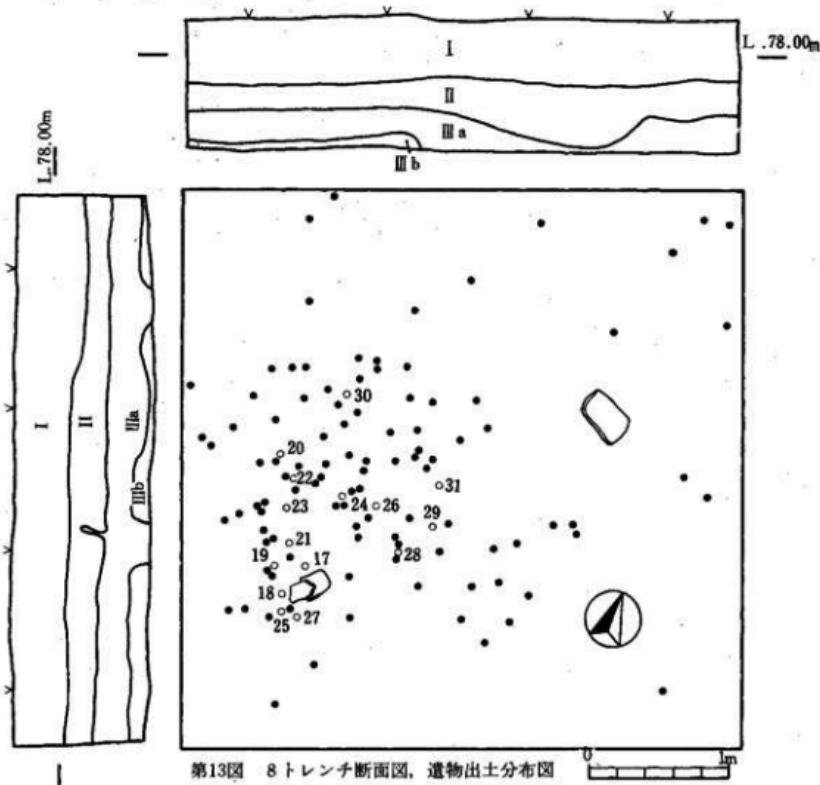
黒褐色バミス混じり層が混入する部分がある。VI層は黒褐色火山灰土層である。濃い黒色で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。50~60cmの厚さを呈し、東から西へ傾斜している。VII層は淡黄褐色火山灰土層で、約11,000年前の桜島起源の軽石層（薩摩）に対比できる。

遺物

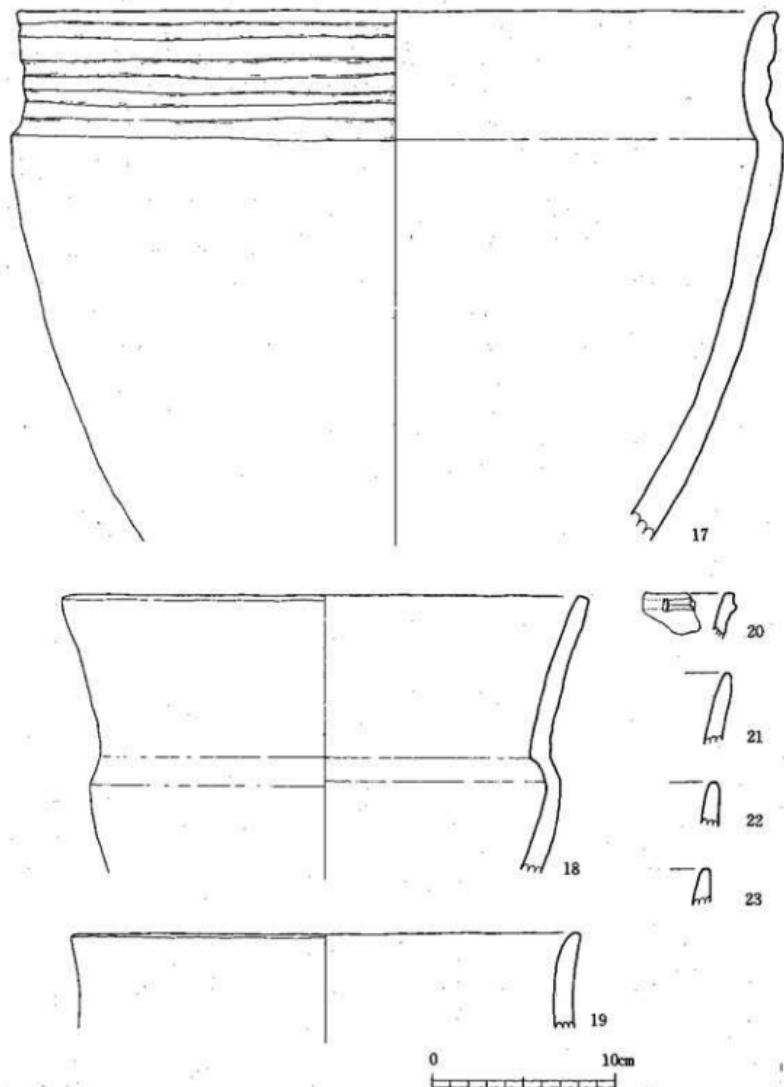
7トレンチでは遺物は皆無であった。

8トレンチ（第13~15図・図版2・3・5・6・7）

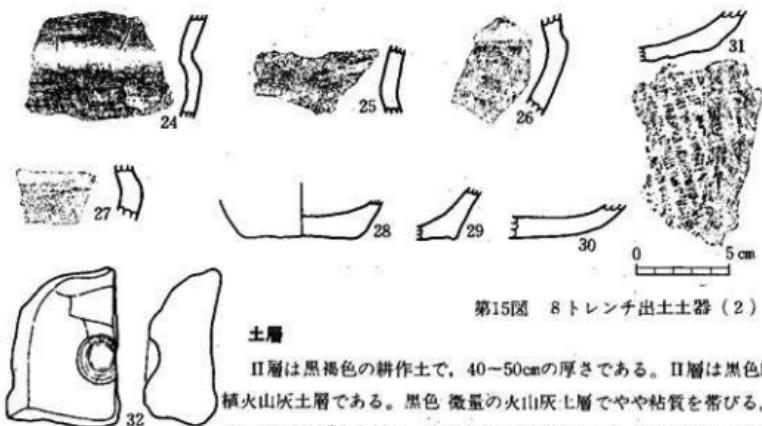
4トレンチの東約60mに北東に長い4m×2mのトレンチを設定し、掘り下げた。その結果、IIIa層で縄文時代の遺物が多量に出土し、遺構の可能性も出てきたため、東側を拡張し4m×4mのトレンチとなった。



第13図 8トレンチ断面図、遺物出土分布図



第14図 8トレンチ出土土器(1)



第15図 8トレンチ出土土器(2)

土層

II層は黒褐色の耕作土で、40~50cmの厚さである。II層は黑色腐植火山灰土層である。黒色 微量の火山灰土層でやや粘質を帯びる。20~30cmの厚さを呈し、南から北へ傾斜している。IIIa層は淡黒褐色土層で20cm内外の厚さを呈する。縄文時代晩期の遺物が含まれていた。IIIb層は褐色火山灰土層である。やや粘質を帶び、上部には霧島火山御池軽石に対比できる微粒の軽石がみられる。

遺物

遺物はIIIa層に出土した。17~23は口縁部である。17は口縁外面に4条の沈線を横方向に巡らし、内外面とも丁寧なヘラナデ調整を施したものである。18は口径28.5cmを測り、胴部から外反する頭部が「く」字をなして内面に稜を施している。17・18とも三万田式に相当する。20は口縁端下部に貼付け刻目突帯が施された深鉢形土器の口縁である。器面調整はヘラナデで、外面にススが付着している。21~23はやや外反する深鉢形土器の口縁である。24~27は「く」字状に屈曲した深鉢形土器の副部である。28~31は底部である。28・29は上げ底気味の底部で、28は底部口径6.2cmを測る。30は丸底でナデ調整を施している。31は席目压痕土器の底部である。この席目は織糸が1本である

第3表 8トレンチ出土土器・観表

番号	土層	胎土	焼成	色	調
				外	内
17	IIIa	長石、石英	良 行	淡茶褐色	暗茶褐色
18	*	長石、石英	やや良	茶褐色	暗茶褐色
19	*	長石、石英	やや良	暗茶褐色	暗茶褐色
20	*	長石、石英	普通	暗茶褐色	暗茶褐色
21	*	長石、石英	やや良	茶褐色	褐色
22	*	長石、石英	やや良	暗茶褐色	茶褐色
23	*	長石、石英	やや良	褐色	褐色
24	*	長石、石英	やや良	暗茶褐色	褐色

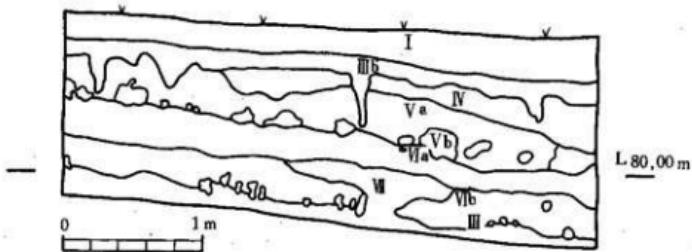
番号	土層	胎土	焼成	色	調
				外	内
25	IIIa	長石、石英	やや良	淡茶褐色	褐色
26	*	長石、石英	良好	淡褐色	淡褐色
27	*	長石、石英	良好	淡茶褐色	淡茶褐色
28	*	長石、石英	普通	褐色	暗茶褐色
29	*	長石、石英	良好	褐色	暗褐色
30	*	長石、石英	やや良	褐色	褐色
31	*	長石、石英	普通	暗茶褐色	黑色

9トレンチ(第16図)

8トレンチの南約40mに南北に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。

土層

I層は黒褐色の耕作土で20~30cmの厚さで南から北へ傾斜している。9トレンチの土層は南から北へ傾斜する地形に設定したため、土層は全てその方向へ傾斜している。II・IIIa層は削平されている。IIIb層は褐色火山灰土層である。やや粘質を帯び、上部には櫻島火山御池軽石に対比できる微粒の軽石がみられる。10~20cmの厚さを呈する。IV層は暗褐色土層で10~20cmの厚さを呈し、南側では検出されなかった。Va層は明黄褐色火山灰土層で、径1cm内外の軽石が混じる。30~40cmの厚さを呈している。Vb層は黄褐色軽石で、約6300年前の鬼界カルデラ起源のアカホヤ(幸屋火砕流)に対比される。Va層の下位にブロック状にみられる。10cm内外の厚さを呈する。VIa層は淡黒褐色土でやや粘質をもつ層で20~30cmの厚さを呈する。VIb層は黒褐色火山灰土層である。濃い黒色で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。30cm内外の厚さを呈する。VII層は淡黄褐色火山灰土で、Vb層の下位にブロック状にはいっている。風化がはげしく粘土化しているところも多い。桜島起源の軽石層(薩摩)に対比できる。VIII層は黒褐色粘質火山灰土層で、極めて微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。下位になるにつれて乳白色がかかる。



第16図 9トレンチ断面図

遺物

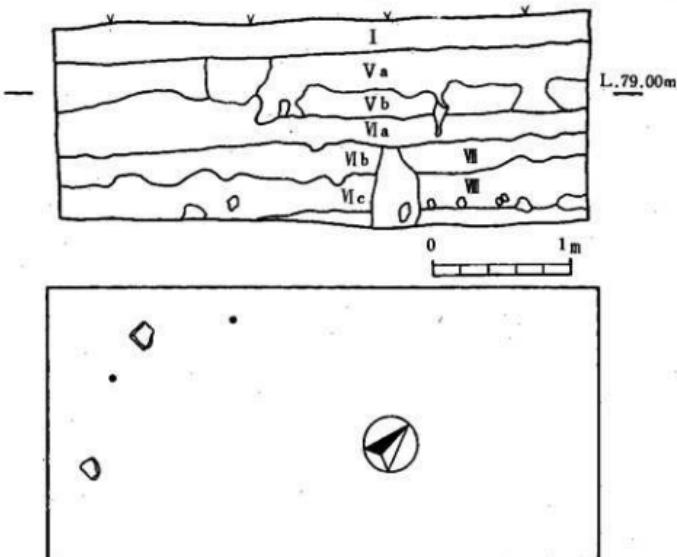
9トレンチでは遺物は皆無であった。

10トレンチ(第17図)

8トレンチの北約60mに東西に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。

土層

I層は黒褐色の耕作土で20~30cmの厚さで東から西へ傾斜している。II~IV層は削平されている。Va層は明黄褐色火山灰土層で、径1~2cmの軽石が混じり20~30cmの厚さを呈する。東側ではVa層の自然落ち込みがみられた。Vb層は黄褐色軽石で、約6300年前の鬼界カルデラ起源



第17図 10トレンチ断面図、遺物出土状況

のアカホヤ（幸屋火碎流）に対比される。Va層の下位にブロック状にみられる。VI層は三つに大別できた。VIa層は淡黒褐色土でやや粘質をもつ層で20cm内外の厚さを呈し、東から西へ傾斜している。VIb層は暗褐色土層である。やや粘質をもつ層で20~30cmの厚さである。VIc層は黒褐色火山灰土層である。濃い黒色で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。30~40cmの厚さを呈する。VII層は淡黄褐色火山灰土で、VI層の下位にブロック状にはいっている。風化がはげしく粘土化しているところが多い。桜島起源の輕石層（蘇摩）に対比できる。VIII層は黒褐色粘質火山灰土層で、極めて微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。下位になるにしたがって乳白色がかってくる。

遺物

Via層で1点、VIb層で3点の計4点出土した。色調は内・外側とも白褐色を呈し、胎土に長石英・繊維を含んでいる。4点とも細片で固化することは出来なかったが、器面・土層等から判断して縄文時代早期に相当するものであろう。

11トレンチ（第18図）

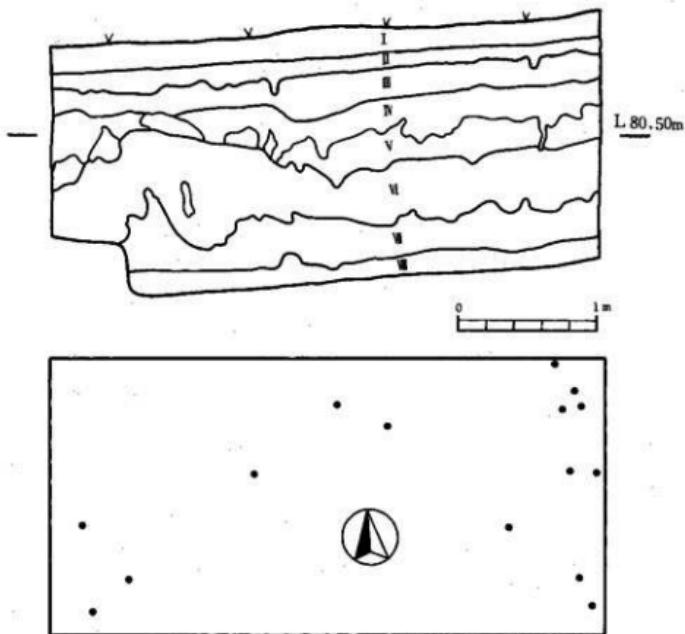
6トレンチの東約60mに東西に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げる。

土層

I層は黒褐色の耕作土で20cm内外の厚さで東から西へ傾斜している。II層は黒色腐植火山灰土層である。黒色微量の火山灰土層でやや粘質を帯びる。10cm内外の厚さを呈し、やはり東から西へ傾斜している。III層は褐色火山灰土層である。やや粘質を帯び、中位には霧島火山御池軽石に対比できる微粒の軽石がみられる。IV層は暗褐色土層で20cm内外の厚さを呈する。V層は暗黄褐色軽石混土層であり、下位は約6300年前の鬼界カルデラ起源のアカホヤ（幸屋火碎流）に対比され、西側ではブロック状にみられる。VI層は黒褐色火山灰土層である。濃い黒色で粘質が強く、軽石を含まず乾くとクラックが発達する。40~50cmの厚さを呈する。VII層は淡黄褐色軽石層である。部分的には風化がはげしく粘土化しているところもある。約11000年前の桜島起源の軽石層（薩摩）に対比できる。VIII層は黒褐色粘質火山灰層で、極めて微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。

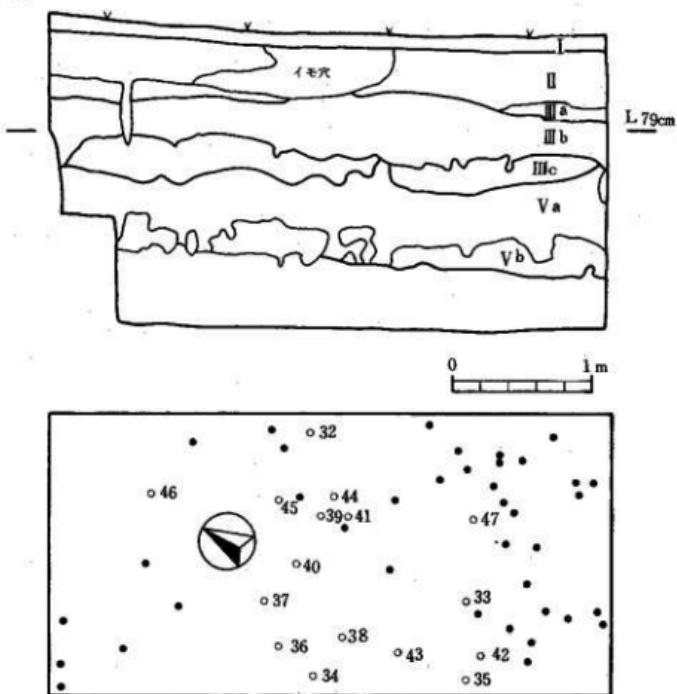
遺物

Ⅲ層7点、Ⅳ層6点、V層2点の計15点が出土した。全て胸部でまた細片であったため図化



第18図 11トレンチ断面図、遺物出土状況

することは出来なかつたが、胎土・器面調整・土層等から判断して縄文時代の遺物に概当すると思われる。



第19図 12トレンチ断面図、遺物出土分布図

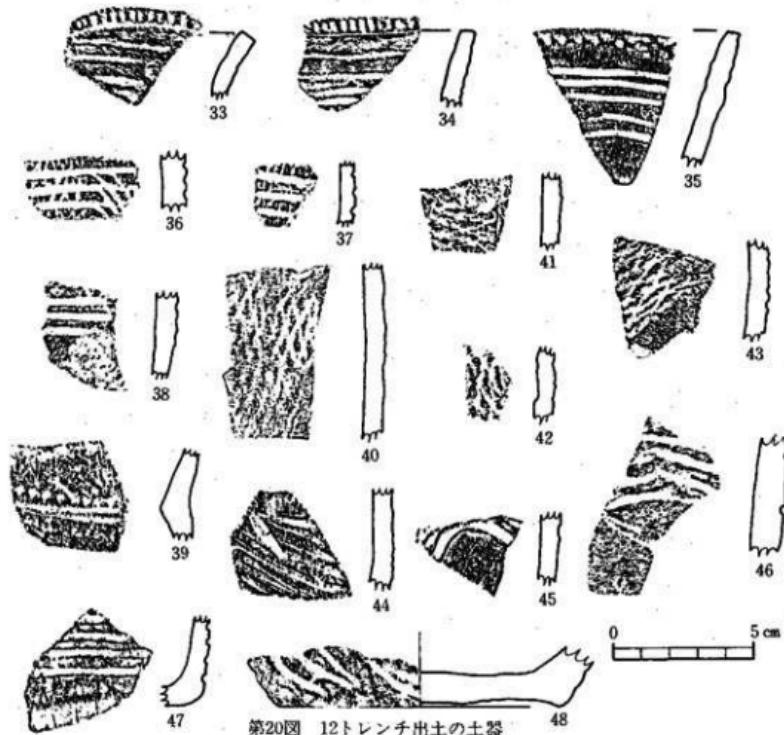
12トレンチ (第19・20図、図版4・7)

3トレンチの北約60mに南北に長い4m×2mのトレンチを設定し掘り下げた。

土層

I層は黒褐色の耕作土で10cm内外の厚さである。II層は黒褐色腐植火山灰土である。黒色微粒の火山灰土層でやや粘質を帯びる。30~40cmの厚さを呈し、南から北へ傾斜している。III層は大きく三つに大別できた。IIIa層は褐色土層で10cm内外の厚さを呈し、部分的にはみられないところもある。IIIb層は淡黒褐色土層である。20~40cmの厚さを呈し、南から北へ傾斜している。IIIc層は褐色軽石混り火山灰土層でやや粘質を帯びる。軽石は霧島火山御池軽石に対比でき、微粒の軽石である。12トレンチではIV層とVa層との区別つかず、Va層に一括した。Va層は明黄褐色火山灰土層で、径1~2cmの軽石が混じり30~40cmの厚さを呈する。Va層は黄褐色軽石

で約6300年前の鬼界カルデラ起源のアカホヤ（幸星火碎流）に対比される。V層の下位にブロック状にみられる。VI層は黒褐色火山灰土層である。濃い黒色で粘質が強く、軽石は含まず乾くとクラックが発達する。縄文早期の遺物が包含されていた。



第20図 12トレンチ出土の土器

遺物

12トレンチの遺物はIV層3点、VI層48点の計51点出土した。IV層の土器は細片で図化することは出来なかったが、胎土・器面・土層等から判断すると縄文時代前期の土器と思われる。

32・34は「く」の字に外反する口縁部である。32・33はヘラ状施文具により口唇部平坦面に押圧でキザミを施す。34は平坦面の外側に斜めにキザミを施している。口縁部の中央には4~5条の並行な沈線文が施文されている。35~37は縦位の文様を回転押圧し、その上に横方向に沈線を施文したものである。38は頸部で、2条の沈線が施され、その上に横位に刺突連点文が一列施されている。内面には屈曲した棱がみられる。39~42は縦位に捲糸文を施された胴部である。これらは縄文時代早期の塞ノ神Aa式である。

43は外面に条痕を施し、内面はナゼ整形を行っている。内・外面とも淡黄褐色を呈し、胎土には角閃石・長石・石英が含まれている。44, 45は沈線によって波状曲線を描くものである。

46・47は底部である。46は塞ノ神Aa式の土器の底部である。縦位の撚糸文の文様に沈線を横方向に施したものである。焼成は良好で、ややあげ底気味の平底である。47はあげ底気味の底部で、外面に斜位方向の沈線が施されている。

第4表 12トレンチ出土土器一覧表

番号	土層	胎 土	焼 成	色 調	
				外 面	内 面
33	VII	長石, 石英	普通	淡褐	淡褐
34	VII	長石, 石英	やや良	淡褐	淡褐
35	V	長石, 石英	やや良	褐	褐
36	V	長石, 石英	普通	褐	褐
37	V	石英	普通	褐	褐
38	V	長石, 石英	普通	褐	褐
39	VII	角閃石, 長石, 石英	普通	淡黄褐	淡黄褐
40	VII	長石, 石英	やや良	暗褐	暗褐
番号	土層	胎 台	焼 成	色 調	
				外 面	内 面
41	VII	長石, 石英	普通	褐	褐
42	VII	長石, 石英	やや良	暗褐	暗褐
43	VII	長石, 石英	やや良	褐	褐
44	VII	角閃石, 長石, 石英	普通	淡黄褐	淡黄褐
45	VII	長石, 石英	やや良	淡黄褐	淡黄褐
46	VII	角閃石, 長石, 石英	普通	淡橙褐	暗褐
47	VII	長石, 石英	良好	褐	褐
48	VII	長石, 石英	普通	淡橙褐	暗褐

第3節 まとめ

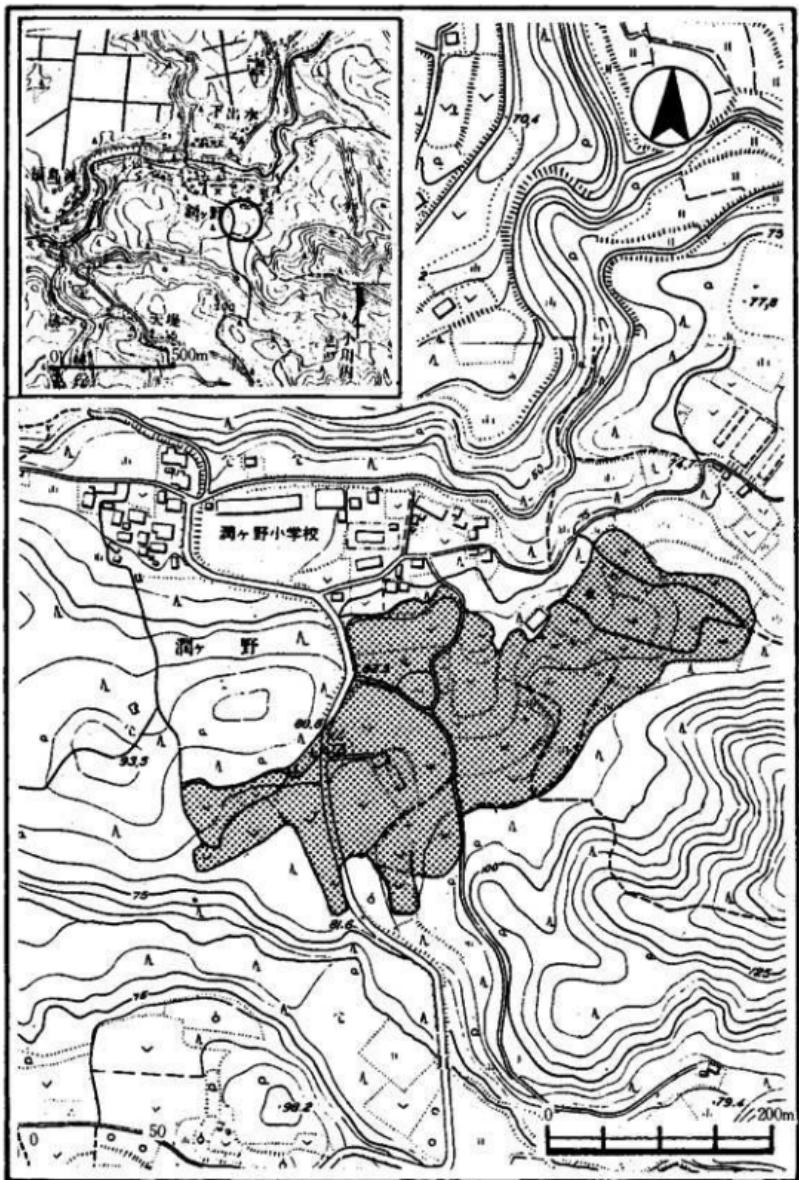
出口B遺跡では12ヶ所のトレンチを設定して掘り下げを行った。

その結果、2トレンチ・8トレンチ・12トレンチで遺物を出土した。その他のトレンチでもわずかに土器が出土したが、その多くは図化し得ぬ細片が多くかった。8トレンチで出土した遺物は三万田式土器と晩期土器であった。前川沿いは縄文時代の遺跡の多い所ではあるが、晩期の遺物は少く稀少なものである。この地は、谷頭であり削平がなされず包含層の残存度はよかつた。8トレンチのある畠地一帯はまだ、この時期の包含層が残されているものと思われる。その他のトレンチでは縄文後・晩期の遺物包含層が残存していなかった。出口B遺跡の範囲は傾斜があり、個人の畠地造成等によって削平されている部分が多くあった。2トレンチでは、VII層の「薩摩」層直上より前平式土器が出土し、12トレンチではVI層上部より塞ノ神式土器が出土した。縄文時代早期の遺物が包含されているVII層は、台地全体に広がりをみせ、他のトレンチでも細片ではあったが出土している。このことより、詳細な分布範囲を判断することが出来なかつたが、台地全体に縄文時代早期の包含層が広がっている可能性はある。

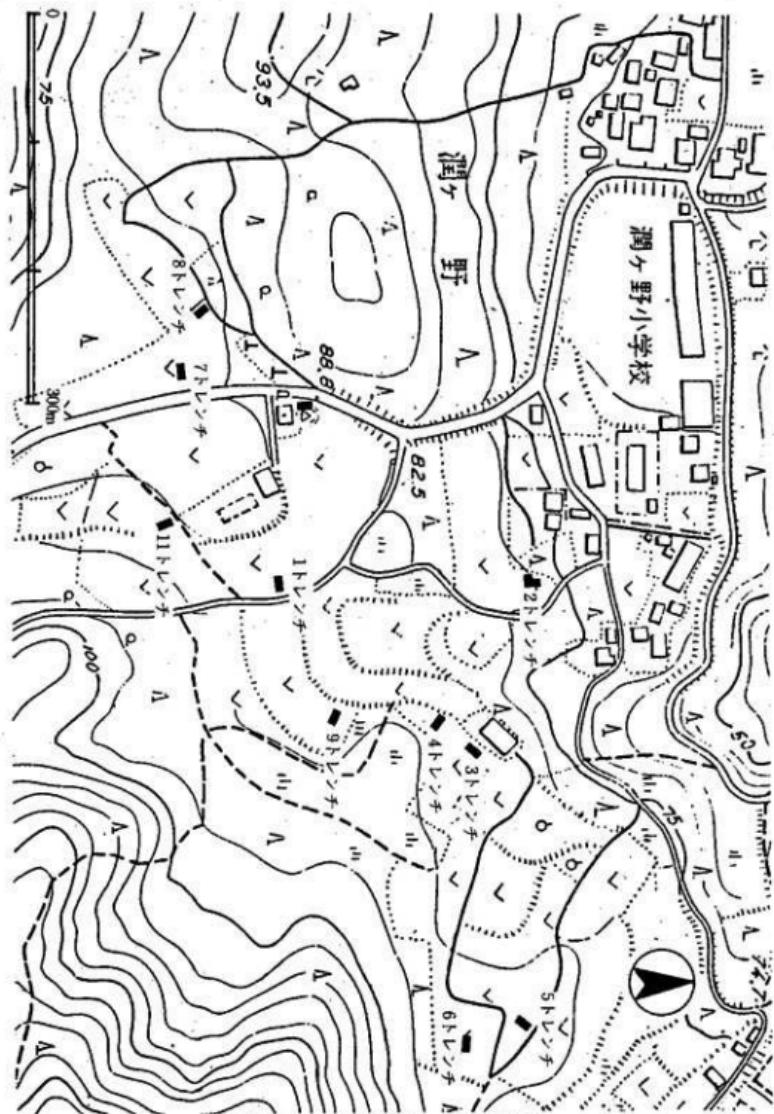


第5章 潤ヶ野遺跡





第21図 洞ヶ野遺跡の位置図



第22図 潤ヶ野遺跡トレンチ配置図

第1節 調査の概要 (第21・22図, 図版11)

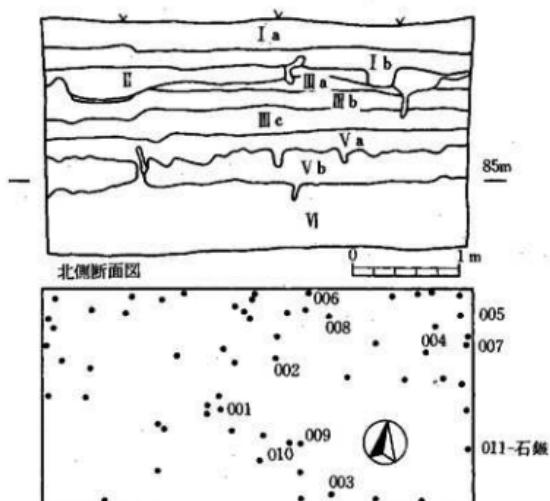
潤ヶ野遺跡は、志布志町帖字上ノ原に所在し、志布志町の市街地より北東へ約4.5 kmの台地上で標高約86mから91mの畠地に立置している。

このあたりは、志布志湾へ流入する前川の中流域で、下刻作用が激しいため小規模の渓谷をつくり、谷底には狭小な川床をつくりだしながら蛇行している。

本遺跡は、その前川の左岸の通称潤ヶ野台地の畠地に所在し、北側の台地縁辺部には、潤ヶ野小学校を中心とした潤ヶ野の集落が開けている。その集落内には県道大堂津-志布志線より潤ヶ野橋を起点に町道小川内線が潤ヶ野小学校北西隅で町道潤ヶ野線と交差し、さらに学校南隣りを登りつめて略南走しながら県道今別府・串間線へ南走している。その町道小川内線の東沿いに潤ヶ野公民館が所在し、公民館周辺の畠地から北東へのびる帯状の台地上に遺跡が所在する。北西へのびる台地縁辺部には、出口B遺跡、北東へのびる台地縁辺部には東原遺跡が所在している。このように本遺跡を含めた周辺には、縄文時代の周知の遺跡が数多く所在している。

第2節 各トレンチの調査

1 トレンチ (第23・24図, 図版12)

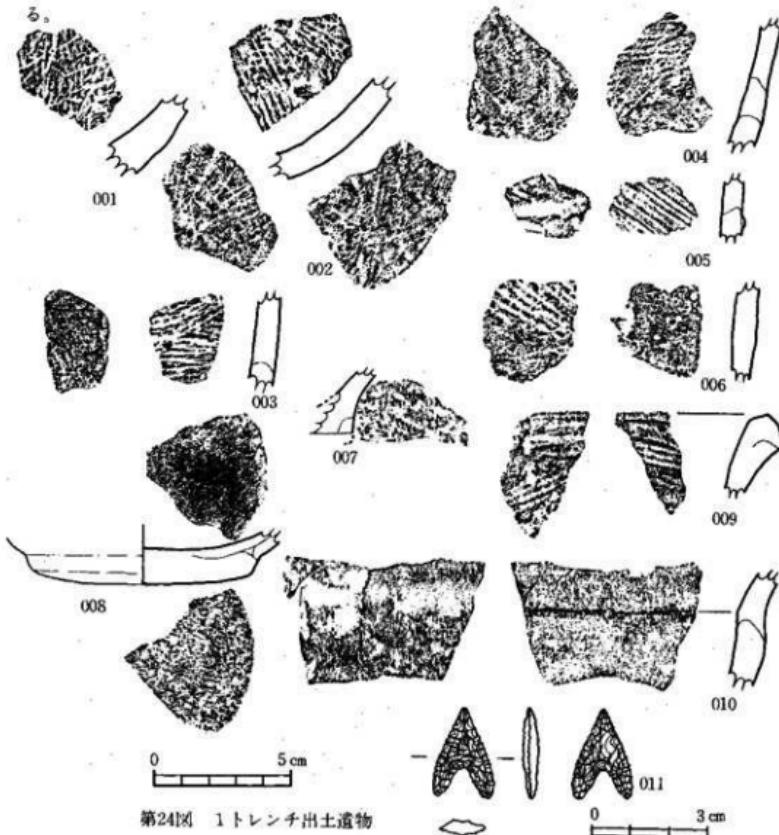


第23図 1 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

1トレンチは、潤ヶ野集落の水源地の南側畠地で、町道小川内線よりのびる林道沿いの標高86.5mの畠地で、畠地の状況より原地形をとどめているために、標準土層と遺物包含層との確認をも目的としてトレンチを設定した。

土 層

1層は、黒褐色の耕作土で、その直下には暗灰褐色の搅乱を認めた。下位層は、II層黒色腐植火山灰土で、上部およびIIIb層まで削平を受け、IIIa層は淡黒褐色土である。下位層は、IIIb層暗褐色火山灰土で約20cm前後を測る。IIIc層は褐色火山灰土で約20cmの堆積で、上部には霧島火山御池軽石に対比できる微粒の軽石を認め、基本土層IV層の堆積は認めない。Va層は明黄褐色火山灰土で約10cmから20cm前後の堆積で、下位はVb層黄褐色軽石層で幸尾火碎粒に対比される。



第24図 1トレンチ出土遺物

VI層は黒褐色火山灰土で、粘質が強く軽石を含まず、かなりの層厚を測る。

遺 物

遺物は、IV層・VI層より土器片や石器が出土した。1から10はIV層、11はVI層である。
1・2は、底部付近の破片で、ともに外面はナデ、内面は条痕を残している。1の色調は、外面で淡黄褐色、内面は明茶褐色を呈する。胎土には、角閃石、石英、長石などの砂粒を多く含んでいる。2の色調は、外面で明茶褐色、内面で淡黄褐色である。胎土には多くの砂粒を含み、なかでも角閃石が多い。3・4は、外面でナデ、内面は条痕調整を認める。3の色調は、外面で暗褐色、内面で明茶褐色を呈する。胎土には砂粒を含む。4の色調は、外面で明茶褐色、内面で褐色を呈する。胎土には、砂粒を含み、角閃石、石英、長石などが多い。5は、外面で微隆突帯をもち、調整はナデ、内面には条痕を残す。色調は内外面ともに淡茶褐色を呈する。胎土には角閃石、石英、長石などの砂粒を多く含む。6は、外面で条痕後にナデ、内面はナデ調整で、色調は、外面で黄褐色、内面は淡黄褐色を呈する。胎土は、大小の砂粒を含む。7・8は、底部片である。7は、剥落や摩滅が大きく、外面はナデ、内面は不明である。胎土は角閃石、石英、長石などの砂粒を多く含む。8は、復元底径9cmを測り、外面で摩滅のため不明、内面なナデ調整である。色調は底面で褐色、内面で暗灰褐色を呈し、角閃石、石英、長石などの大小の砂粒を含む。9は、肥厚する口縁部破片である。外面はナデ、内面は横位の条痕を施している。口縁部には煤の付着を認める。色調は内外面ともに淡赤茶褐色で、胎土は金雲母、石英、長石などの砂粒を多く含む。10は、深鉢形土器の頸部付近の破片で、内外面ともに磨きによる調整であるが、外面では一部剥落や煤の付着、内面は摩滅を受けているが、ナデ調整を認める。胎土は角閃石、石英、長石などの砂粒を多く含む。11は、チャート製の打製石錐でVI層黒褐色火山灰土の下部より出土した。この石錐は、U字状の門基式の二等辺三角形を呈し、最大全長2.3cm、最大幅1.5cm、最大厚0.4cm、重さ9.5gを測り、交互剝離による調整である。

2トレンチ (第25~27図、図版8・12)

2トレンチは、遺跡地の北側付近で、潤ヶ野の集落に近隣した標高81.6mの畠地で、遺物包含層と遺跡の範囲確認のためにトレンチを設定した。その後、集石遺構確認のためトレンチを拡張した。この畠地周辺は、集落側からのびる谷頭付近の側縁部で、この谷に沿って畠地開墾が行われたため、それぞれの畠地に比高をもつ段々畠となっている。

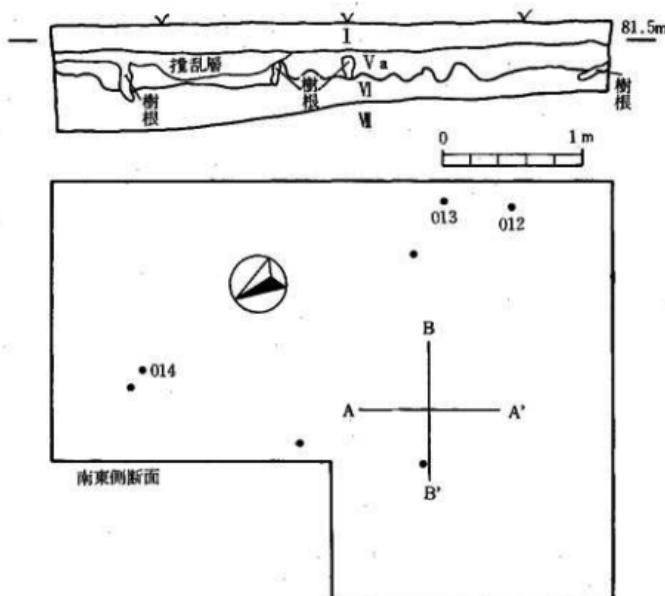
土 層

本トレンチは、2筆の畠地を造成し、耕作土面下に大幅な削平を認めた。I層は、黒褐色の耕作土で、耕作土の直下は大幅な削平を受け、Vb層黄褐色軽石層となる。このVb層もトレンチ北東側において搅乱を受けている。その下位層は、VI層乳灰色火山灰土となり粘質が強く、遺物包含層である。その下位の、Vc層は黒褐色火山灰土で、基本土層のVI層に対比される。

遺 構

本トレンチの北西側壁寄りに集石を確認したために、トレンチを拡張して調査した結果、VI

層乳灰色火山灰土より集石遺構を検出した。その規模は 2 m × 1.3 m で、その範囲内に 1.2 m × 1.5 m の範囲に集中して、認められるが、北西から北側にかけて微傾斜しているため、その周辺へ散逸が認められる。その石材は扁平な砂岩で、最大長 20cm、最大幅 15cm、最大厚 2 ~ 3 cm が最も大きく、それ以下の石約 90 個で構成している。石自体は板状に割れているものもあるが、焼け



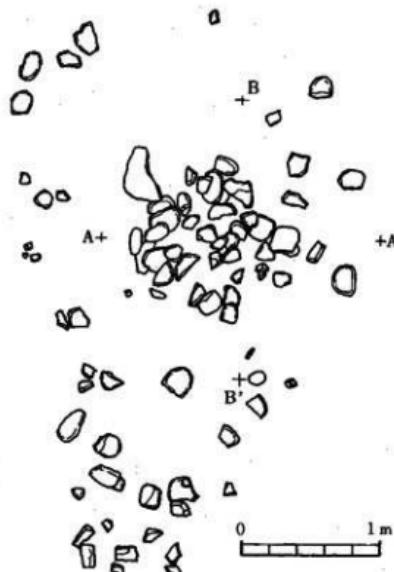
第25図 2 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

ている痕跡は認めない。なお、集石の周辺においては、炭化物や木灰などの痕跡は検出しなかった。集石遺構の性格については不明で、確認調査のために今後の課題としたい。

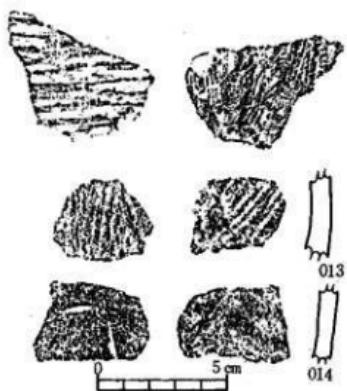
遺 物

遺物は、VI 層より出土を認めた。

12は、外面に横位の只殺条痕が施された、縦位のナデ調整を一部に認める。内面は条線を伴うナデ調整で、色調は外面でにぶい黄橙色、内面は明茶褐色を呈する。胎土は角閃石、石英、長石などの砂粒を多量に含む。13は、内外面ともに条痕を認めた。色調は内外面とも褐色を呈し、胎土には金雲母、石英、長石などの砂粒を多量に含む。14は、内外面ともにナデ調整で、内面に煤の付着を認める。色調は外面で明灰褐色、内面は煤の付着のために判明しがたいが、暗褐色を呈する。



第26図 2トレンチ集石遺構



第27図 2トレンチ出土遺物

石、石英、長石などの砂粒を多く含む。16は、15と同一個体が考えられる頭部破片である。内外面はヘラ磨きによる調整で、色調は外面で明茶褐色、内面は明赤褐色を呈する。胎土には、角閃石、石英、長石などの砂粒を多く含む。17は、15・16と同一個体と考えられる底部破片である。

3トレンチ (第28・29図、図版9・10)

3トレンチは、遺跡地のほぼ中央部北側で、2トレンチの東側約100mで、魔屋に隣接した標高88.5mから87.5mの北側へ傾斜をもつ畠地に設定した。この畠地は、2トレンチ東側の谷を隔てた台地側縁部の先端付近に位置し、トレンチの東側で北よりのびる谷にも近い。

土層

3トレンチの上層は、台地縁辺部付近のために層によっては厚く堆積し、畠地の南東側は大幅な削平が周辺地形より類推される。

I層は、黒褐色の耕作土で、遺物の破片を認め、中には須恵器片をみた。II層は、黒色腐植火山灰土で、約50cmを測り、三ヶ所にイモ穴による搅乱を認めたが、遺物包含層である。その下位には、標準土層IIIb層褐色火山灰土が約10cmから20cmの堆積を認め、この層は遺物包含層である。IIIb層の堆積は認めない。IV層は暗褐色火山

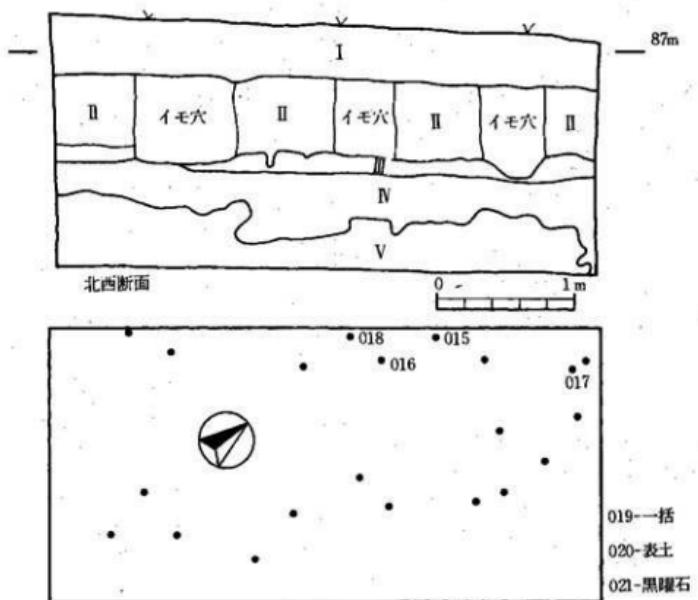
灰土で、約20cmから50cmをはかり、下位のVa層明黄褐色火山灰土が、所々によって侵食を受けているために一定でない。V層は、上部に明黄褐色の火山灰土が1cmから2cmの軽石を含み、下位に黄褐色軽石層(幸屋火碎流)を認めたが、その境は不鮮明である。

遺物

遺物は、II層・III層より出土した。

15は、深鉢形土器の口縁部破片で、外反する器形で、内外面ともヘラ磨きによる調整で、外面には煤の付着を認める。色調は、外面でぶい赤褐色、内面では、灰茶褐色を呈する。胎土は、角閃

石、石英、長石などの砂粒を多く含む。16は、15と同一個体が考えられる頭部破片である。内外面はヘラ磨きによる調整で、色調は外面で明茶褐色、内面は明赤褐色を呈する。胎土には、角閃石、石英、長石などの砂粒を多く含む。17は、15・16と同一個体と考えられる底部破片である。



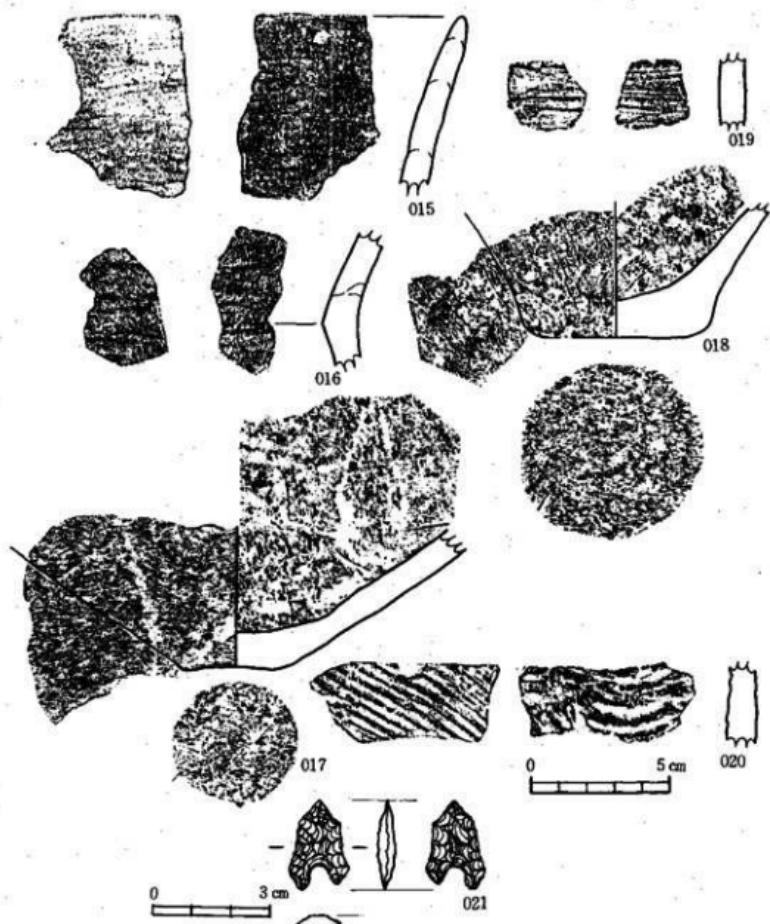
第28図 3トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

底部は小さな上げ底である。内外面ともにヘラ研磨による調整であり、底面は磨滅している。色調は、外面で明茶褐色、内面は灰茶褐色を呈し、外面には煤の付着を認める。胎土は角閃石、石英、長石などの砂粒を多く含む。18は、底面が平底の底部破片で、内外面ともに摩減を受け調整は不明である。19は、内外面とともに工具による条線を作りナデ調整で、色調は外面で明灰黒褐色で、内面は明茶褐色を呈する。胎土は、石英、長石、角閃石や砂粒を多く含む。20は、須恵器の破片で耕作土より出土し、外面は平行タタキ目、内面は同心円タタキ目による調整である。21は、打製石鎌で、IIIa層淡黒褐色土より出土した。基部は、U字状の凹基式石鎌で、素材はチャートの横長剥片を用い、最大長2.3cm、最大幅1.5cm、最大厚0.4cm、重さ1.15gを測り、五角形の形状を呈し、調整は交互剝離である。

4トレンチ（第30図）

4トレンチは、3トレンチの南西側約30mの畑地で、2トレンチと3トレンチ設定の畑地間を

貫入する谷の谷頭付近の側面部の畠地に設定した。この畠地は、標高 39.3 m で、3 トレンチ設定の畠地とは比高差約 2.3 m を測る。この周辺の畠地は、谷状に畠地が開墾され、大きく削平



第29図 3 トレンチ出土遺物

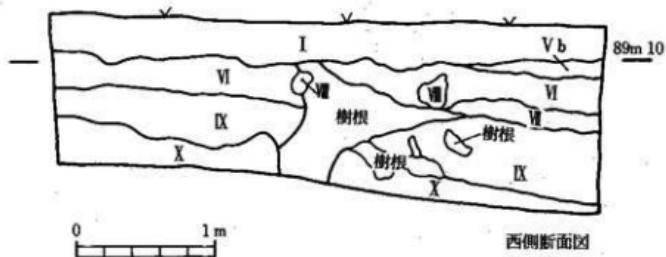
を受けているために、本トレンチは台地縁辺部に設定した。

土層

土層は、耕作土直下の層が北側の谷方向に傾斜している。この畠地は開墾により、大幅な削平

を受けている。このような状況より旧地形は、なだらかな台地であったことが推定される。

I層は灰黒褐色の耕作土で、耕作土直下はVb層やVI層となり、略水平に削平を受けている。Vb層黄褐色軽石層（幸星火碎流）は、トレンチの西側部分に僅かに層として残存する。VI層は



第30図 4 トレンチ土層断面図

黒褐色火山灰土で、そのほとんどは耕作土直下に認め、基本土層のVI層より若干明度のある層である。Vb層は淡黄褐色火山灰土で、Vb層と同じくトレンチの東側に認め、中央部より西側には堆積していない。Vb層はトレンチ中央部においてブロック状の層を二ヶ所に認める。IX層は淡黄褐色火山灰土、X層は淡黄褐色火山灰土で黄色軽石を多量に含み、IX・X層は二次シラス層である。

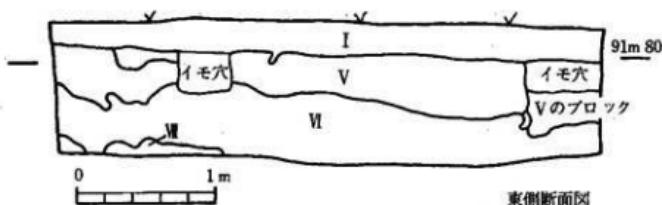
5 トレンチ（第31図）

5 トレンチは、3 トレンチの東側約145 m の標高約 92 m の畑地に設定した。この畑地は、3 トレンチ設定の畑地との間に南東方向に谷の貫入を認め、その谷頭付近の東側縁部に位置する。畑地の周辺の地形は、谷に沿って開墾された段々畑と化している。3 トレンチの南約20m には5 トレンチを設定した畑地は隣接する。比高差は約60cmを割る。

土 層

本トレンチ設定の畑地は、北西および南西側に微傾斜をもち、畑地表土の色調の変化が随所で観察できる。このため畑地開墾時の削平等が推察される。調査の結果、耕作土直下には、V層が確認され、大幅な削平を認めた。

I層は灰黒褐色の耕作土で、その直下は、Va層明黄褐色火山灰土である。Va層の上部より耕作土間は、大幅に削平を受け、Vb層黄褐色軽石層は、その下位に認めるが、その境は不鮮明である。下位にはVI層黒褐色火山灰土を認め、かなりの層厚で色調が若干明るく粘質気味である。トレンチの南側には、VII層淡黄褐色火山灰土（蘿摩）を認めた、このトレンチは、二ヶ所にイモ穴による搅乱を認め、その搅乱部分より疊を多く確認した。



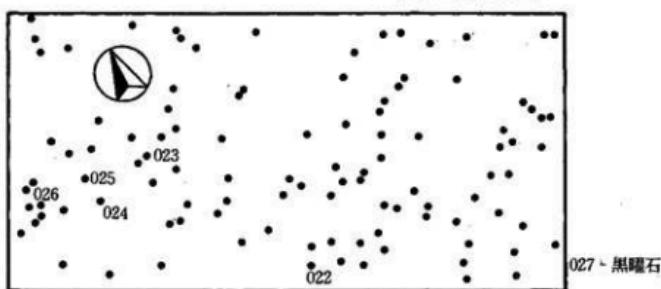
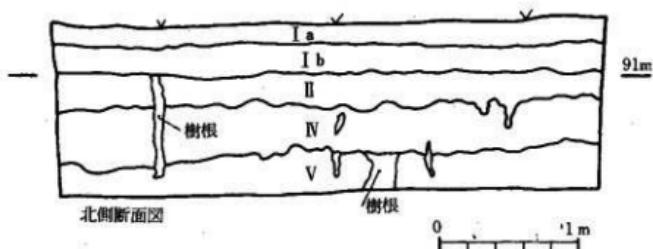
第31図 5トレンチ土層断面図

遺物

本トレンチでは出土遺物は皆無であった。しかし、畑地では遺物小破片の表採ができた。

6トレンチ (第32~35図、図版10・11・13)

6トレンチは、5トレンチ北約20mの標高91.5m前後を測る畑地で、3トレンチと5ト



第32図 6トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

ンチ設定の畠地間をのびる谷頭付近の畠地に位置する。畠地の背後は丘陵地となり、急傾斜な山が迫まる。この畠地は平坦地となるが周辺は段々畠で、削平が予定されたために設定した。

土 層

畠地の表面は色調の変化がなく、また、谷頭の頂点部にあたり旧地形の残存が予想された。調査の結果、I層は、黒褐色の耕作土で、耕作土の直下には擾乱を認めた。その下位には、II層黒色腐植火山灰土が約20cmから30cmの堆積を測り、若干上部は削平を認め、下位には、基本土層のIII層は堆積は認めない。IV層は暗褐色火山灰土で約30cmから40cmの層厚を測る。その下位には、Va層明黄褐色火山灰土を確認し、一部Vb層黄褐色軽石層（幸屋火碎流）を認めたが、その境は不鮮明である。

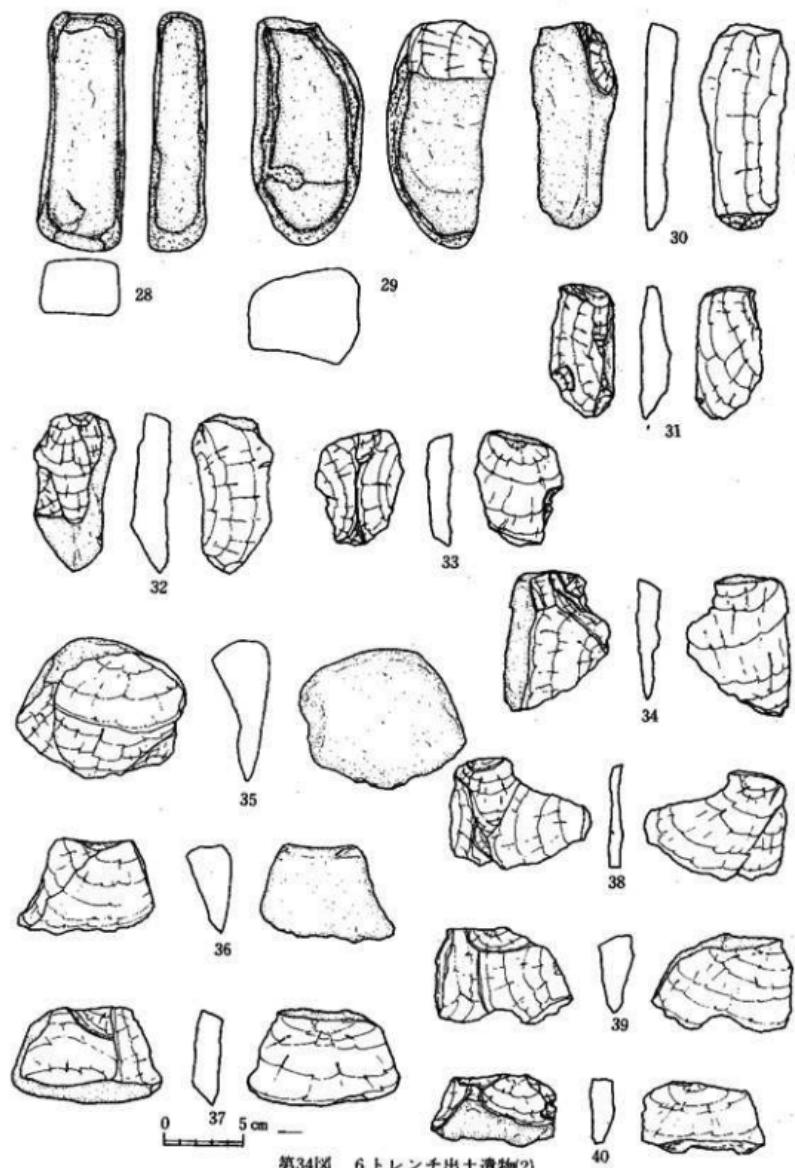
遺 物

本トレンチでは、22はIII層、23・25・26はV層、24はIV層、27はV層出土である。

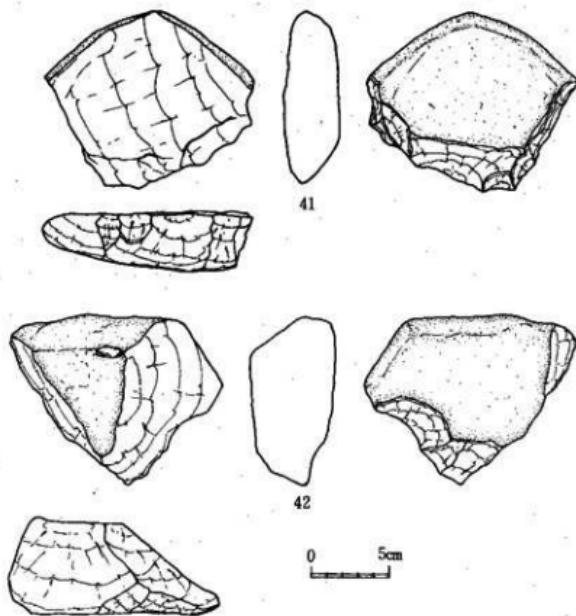
22は、内傾する口縁部破片で口唇部は平坦面をなす器形で、外面は、貝殻復縁で横位もしくは若干斜位に刺突し、その下位にはヘラ状工具で綾杉状に施し、内面はていねいなナデ調整である。色調は外面で暗褐色、内面は褐色を呈し、胎土には金雲母、角閃石、長石、石英系の砂粒を多く含み、特に石英系は量が多い。これらの砂粒は器壁面まで露呈する。23は、全体に磨滅を受けているが、外面は撚糸の押圧調整、内面はていねいなナデである。色調は内外ともに淡黄褐色を呈し、胎土には角閃石、長石などや細砂粒を多く含む。24は、外面はていねいなナデ、内面は貝殻条痕による調整で、色調は外面で明褐色、内面は灰黒褐色を呈する。



第33図 6トレンチ出土遺物(1)



第34図 6トレンチ出土遺物(2)



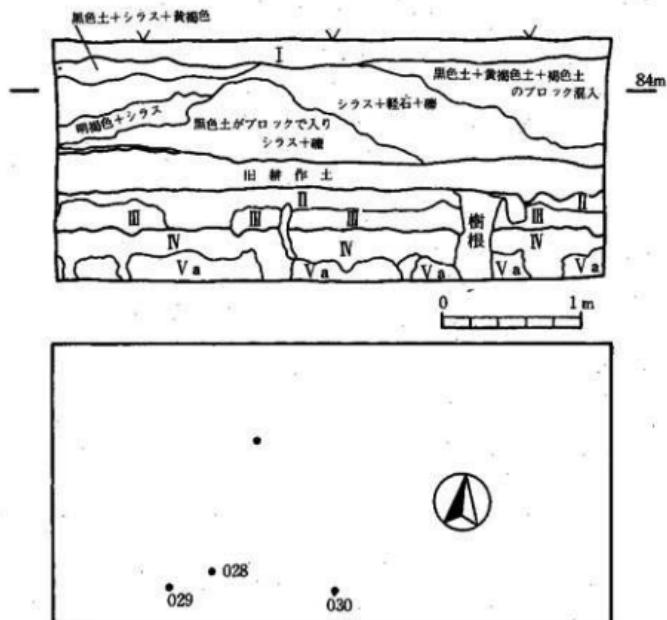
第35図 6 トレンチ出土遺物(3)

胎土には角閃石、石英、長石などや砂粒を含む。26は、内外面ともに貝殻条痕による調整で、外面はさらに縞文が施文される。色調は、外面で明赤褐色、内面で明黄褐色を呈し、胎土には、角閃石、長石、石英などの砂粒を多く含む。27は打製石錐で、黒曜石を素材として、基部はU字状の凹基式の石錐で二等辺三角形を呈し、両脚の端部および先端部はわずかに欠損している。法量は現存最大長1.7cm、現存最大幅1.2cm、最大厚0.45cm、重さ5.5gを測り、調整は交互削離による調整である。また、V層上面においてトレンチ全体に砂岩製の敵石、石片・石核が出土した。石核を中心にして石片が50点程散布していた。まだ周辺にも広がる可能性があつたが、確認調査であつたことから石片の出土した面で調査を終えた。その中でよく整った剝片を図化した。また、周辺には一次加工の剝片・石核と敵石しかなく、石器製品、碎片がなかつたことから、一次加工を主とする石器製作所であった可能性が高い。

28・29は敵石である。角礫と円礫の違いはあるが2点とも砂岩で細長い川原石を利用している。28は上下端部に敵打痕がみられ、最大長15.1cm、最大幅5.3cm、最大厚3.6cm、重量470gを測る。29は側縁部に敵打痕がみられ、最大長14.3cm、最大幅6.8cm、最大厚6.2cm、重量790gを測る。30~40は剝片である。縦長・横長両剝片がある。縦長剝片は長さの短いものである。50~220gの重量を測る。41・42は石核である。厚味のない砂岩を用いて剝片を剥出している。そのため、剝片は長さの短いものが多く剥出されている。なお、石核に用いた砂岩と敵石に用いた砂岩には相違がみられる。41は640g、42は790gを測る。

7 トレンチ（第36・37図、図版13）

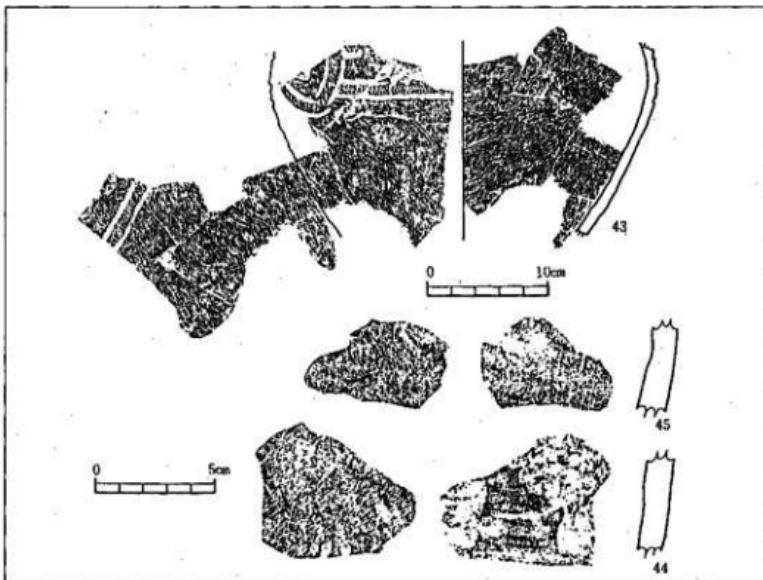
7トレンチは遺跡の西端部で、町道小川内線に隣接した畠地で、潤ヶ野公民館より南西約50mの標高約86mを測り、台地縁辺部に位置する。町道と旧地形間には比高差があり、町道建設の折り盛土が行なわれ、現状は町道と同一レベルを保っている。この畠地は、主要幹線道路が建設される予定のためトレンチを設定した。



第36図 7トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

土層

本トレンチの現耕作土直下には、盛土を確認した。この盛土は町道建設時に搬入された砂礫や各層の土が混入し、その幅は約60cmから70cmを測り堅く締まっている。盛土直下には旧耕作土を認めた。その下位はII層黒褐色腐植火山灰土で上位は削平を受け、約15cmから30cmの堆積を測る。III層は淡黒褐色火山灰土でブロック状に認めた。この層は基本土層のIIIa層に対比され、IIIb層の堆積は確認できなかった。その下位にはIV層暗褐色火山灰土で、約15cmから30cmの堆積を認めた。Va層は明黄褐色火山灰土でブロック状の堆積である。



第37図 7 トレンチ出土遺物

遺物

遺物は、IIIb層最下部より出土した。しかし、30はIIIb層の搅乱部分より出土した。

28は、胴部付近から底部付近にかけての破片で、胴部付近の復元径32.2cmを測る。破片上位には、幅3mmの平行沈線を巡らし、平行沈線間に貝殻刺突文を連続して施しているが、欠落しているために施文構成は不明である。内外面ともにナデ調整で、器面上の砂の粒子の移動による擦痕も認める。色調は外面で暗赤褐色、内面では灰褐色を呈し、胎土には金雲母、角閃石、石英、長石などや砂粒を多量に含む。29は、小破片であり、深鉢形土器である。外面はナデ、内面はていねいなナデ調整で、外面には煤の付着を一部に認め、内面には粘土の接着面を残す。

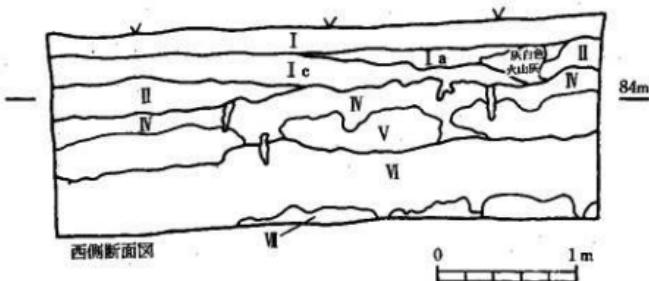
色調は明茶褐色で、内面は灰褐色を呈し、胎土には角閃石、長石、石英などや砂粒を多量に含む。30は、須恵器の破片で、内外面ともにナデ調整である。色調は内外面ともに青灰色を呈する。

8 トレンチ（第38図）

8 トレンチは、潤ヶ野小学校の南側の台地中央付近で、遺跡地の西端部に位置し、7 トレンチ設定の畑地と隣接した標高84.7mの畑地である。この畑地の西側沿いには町道小川内線がほぼ南北走る。このトレンチは、遺跡の範囲確認や、西側の畑地とに比高差があり削平が予想されるために設定した。

土層

トレンチは、北側杉林に隣接した所で比高差を認めた。I層は黒褐色の耕作土で、耕作土直下



第38図 8 トレンチ土層断面図

には搅乱を認めた。II層黒色腐植火山灰土は、トレンチの南側と北側に上部を削平された状態で認めたが、中央部では削平を受けている。その下位には、IV層暗褐色火山灰土を認め、基本土層のIII層は確認できず。V層は大きいブロック状に認め、Va層明黄褐色火山灰土と下位のVb層の黄褐色軽石層との境は不鮮明であった。VI層黒褐色火山灰土は約40cmの堆積を認めた。

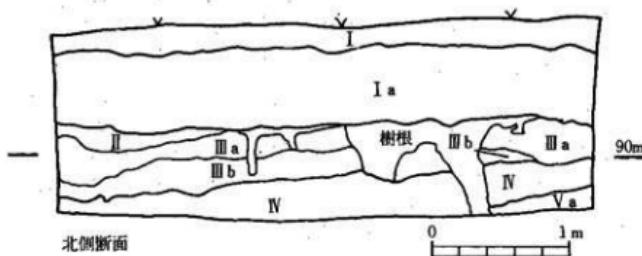
下位には、トレンチ中央部から北側にかけてⅦ層淡黄褐色火山灰土（薩摩）を確認した。

遺物

本トレンチでの遺物の出土は、皆無であった。

9 トレンチ（第39図、図版）

9 トレンチは、2 トレンチと3 トレンチとの間を貫入する谷の谷頭付近の標高約91mを測る畑地で、1 トレンチの東約70m、4 トレンチの南側約40mに位置している。この畑地は、円弧状を呈する段々畑で、開墾により削平を受けている。本トレンチは、遺跡地の中央付近の南限の範囲確認のため設定した。



第39図 9トレンチ土層断面図

土層

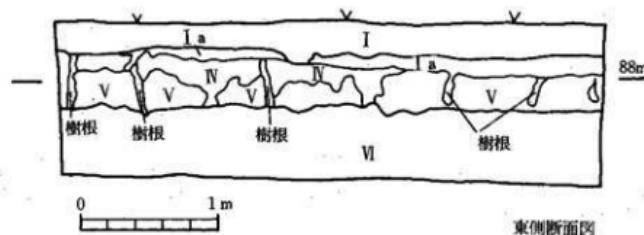
I層は黒褐色の耕作土で、耕作土直下には約50cm程度の擾乱層を認めた。II層は黒色腐植火山灰土でトレンチの西側に認め、その大半は削平を受ける。IIIa層は淡黒褐色火山灰土で、IIIb層は褐色火山灰土である。IV層は暗褐色火山灰土で、西側への傾斜を認めた。その下位にはVa層明黄褐色火山灰土で、トレンチの東側にわずかに認め、その下位は礫層となる。

遺物

遺物の出土は皆無であった。

10トレンチ(第40図)

10トレンチは、潤ヶ野小学校の南側を南走する町道小川内線の東沿いの潤ヶ野公民館北側の畑地で、標高88.6mを測る。この畑地は北側から南側へ傾斜をもち、1トレンチ設定の畑地と畑地の東側で隣接する。本トレンチは、遺跡地の西側端部の範囲確認と削平が予定されるためにトレンチを設定した。



第40図 10トレンチ土層断面図

土層

I層は黒褐色の耕作土で、耕作土直下にわずかな幅で擾乱を認めた。その下位には、IV層暗

褐色火山灰土を部分的に認め、大幅な削平を認める。IV層最下部には、V層がブロック状に入る。Va層明黄褐色火山灰土とVb層黄褐色輕石層との境は不鮮明である。下位には、VI層黒褐色火山灰土が約50cm程の幅で堆積していた。

遺物

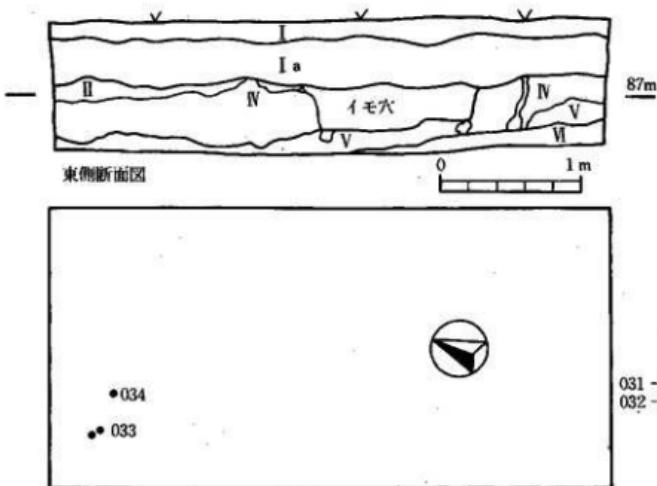
遺物は、小破片が耕作土より出土したのみで、他の層よりは皆無であった。

IIトレンチ（第41・42図、図版13）

IIトレンチは、町道小川内線沿いにある潤ヶ野公民館の南東側の民家隣りの畑地で、標高87.6mを測る。この畑地は、遺跡地の南西部に位置し、丘陵寄りにある。1トレンチ設定の畑地とは東側で隣接し、1トレンチより南西側100.5m、7トレンチより東側約85mを測る。本トレンチは、遺跡地の南西端部の範囲確認と周辺畑地の状況から削平が予定されるためにトレンチを設定した。

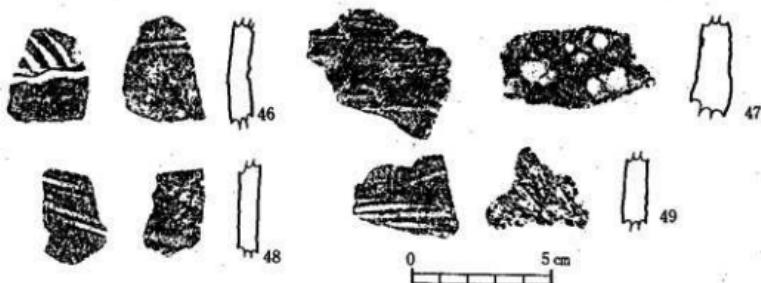
土層

土層は、畑地が若干北側と西側へ傾斜し周辺の状況より大幅な削平が考えられたが、II層やIII層上部の削平を受けていたのみで、I層は黒褐色の耕作土で、耕作土直下には擾乱を認めた。その下位層はII層黒色腐植火山灰土で、トレンチの北側に大半が削平された状態で残存する。IV層は暗褐色火山灰土で遺物包含層で、層厚は約25cmから45cmを測り、基本土層のIII層は堆積



第41図 IIトレンチ土層断面図・遺物出土分布図

を認めない。この層にはイモ穴による擾乱を認めた。下位層は、層上部に V_a 層明黄褐色火山灰土、下部には V_b 層黄褐色軽石層を確認したが、その境は不鮮明であった。トレンチの南側には、VI 層黒褐色火山灰土を確認した。



第42図 11トレンチ出土遺物

遺物

遺物は土器片のみで、31・32は耕作土、33・34はIV層暗褐色火山灰土より出土した。

31は、外面は貝殻刺突と押引きで施し、内面はナデによる調整痕を施し、ナデ調整のため器壁面には砂の粒子の移動による擦痕を認めた。色調は外面で黒褐色、内面は暗褐色を呈し、胎土には角閃石、長石、石英などや砂粒を多く含む。32は、外外面ともにナデ、内面は一部が剥落している。色調は外面で灰黒褐色、内面で黒褐色を呈し、胎土は石英、長石、角閃石などや砂粒を含む。33は、外面で条痕後ナデ、内面はナデ調整であるが、ナデにより器壁面に砂の粒子の移動による擦痕を認める。色調は外面で明灰褐色、内面では明茶褐色を呈する。胎土は砂粒を多く含み、長石、石英などが認める。33は、外面で条痕後ナデ、内面は剥落して不明である。色調は、外面で明茶褐色、内面は黄茶褐色を呈し、胎土は、石英、長石、角閃石などや砂粒を多く含む。

第3節 まとめ

潤ヶ野遺跡は、志布志湾へ流入する前川の中流域で、その左岸の通称潤ヶ野台地に位置し、潤ヶ野小学校の南側から南東部にかけての畠地に所在している。

本遺跡では、11ヶ所のトレンチを設定し、調査を実施した結果、1トレンチ・2トレンチ・3トレンチ・6トレンチ・7トレンチ・11トレンチに遺物の出土をみた。3トレンチにおいては、集石遺構を検出した。また、6トレンチ内においては、石器製作跡と思われる集石（自然理、石核、剝片等が集められている）を確認した。

2トレンチの集石遺構は、検出面の層より縄文時代早期相当が考えられ、同一層より前平式土器破片が出土した。6トレンチ内出土の石器製作跡と思われる集石には、石核、剝片、ハ

ンマー（叩 石）などが出土した。石核には、タテ剥ぎとヨコ剥ぎがあり。剥片には、タテ長剥片とヨコ長剥片とがあり、その剥片を削器的に用いている。また、なかには白石から転用したと思われる剥片もある。

土器については、1トレンチの1から5までは轟式土器に比定され、6・7は小破片のため不明。8は縄文時代晚期相当の底部、9は、縄文時代後期の御領式土器の口縁部に比定できよう。2トレンチの12は、縄文時代早期の前平式土器に比定でき、2・3は縄文時代晚期相当期が考えられる。3トレンチの15から17は、同一個体と考えられ、縄文時代後期の御領式土器に比定され、曾於郡末吉町の中岳洞穴出土の1類C土器に比定されよう。18は、縄文時代後期相当の底部破片と考えられる。6トレンチの22は、縄文時代早期の土器で、日置郡金峰町の松木巣遺跡、鹿屋市の霧島ヶ丘遺跡、宮崎県田野町の芳ヶ迫第1遺跡などの土器に類似している。23・24は、小破片につき不明。25は、縄文時代後期相当の土器破片が考えられる。26は、縄文時代後期の岩崎上層式土器に比定される土器破片である。7トレンチの28は、凝似縄文土器で、縄文時代後期の時期に相当する土器で、志布志町の柳井谷遺跡、中原遺跡と同時期位である。29は、縄文時代晚期に相当する土器破片である。11トレンチの31・33・34は、縄文時代後期相当の土器が考えられる破片で、32は、縄文時代晚期相当土器破片である。

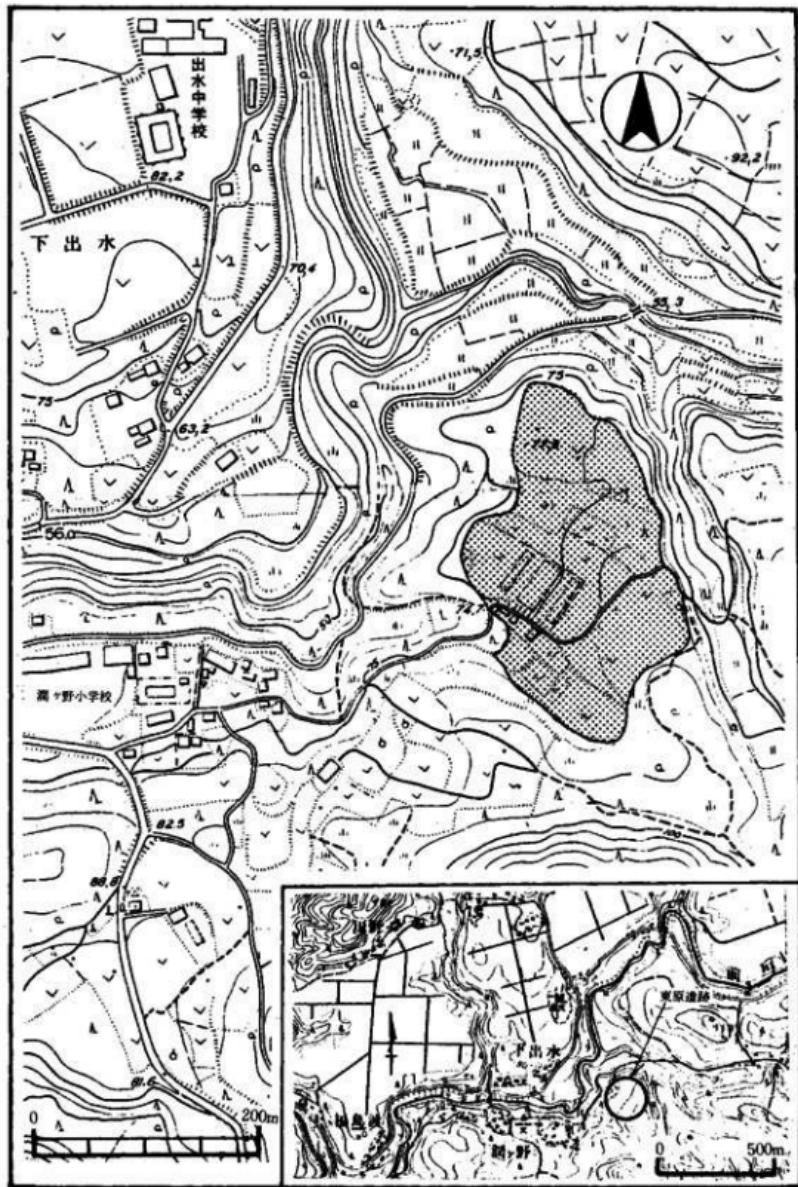
石器については、打製石錐、石核、剥片、ハンマーなどが出土している。打製石錐は、1・6トレンチより二等辺三角形を呈した凹基式の石錐、3トレンチよりは、五角形をした凹基式石錐である。石核、剥片、ハンマーなどは、6トレンチよりの出土で、これらの遺物より石器製作の一端を知る資料である。

潤ケ野遺跡では、個人による畑地造成による削平のために、遺物包含層と考えられる土層の削平も多かったが、小破片であるが遺跡での遺物包含層の有無やからうして残存していた遺物包含層、石器製作跡など多彩な時期の遺物・遺構等の資料を得ることができた。

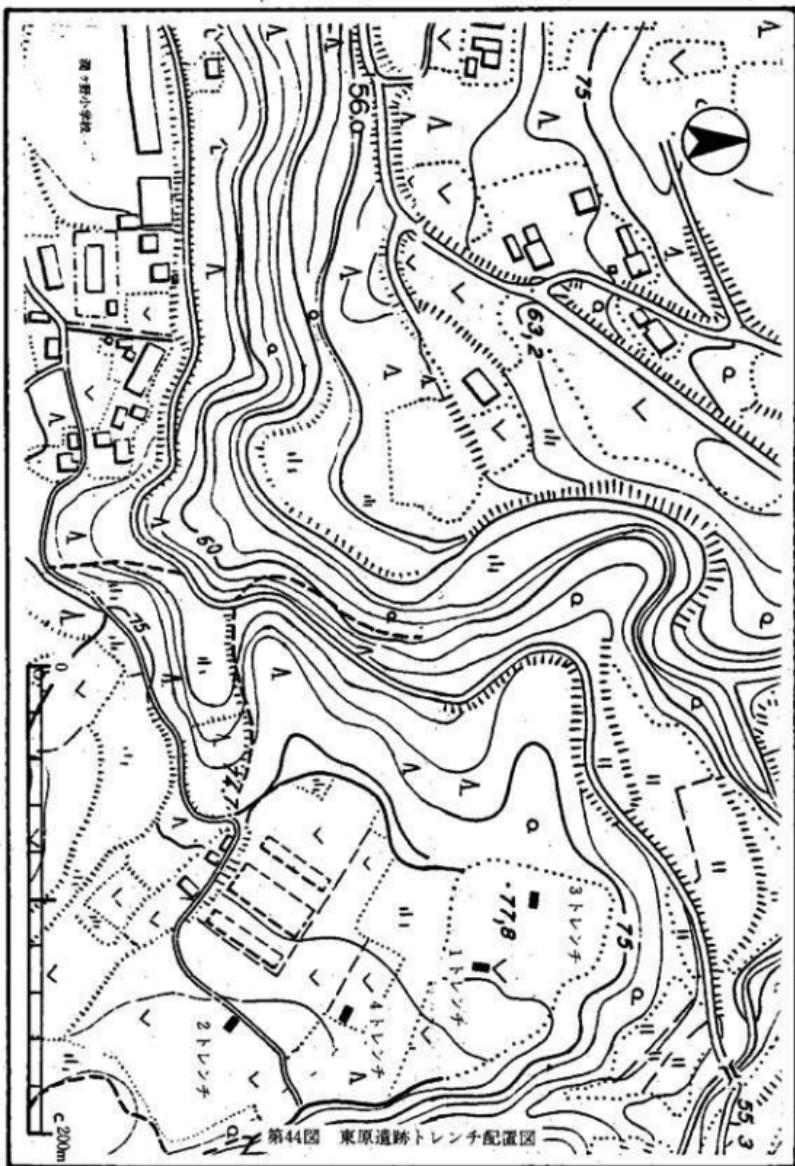


第6章 東原遺跡





第43図 東原遺跡の位置図



第44図 東原遺跡トレンチ配置図

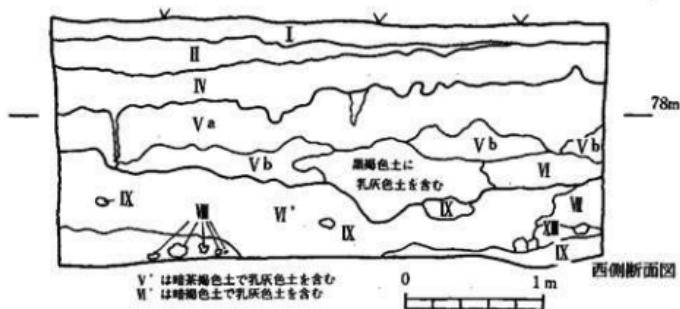
第1節 遺跡の概要(第43・44図、図版14)

東原遺跡は、志布志町帖字東原に所在し、志布志町の市街地より北東へ約4.5kmの台地縁辺部の標高約78mから85mの畠地に位置している。

このあたりは、志布志湾へ流入する前川の中流域で、下流作用が激しいため小規模の峡谷をつくり谷底に狭小な川床をつくりだしながら蛇行している。

本遺跡は、その前川の左岸の丘陵より台地になる付近から台地縁辺部に位置している。県道大津堂・志布志線を福島渡で分岐し串間市に向う県道今別府・志布志線は、前川に架かる船迫橋を渡ると、前川沿いに町道潤ヶ野線が潤ヶ野の集落内をとおり、潤ヶ野小学校付近で町道小川内線と交差する。さらに滑ヶ野線を前川沿いを東に走ると河岸段丘上に狭小な棚田がある。その水田の南側の台地にある。水田との比高差は約22mを数える。

遺跡の周辺には、弥生時代の遺跡を除けば、そのほとんどが縄文時代のもので、その密度はかなり高く、代表的な遺跡をあげてみると、縄文時代割早期の鐵石橋遺跡、縄文時代の出口遺跡(A・B)、縄文時代早期の出水遺跡、上出水遺跡、早期から前期の土光遺跡、風穴遺跡、



第45図 1トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

縄文時代前期から後期の片野洞穴などが周知され、調査が行われている。

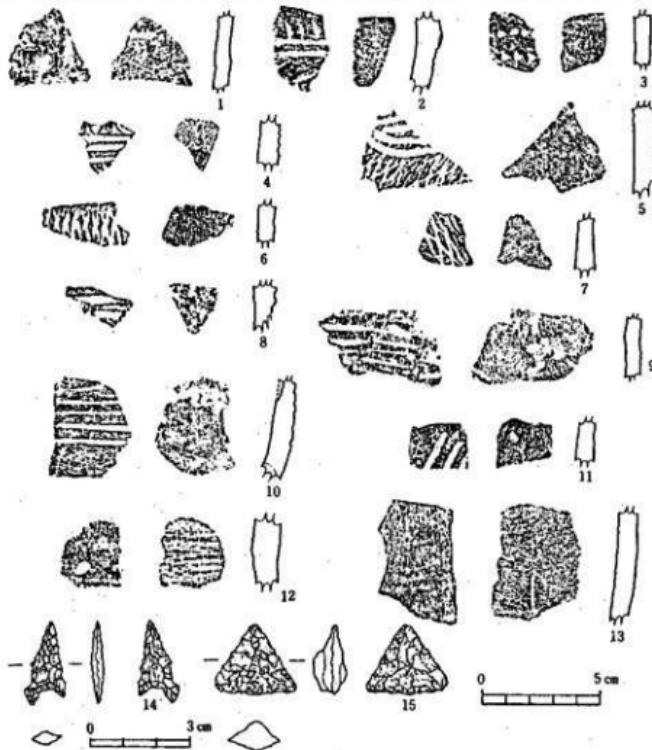
本遺跡の所在する台地は、微傾斜をもつ畠地で、そのほとんどは畠地の開墾等や個人による構造改善事業のために大幅な削平を受けている。

このような地形のため、トレンチの設定にあたっては、出来るだけ現地形をとどめている畠地を選び、4ヶ所に設定した。しかし、3トレンチは、構造改善事業が実施された畠地で、その残存状況を把握するために設定した。遺跡地の北東部については、ビニールハウスの常設や削平が大きいためにトレンチの設定を控えた。

第2節 各トレンチの調査

1. 1トレンチ(第45・46図、図版14・15)

1トレンチは遺跡地の北部で、標高78.7mの台地縁辺部の畠地に設定した。この畠地は、



第46図 1トレンチ出土遺物

構造改善事業が実施された北側の畠地とは、約1mの比高差を測り、東側台地縁辺部より西側に傾斜を呈しているために、現地形をとどめているところを選んだ。

土層

I層は黒褐色の耕作土で、その直下はII層黑色腐植火山灰土である。この層はトレンチの西側上位と東側ではIV層上位まで削平を受ける。V層は暗褐色火山灰土層で約20cmから30cmの堆積でVa層は明黄褐色火山灰土で、約30cmから40cmを測る。下位層はVb層黄褐色軽石層で、浸食を受け、ブロック状に堆積している。この層は約20cmから30cm内外である。トレンチの中央部よりやや東側にはVa層下位でVI層からVII層にかけては擾乱を認め、黒褐色土に乳灰色土を含んでいる。VI層は乳灰色火山灰土で粘質で擾乱を受け、トレンチの東側に残存する。それより下位はVII層黒褐色火山灰土、VIII層淡黄褐色火山灰土（薄茶）、VII層黒褐色粘質火山灰土でこれらの層を切るように、VII層暗褐色火山灰土を認めた、この層は、粘質で乳灰色土や白色軽石を含み、VII層乳灰色土以前の擾乱が考えられる。標準土層のIII層は堆積していない。

遺物(第46図)

遺物は、III層、IV層、VI層から出土し、縄文時代早期から前期にかけての土器片、打製石錐、黒曜石の剥片などがみられる。

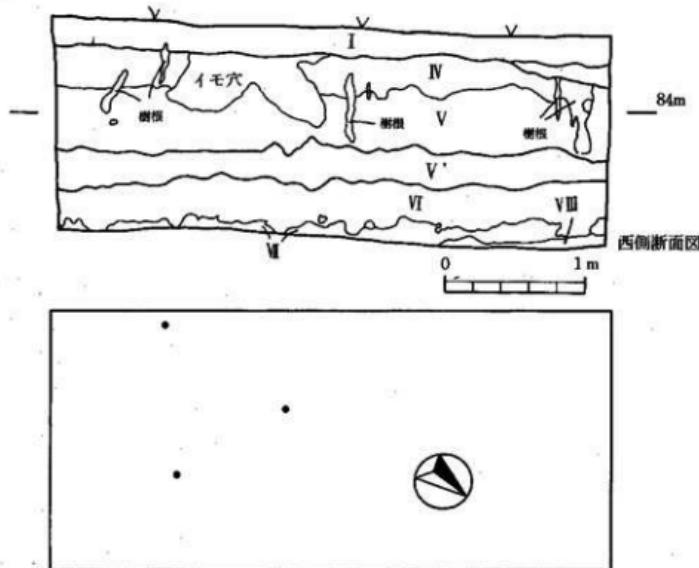
1は、外面に貝殻刺突が施され、そのあとナデ調整である、内面はナデ調整の段階で胎土中の砂の粒子の移動による擦痕を認める。色調は外面で明茶褐色、内面で灰褐色を呈し、胎土は細砂粒を含み、石英、長石、角閃石が多くみられる。2は、磨滅を受けているが、扁平な突帯にへラ状の工具により刻み、その下位には沈線を施す。色調は外面で明黄褐色、内面は明茶褐色胎土は、細砂粒を多く含み、石英、長石、角閃石が器面にまで露呈する。3は、外面に貝殻刺突を施し、内面はナデ調整である。色調は外面で黒褐色、内面は暗褐色を呈し、胎土中には多くの砂粒を含み、角閃石も多い。4は、小破片のためはつきりしないが、外面は沈線や貝殻刺突を施し、内面は器面に砂粒が露呈し、ナデ調整である。色調は外面で明茶褐色、内面では暗褐色を呈し、胎土は石英、長石、角閃石などを多く含む。5は、外面は沈線や燃糸文を施し、内面はナデ調整のため胎土中の砂粒子の移動による擦痕を認める。色調は明黄褐色で、内面は灰黒褐色で、胎土中には細砂粒を多く含み、石英、角閃石、長石などが器面にまで露呈している。6は、外面に燃糸文を施し、内面は磨滅を受けているが、ナデ調整である。色調は外面で灰褐色、内面は淡黄褐色を呈する。胎土には細砂粒を含み、なかでも角閃石の微砂粒を多く認める。7は外面に燃糸文をもち、内面はナデ調整である。色調は外面で灰黄褐色、内面は灰褐色を呈し、胎土は6と同じである。8は、小破片であるが外面は沈線をもち、内面はナデ調整である。色調は、外面で黄褐色、内面は灰黒褐色を呈する。胎土中には多くの砂粒を含む。9は、器面が磨滅を受けている。外面は浅い沈線を施し、内面はナデ調整である。色調は外面で明黄茶褐色である。胎土中には、多量の砂粒を含み、内器面に露呈し、角閃石、石英、長石が多い。10は、9と同じく、外面に沈線を施し、内面は磨滅を受けている。ナデ調整である。下位に粘土の雜ぎ目をもつ。色調は、外面で淡明黄褐色、内面は明灰褐色を呈する。11は、外面に沈

線をもつ細片で煤の付着が著しい。内面はていねいなナデ調整である。12は、外面で剥落を受け不明で、内面は工具による条痕を伴うナデ調整で、色調は外面で灰茶褐色、内面は黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石などを多く含む。13は、外面で工具による細状線を伴うナデ、内面は、ていねいなナデ調整である。

石器は、打製石器 2 本出土した。14は、VII 層より出土し、石材はフォルンフェルスで、全長 2.5cm、最大幅 1.3cm、厚さ 0.35cm、重さ 700mg を測り、二等辺三角形で、基部に U 字状の挟りをもち、両面ともに交互剥離により調査され、鋸歯状を呈する。15は VII 層より出土し、石材は玉ずいで、全長 2cm、最大幅 2.4cm、厚さ 1cm、重さ 2.5g を測り、正三角形で、基部は平基式の石錐である。調査は開辺より交互剥離により調整され、片面においては剥離が届かず自然面を残している。

2. 2 トレンチ（第47図）

2 トレンチは、遺跡地の南東部の標高約 84.5m で、台地から丘陵が始まる付近の畠地に位置する。この畠地の北西側は、個人による構造改善事業等に伴い大幅な削平を受け、その畠地には鉄骨製のビニールハウスが常設され、花木の栽培が行われている。本トレンチ周辺では、削平が予定されるために 2 × 3m のトレンチを設定した。



第47図 2 トレンチ七層縦面図・遺物出土分布図

土層

I層は耕作土で、トレンチの東側では、耕作土直下に盛土を認めた。トレンチ大半は、IV層暗褐色火山灰土で、上位までは、大幅な削平を受けている。V層は、明黄褐色火山灰土で、下位に黄色軽石層をわずかに認めたが、層としては捉えにくい。基本土層のVb層とVI層との間には、乳灰色火山灰土が堆積している。約20cmから40cmの層厚である。その下位層はVII層黒褐色火山灰土で、約20cmから40cmほどの堆積で、VI層より粘質が強い。VIII層は淡黄褐色火山灰土で層をなすものの上位は、凹凸が激しい。一部においてVII層暗茶褐色火山灰土が確認できる。このトレンチは、耕作土やIV層では東側へ微傾斜を認めるが、V層より下位はほぼ水平で、畑地の南側は傾斜を認める。IV層はトレンチ外の畑地で部分的に残存している可能性が強い。

遺物

本トレンチよりは、耕作土やIV層より土器片の出土をみたが、細片のために図化はできなかった。ただし、畑地ではかなりの表採が可能であり、畑地開墾時に遺物包含層の削平が考えられる。

3.3 トレンチ（第48図、図版15）

3トレンチは、遺跡地の北側台地縁辺部で標高約77.8mの畑地に位置する。個人による構造改善事業等の実施に伴い、大幅な削平を認めた。本トレンチ遺物包含層の残存を確認するために設定した。この畑地は、1トレンチ設定の畑地に隣接し、その比高差は約1mを測り、造成前は周辺の状況より同レベルであったことが推定できる。

土層

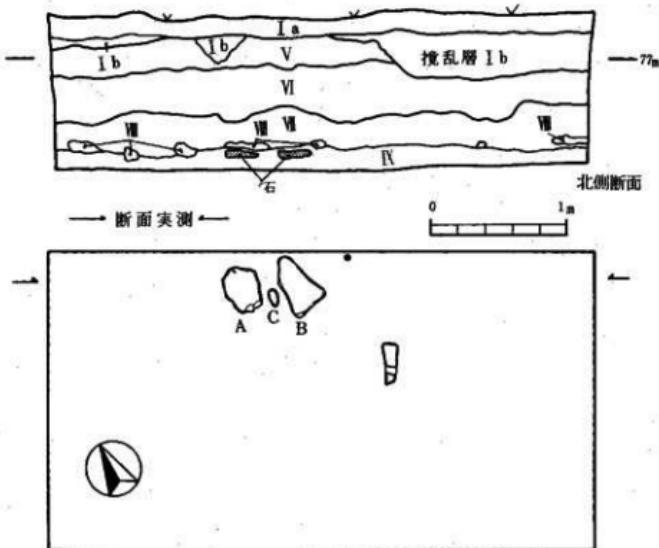
造成により畑地の表面は、ほぼ水平状を呈している。I層は黄褐色の耕作土で、耕作土の直下には、Vb層黄褐色軽石層を確認した。その下位はVI層乳灰色火山灰土で、30cmから40cmを測り、基本土層では確認できなかつた。この層はトレンチ東側で上位まで擾乱を受けている。VII層は、黒褐色火山灰土で20から30cmを測り、その最下部にはVIII層淡黄褐色火山灰土がブロック状に認めた。IX層は暗茶褐色火山灰土層で粘質が強い層である。このIX層上部の中央部よりやや北側寄りに3の扁平の石と楕円状の砾を検出した。

遺構等

VII層暗茶褐色火山灰土のトレンチ北側の中央部付近よりやや西寄り壁面に、扁平な石が楕円状の石を挟むような状態に配した石を検出した。この畑地は設計変更が可能なために現地保存の処置をとった。Aは最大長35cm、最大幅29cm、最大厚6cm、Bは最大長43cm、最大幅28cm、最大厚5.6cmを測り、砂岩製で扁平な石で、Cは最大長13cm、最大幅7cm、最大厚3.7cmを測る砂岩製の楕円状の石である。さらにBより南東へ1.5mの所には、最大長31cm、最大幅12cm、最大厚4.3cmの板状の砂岩製の石を検出した。周辺よりは、他に遺物等の出土は認めなかつた。

遺物

遺物は耕作土とV層より土器片が出土したが、細片のために図化し得なかつた。



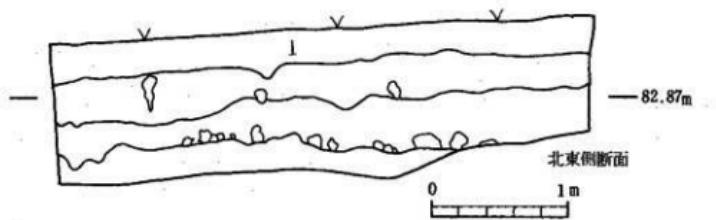
第48図 3トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

4. 4トレンチ(第49図)

4トレンチは、遺跡地の中央部より東寄りで標高83.5mの畠地に 2×3 m設定した。この畠地は、北西側に面し、東側隣接地は、クヌギの木の植林地となっている。西側には常設のビニールハウス設置の畠地となり、個人による構造改善事業等により大きく削平を受けている。

土層

I層は黒褐色の耕作土で、その直下には、VI層乳灰色火山灰土で18cmから58cmの堆積を測り、



第49図 4トレンチ土層断面図

その間は大幅な削平を受けている。層層は黒褐色火山灰土で18cmから40cmの堆積で、その最下部にはⅧ層の淡黄褐色火山灰土をブロック状に認めた。下位はⅨ層暗茶褐色火山灰土となる。

第3節 まとめ

東原遺跡は、志布志湾へ流入する前川中流域で台地縁辺部の畠地に位置している。この付近は地形に恵まれている。しかし現在では個人による構造改善事業等のために削平を受けている。このように遺物包含層と考えられる層の削平を受けた畠地が多くみられた。

本遺跡では4つのトレンチを設定し、調査した結果、1トレンチ・2トレンチ・3トレンチより遺物の出土を認めた。しかし、2トレンチ・3トレンチよりは、細片の出土で図化し得ない。

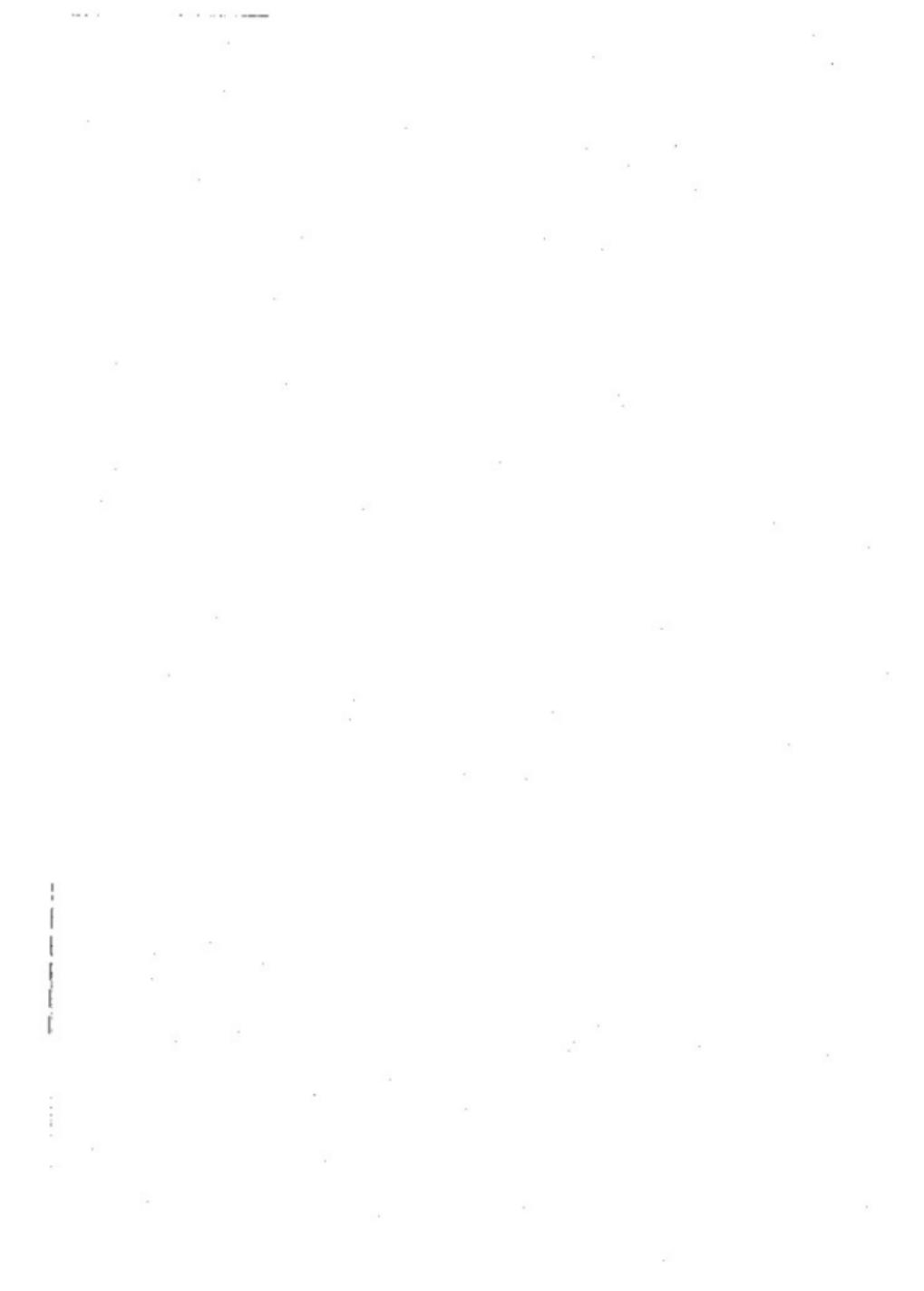
1トレンチよりの出土遺物についてみれば、土器小破片、打製石錐、黒曜石の剝片などがみられ、全ての土器が小破片のため全体の形狀を知りえない。1・4・12は形狀および時期については不明である。12は土器破片の状況より二次焼成の可能性が考えられる。2・5・6・7は、塞ノ神Aa式土器に比定できるが、3は可能性がある破片である。この塞ノ神式土器は県下に広く分布し遺跡数も多く、また、九州各県での出土例も増加している。志布志町においても、出口遺跡、東黒土田B遺跡、白木原遺跡、道重遺跡、大迫遺跡、上ノ園遺跡、倉野遺跡、風穴遺跡、別府石踊遺跡、山ノ上遺跡、井手平遺跡、土光遺跡、鎌石橋遺跡、^(注1)山久保B遺跡などが知られている。9・10・11は、曾畠式土器に比定できる破片で、8も可能性のある破片である。^(注2)志布志町においては、別府井石踊遺跡、鎌石橋遺跡、片野洞穴野久尾遺跡、姥ヶ追遺跡などが知られている。13は、縄文時代晩期の土器破片である。

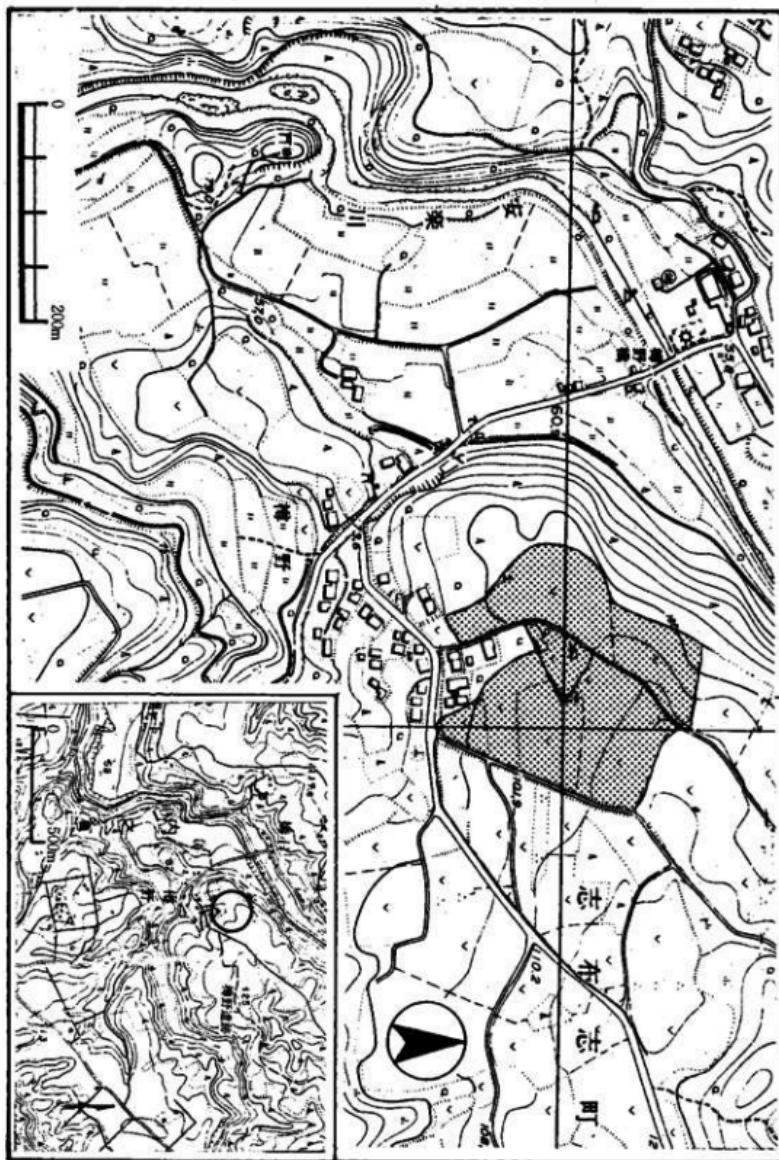
このように、1トレンチから遺物の出土をみたが、その範囲は、個人による畠地の構造改善のために削平が多くみられるために小範囲となっている。また、3トレンチの処置については、現地保存が可能なため、その処置をとり、性格等については今後の課題としたい。

「参考文献」 (注1) 志布志町教育委員会「別府(石踊)遺跡」

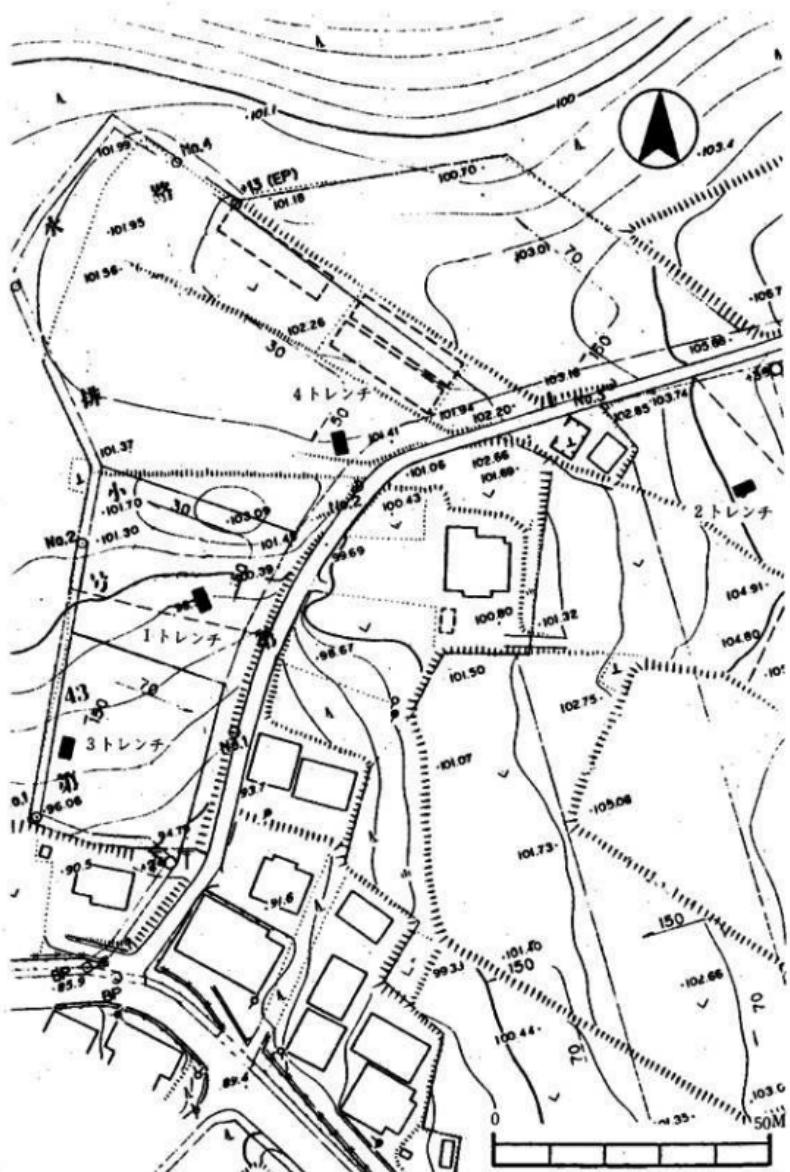
(注2) 志布志町教育委員会「志布志の埋蔵文化財」 S60.3

第7章 樽野遺跡





第50図 植野遺跡の位置図



第51図 梅野遺跡トレンチ配置図

第1節 調査の概要（第50・51図）

樽野遺跡は、志布志町内之倉字樽野555番地に所在し、志布志町の市街地より北側へ約10.5kmの台地縁辺部の標高約100m～115mの畑地に位置している。

このあたりは、志布志湾に流入する安楽川の中流域で、安楽川の両岸には帯状の台地が開け、本遺跡は、その安楽川右岸の台地基部に位置し、町道樽野・大越線樽野バス停付近より町道樽野一山久保線がのびる。町道樽野・大越線より町道樽野・山久保線の起点付近には、樽野の集落があり、その集落を取り囲む台地縁辺部で南北向きの畑地に遺跡があり、縄文時代後期の市来式土器、晚期の夜臼式系土器や石皿、石鎌、黒曜石剝片、磨石、チャート剝片などを採集している。

本遺跡の所在する台地は、傾斜地のために個人による構造改善事業実施により、地形が大きく変化し、段々畑となっている。

このような地形のため、トレーニングの設定にあたっては、できるだけ現地形をとどめている畑地を選び、4ヶ所に設定した。ただし、遺跡の北部の畑地は同じような環境で、また、芝畠となっているためにトレーニングの設定を控えた。

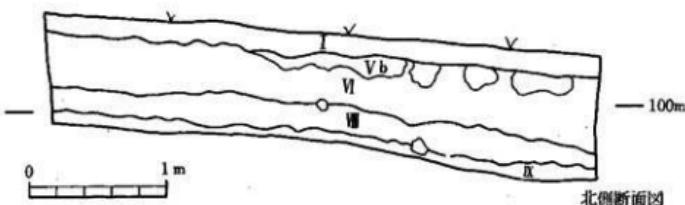
第2節 各トレーニングの調査

1. 1トレーニング（第52図・図版）

1トレーニングは遺跡地の南西部で、標高101.7～100.4mの台地縁辺部で東部へ傾斜する畑地に設定した。この畑地は、町道より北側へのびる農道に隣接し、その反対側は樽野集落の北西端に位置する民家があり、西側は雑木林で墓地も所在している。

土層

I層は、耕作土で黒褐色を呈し、耕作土の直下には、トレーニングの東側にVb層黄褐色軽石層がブロック状に残存し、西側では大幅な削平を受ける。下位層は、VI層黒褐色火山灰層で厚さ約40cmから50cmを測り、西側は削平を若干受け、濃い黒色で粘質が強い層である。VII層淡黄褐色火山灰土は堆積を認めず、下位にはVIII層黒茶褐色火山灰土があり、若干黄白色がかかる。その下位はIX層淡黑茶褐色火山灰土となり、サラサラしている。これらの層位は全体的に南東側へ傾斜を認め、当時の地形を推察することができる。畑地には、遺物の散布を認めた。



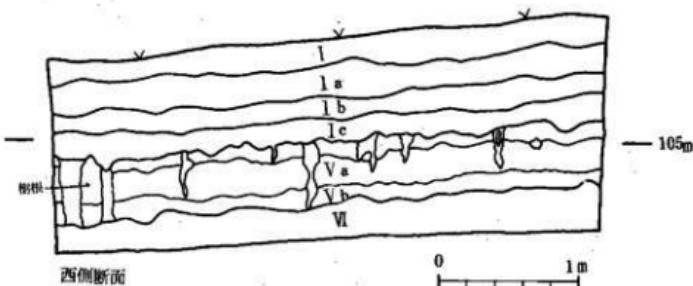
第52図 1トレーニング土層断面図

2. 2トレンチ (第53図)

2トレンチは、遺跡地の南西部で標高106.5mの台地縁辺部付近で南側および西側へ傾斜する畑地に設定した。この畑地は町道よりのびる農道に隣接し、南西側隅には倉庫と納骨堂がある。また、梅野の集落北西端にある民家の北側約40mに位置し、1トレンチより北側へ約100mのところである。

土層

I層は、耕作土で黒褐色を呈し、耕作土の直下にはIb層黒色土、Ic層黒色土に斜長石を含むIb層黒色土となる擾乱層である。この層の下位はII層黒色腐植火山灰土で、約10cmから26cmの堆積を測るが、擾乱を受けている。III層は堆積を認めない。IV層は暗褐色火山灰土で、約5cmから18cmを測り、薄い堆積である。下位層はVa層明黄褐色火山灰土で、約20cmから30cmを測り、径1cmから2cmの軽石を多く含む。Vb層は黄褐色軽石層で、約10cmから20cmを測り、略水平状に薄く堆積し、このV層には多くの樹根跡を認めた。VI層は濃い黒色で粘質の強い黒褐色火山灰土である。これらの土層は幾分西側へ傾斜を認め、擾乱層より土器小破片を数点認めたが、細片のため図化はできなかった。他の層よりは、遺物・遺構とともに検出しなかった。



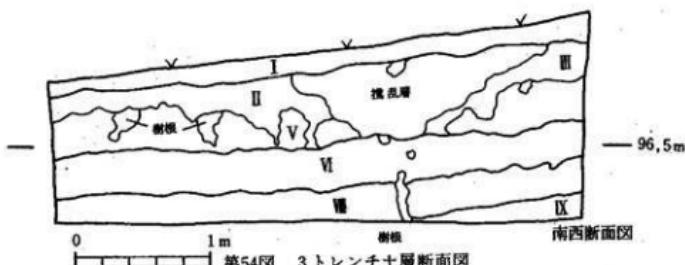
第53図 2トレンチ土層断面図

3. 3トレンチ (第54図、図版16)

3トレンチは、1トレンチの南西約30mの1トレンチと同じ畑地で標高約98mを測り、南西部や南東部に大きく傾斜する。本トレンチの南側約30mには民家があり、その比高差は約8mで懸崖となり、西側雜木林側に隣接した位置に設定した。

土層

I層は耕作土で黒褐色を呈し、耕作土の直下にはI層黒色腐植火山灰土となるものの上部は削平を受け、残存部で約10cmから40cmを測る。耕作土よりII層・Va層・Vb層の一部では、擾乱を受け、II層の一部も大きく傾斜する。II層の直下にはVa層明黄褐色火山灰土を確認する。その最上部には、Vb層黄褐色軽石層をブロック状に認める。下位にはVI層黒褐色火山灰土で、約

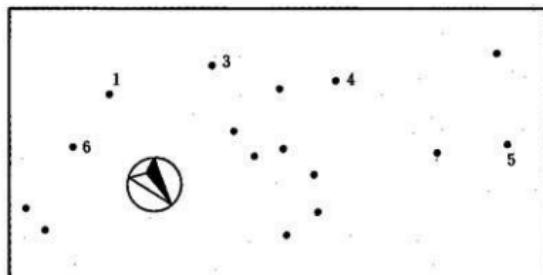
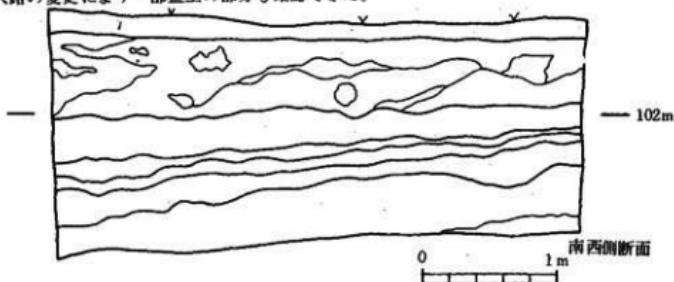


第54図 3 トレンチ土層断面図

26cmから30cmを測る。VII層淡黄褐色火山灰土層（幸星火碎流）で、風化が激しく粘土化している。VI層は明茶褐色火山灰土でサラサラし、トレンチの北東部の一部に認めた。これらの土層は、全体的に南西側に傾斜を認め、各層よりは遺物・遺構を検出しなかった。

4. 4 トレンチ（第55・56図、図版17）

4 トレンチは、遺跡地の南西部で、標高101.9 mの畑地の南西部に設定した。この畑地は、最近、個人による構造改善事業等の実施により畑地の大半はシラス層まで削りを受ける。しかし雜木林や町道樟野・山久保線よりのびる農道に隣接した部分に旧地形を留めているが、畑地の進入路の変更により一部盛土の部分も確認できた。

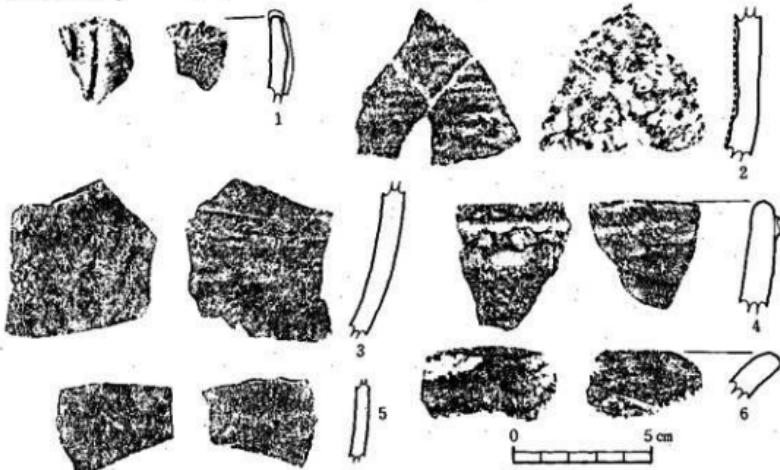


第55図 4 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

本トレンチは、Iトレンチ設定の畑地に隣接している。その比高差は約50cmを測り、距離にして北東側へ約40mである。

土層

I層は暗褐色の耕作土で、耕作土の直下に約50cmから60cmの盛土を認めた。基本土層のI層からII層の層が複雑に混入し、盛土の直下にはIb層黒褐色の旧耕作土が残存する。その下位には大正3年の火山灰が薄く帯状に認めた。Ic層は黒色火山灰土、Ib層は黒色火山灰土で斜長石を多く認める。耕作土からIb層までは擾乱層である。II層は黒色腐植火山灰土層で上部より遺物が出土した。



第56図 4トレンチ出土遺物

遺物

遺物は、II層の黒色腐植火山灰土より15点の土器片が出土した。うち5点図化し、他は細片のため図化し得ない。また、耕作土より出土した土器1点をも図化した。

1は、口縁部片で、口唇部を覆うように細い粘土の紐を貼り付け、さらに口縁端部より継ぎに貼り付けた器形で、外面はナデ、内面は磨いてある。色調は外面で褐色、内面で明褐色を呈し、胎土には多くの微砂粒を含み、石英、長石、角閃石などを認めた。2は、深体形土器片で、外面はナデ、内面は剥落して不明である。色調は外面はよい褐色、内面は橙色を呈し、胎土には砂粒を含み、中でも角閃石を多く含む。3は、薄手の土器片で、内外面ともに磨きによる調整で、色調は内外面ともに灰褐色を呈し、胎土は多くの細砂粒を含み、石英、長石、角閃石などがある。4は、研磨土器片で、色調は外面で茶褐色、内面は灰黒褐色を呈し、胎土には細砂粒を含み、石英、長石、角閃石などを多い。5は、刻み目突带をもつ口縁部片で、外面には

煤の付着を認めた。内外面はともにナデ調整である。色調は外面で暗黒褐色、内面は灰黒褐色を呈し、胎土には大小の砂粒を含み、なかでも角閃石、石英、長石などを多く認め、器壁面にまで露呈する。6は、土師器の雍形土器の口縁部片で、内外面ともに磨滅しているために不鮮明であるが、ともにヨコナデ調整で、色調は外面で明黄褐色、内面で明灰褐色である。胎土には多くの砂粒を認める。

第3節 まとめ

梅野遺跡は、安樂川中流付近の南向きで、台地縁辺部の畠地に位置し、地形にも恵まれている。しかし、傾斜地であったためか個人による構造改善事業等の実施で、地形は大きく変化してシラス層まで削平を受けている。現在では畠地がかなり広い平坦面をもち、芝栽培の畠地が多くみられる。

本遺跡は、4トレンチにおいて遺物が出土しただけで、他トレンチからは皆無であった。現在でも畠地の表面には、遺物の散布が確認できる。トレンチ設定以外の畠地では、より以上に削平されているため、遺跡の可能性はきわめて薄いものと考えられる。このような環境のなかで残存していた地点として意義がある。

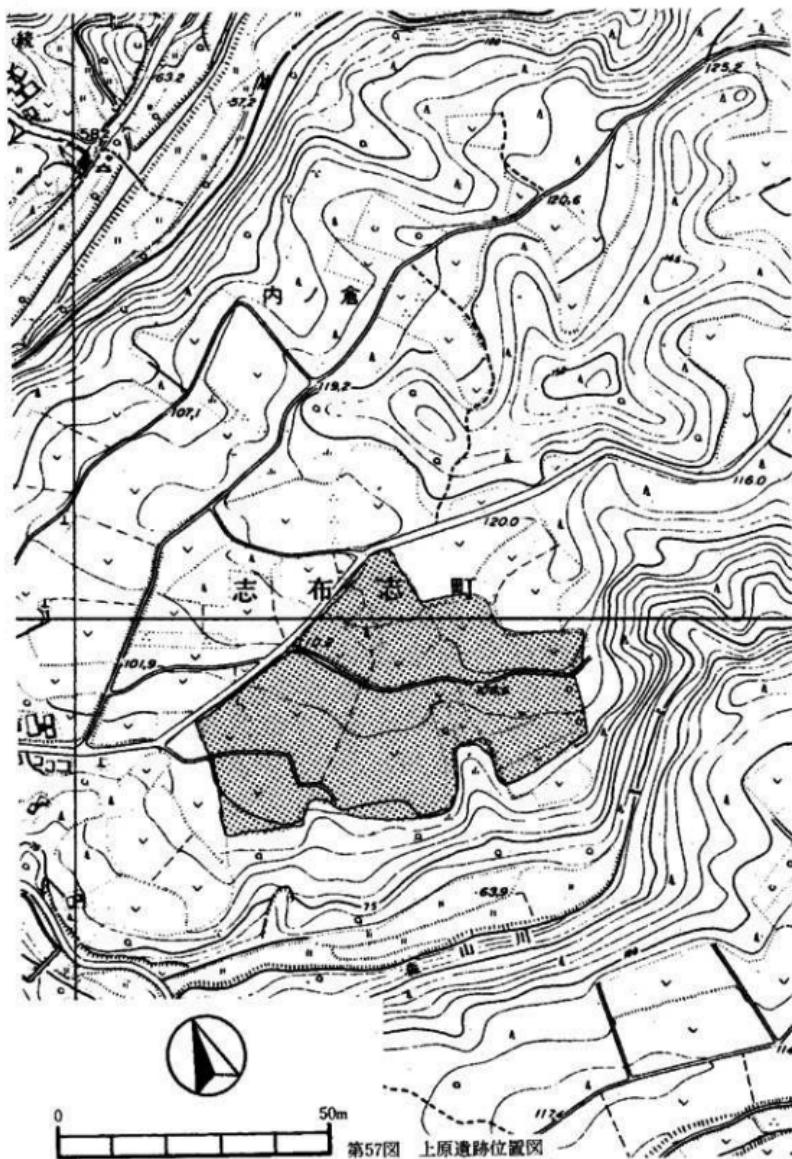
4トレンチは、ごく最近に削平された畠地で、盛土のためかろうじて残存しているものの、各時期の遺物の混在を認めた。1は、小破片のために定かでないが、縄文時代の春日式系土器に酷似している。2から5は、縄文時代晩期に相当する土器片で、4は浅鉢形土器片である。

このような状況のなかで、4トレンチの付近は小範囲に残存していることが判明した。周辺地域は、遺物包含層と考えられる層の削平が大きい。また、出土した遺物も小破片のみで図化し得ず考察するに到らないものである。

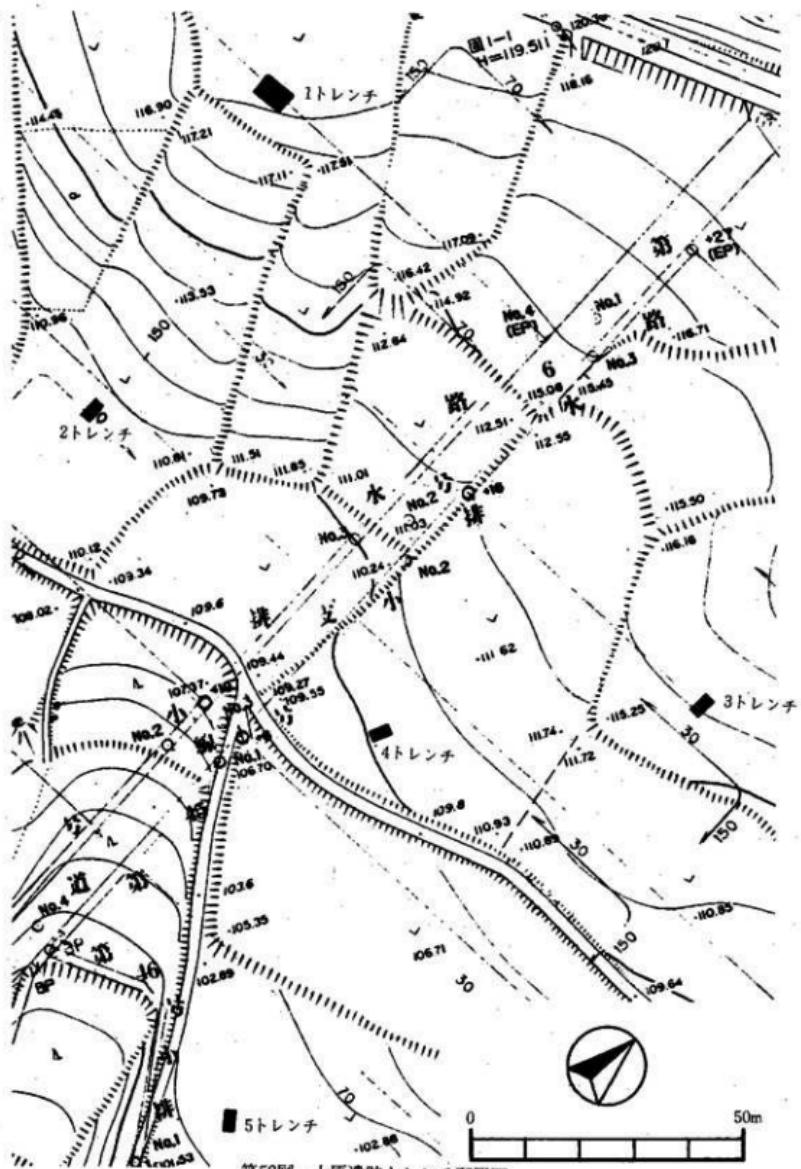


第8章 上原遺跡





第57図 上原遺跡位置図



第58図 上原遺跡トレンチ配置図

第1節 調査の概要 (第57・58図、図版18)

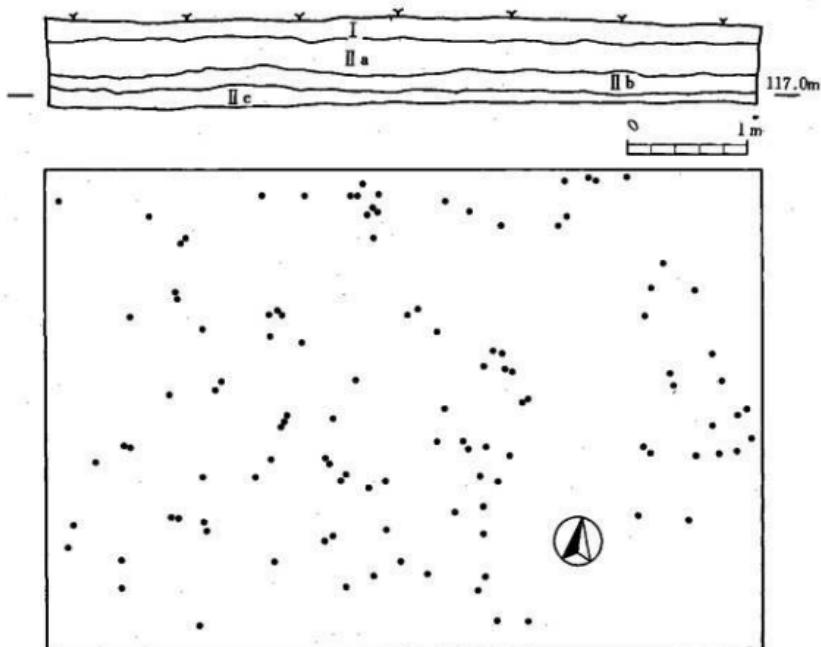
安楽川及びその支流の森山川は、シラス台地を侵食し、多くの侵食谷を形成するとともに、台地を分断する。このため台地は、舌状や帯状の台地となる。

上原遺跡も帯状の台地に立地する。遺跡のあたりはこの台地の分水嶺状のなだらかな尾根をさかに、南北に傾斜するうちの南面する斜面一帯で、標高は高所で約200m、台地縁辺部の低地で約103mを測る。トレンチは、工事計画により切土する個所ないしは道路敷に予定されている所や削平の進んでいない地点を選定し、2m×4mを基本として設定した。このうち1トレンチには遺物が出土したため若干の拡張を行った。

第2節 各トレンチの調査

1 トレンチ (第59・60図、図版19・20)

1トレンチは、上原遺跡では最北端に位置する。このあたりは台地が南北に傾斜する分岐点にあたり、標高約118mの南面する台地である。頭初2m×3mのトレンチを設定したが、遺物が出土したため拡張を行った。



第59図 1 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図



第60図 トレンチ出土土器

土層

本トレンチでは、II層中に遺物が出土したためIIb層まで掘り下げを行った。

I層は黒褐色土の耕作土である。IIa層は、黒色火山灰土で30cm程堆積する。IIb層は斜長石を含む黒色火山灰土、IIc層は再び黒色火山灰土となり、ほぼ水平に堆積している。

土器

1は、口縁部に断面形がかまぼこ形の貼付凸帯を1条横位に巡らす。口唇部は平坦である。色調は黒褐色を呈し、焼成はやや粗い。縄文時代後期に比定される土器である。

2は、器面に数条の太い沈線を施す淡黒褐色を呈する土器片である。縄文時代後期の土器であろう。3は、平坦な口唇部端がわずかに突出する器形を呈するもので、色調は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を含み焼成は粗い。

4は、平坦な口唇部端及び肩部に各1条の横位の刻目凸帯を有する變形土器である。色調は黒色を呈し、胎土には砂粒を含み焼成は粗い。

5は、口縁部に1条の刻目凸帯を巡らす茶褐色の土器で、弥生時代中期の變形土器である。

6は、口縁部が直線的に立上り、逆L字状に外反し口唇部には刻目を施す。内外面とも刷毛などで調整である。7は壺形土器の口縁部で、大きく外反した口縁の端面はくばむ。8、9は壺形土器の肩部である。10は壺形土器の底部である。

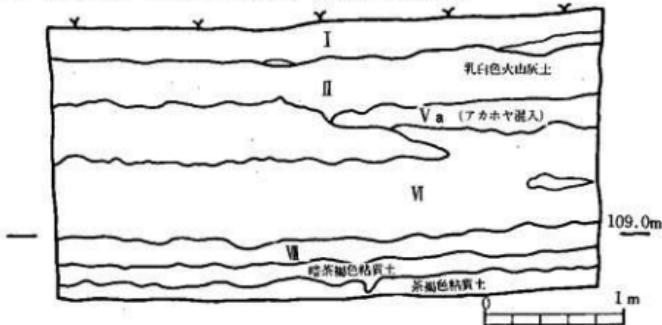
2トレンチ (第61図)

2トレンチは、1トレンチの南約60mの位置に設定した。このあたりは南面する台地の傾斜地で標高121m程である。遺構・遺物とも出土しなかった。

土層

I層耕作土下位には大正年間の桜島噴火による火山灰が薄く堆積し、以下II層の黒色の腐植火山灰土、Va層の黄褐色火山灰土（アカホヤ塊を混入）、IV層黒褐色火山灰土、VII層の淡褐色火山灰土（「薩摩」）となり、VI層以下には、暗茶褐色粘質土、茶褐色粘質土となる。

本トレンチの土層は、ほぼ水平に堆積し、VI層が比較的厚い。



第61図 2トレンチ土層断面図

3トレンチ（第62図）

3トレンチは、上原遺跡の東端部に設定したものである。

南面する台地の傾斜地で標高は138m程度である。現在は広い畑となり平坦であるが、これは造成によるもので、かつては微傾斜を呈していた。

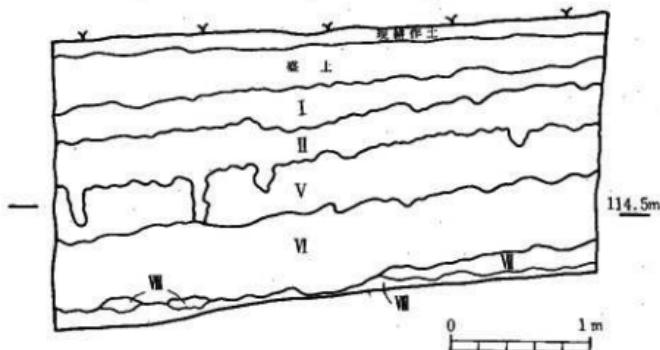
土層

概要で記述したように、畑地の造成が行われていたため、I層の旧耕作土までの約40cmは盛土及び現耕作土となっている。

旧耕作土下位は、基本土層のII層の黒色腐植火山灰土が約30cmあり、V層となる。このV層はa（腐植土）、b（明黄褐色火山灰土）、c（黄褐色軽石）に細分可能な層である。

VI層は、黒褐色粘質火山灰土で約60cm堆積する。VII層は淡黄褐色火山灰土（「麻摩」）で10cm内外の帯状やあるいはブロック状に堆積する。このVII層の下位は暗茶褐色粘質土となる。

土層は地形の影響で概して南へ傾斜して堆積している。



第62図 3トレンチ土層断面図

4トレンチ（第63図）

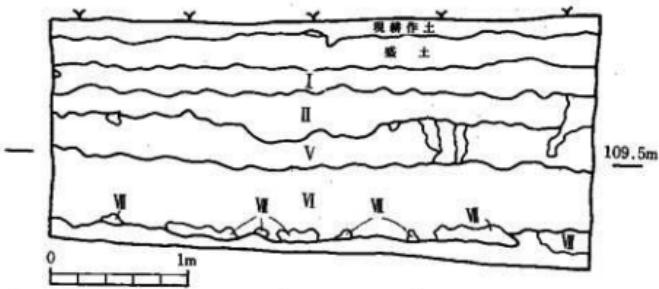
4トレンチは、3トレンチの南約50mの南面する台地傾斜地に設定したものである。

現在標高約130mを測る平坦な畑地であるが、3トレンチ同様かつては傾斜地であり、この斜面を削平し畑地に造成したものである。

土層

畑地の造成が行われたため、I層の旧耕作土までの約30cmは盛土及び現耕作土となっている。I層の旧耕作土は層厚20cm程度で、その下位は黒色の腐植火山灰土のII層となる。基本土層のIII層は、本トレンチでは見られない。V層はa（腐植土）、b（明黄褐色火山灰土）、c（黄褐色軽石）に細分でき、V層全体で約30cmを測る。

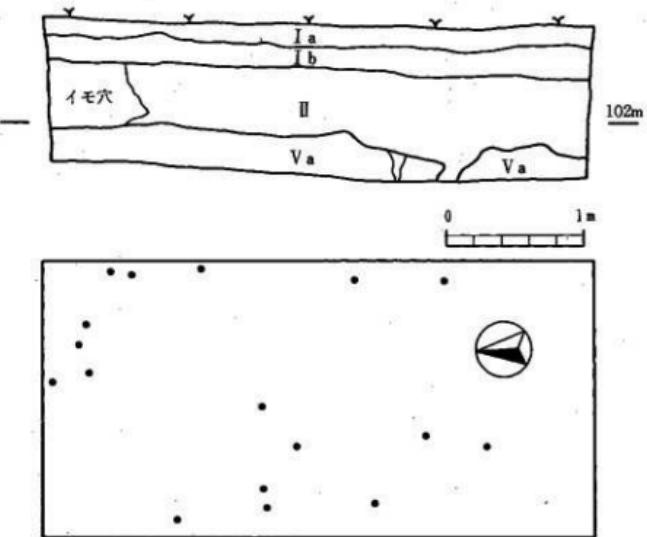
以下はVI層黒褐色火山灰土、VII層淡黄褐色火山灰土となり暗茶褐色粘質土とつづく。



第63図 4 トレンチ土層断面図
5 トレンチ (第64・65・66図, 図版20)

5 トレンチは、上原遺跡の最南端に設定した。このトレンチ周辺は、南面する台地の縁辺に位置し、トレンチの南側は約30mで深い侵食谷に続く。標高は約103mである。

遺物はII層中に出土した。



第64図 5 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

土層

全体的に南へ傾斜して堆積するが層位は比較的安定している。

I層の耕作土の下位は、大正3年の桜島噴火の火山灰が5~8cmでうつすらと堆積している。I層に続くII層は、黒色の腐植火山灰土であるが、a(黒色)、b(黒褐色でサラサラとしている)、c(黒色)と細分できる。遺物は、b、cを主体として出土した。

Va層は、明黄褐色火山灰土で30~50cmの堆積を示す。Va層以下については、II層中に遺物が出土したために深掘りを中止したので不明である。

土器

15は復元底部径7.5cmを測る平底底部である。色調は茶褐色を呈す。弥生時代中期の壺底部である。

石器

11は、V層から出土したもので、チャートの縦長剥片を石材とした石片である。画面から抉りを施し、先端部は一部欠損しているか丁寧な調整を施している。

第3節 表面採集遺物(第66、67図、図版20)

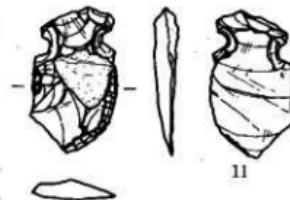
上原遺跡のトレンチ調査の結果、遺物が出土したのは1、5トレンチであるが、周辺の畠地の表面採集でも良好な資料を得たので、記述しておく。

土器

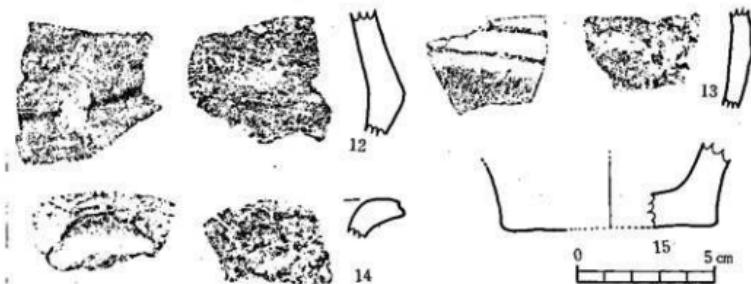
12は、黒褐色を呈する厚手の土器片で肩部がくの字に脇曲する器形で、胎土は粗く焼成も悪い。13は肩部に細い2条の凸帯を平行に巡らす壺形土器である。14は、口縁部が逆L字状に外反し、端部には溝が認められる。

石器

16、17は砂岩質の自然円礫を素材とする叩石である。



第65図 5トレンチ出土石器



第66図 5トレンチ出土・表面採集土器

第4節 まとめ

上原遺跡では5トレンチを設定して、各々掘下げたが、遺物が出土したのは1トレンチと5トレンチであった。

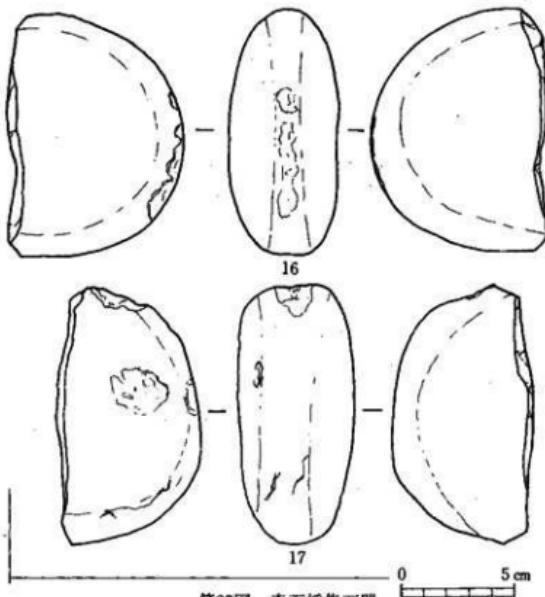
遺跡の所在するあたりは、南面する緩傾斜地で台地縁辺部にもあたり生活の条件に適していたと思われる。事実畑地にはいくらかの土器片等も散布している。

しかし、現在は個人による畑地造成のため削平が多くみられ、従って遺物包含層と考えられる層位も削平された部分が多い。

このような現状のなかで、1トレンチはかろうじて残存していた地点として貴重な存在である。1トレンチからは縄文時代晩期相当の土器が出土した。

この種の土器は主に黒川式土器といわれるものである。ただ発掘した面積や出土遺物は小片がはなはだ多く、考察を加えることはできない。

5トレンチについても同様である。だから本章では概略を記し今後にまちたいと思う。

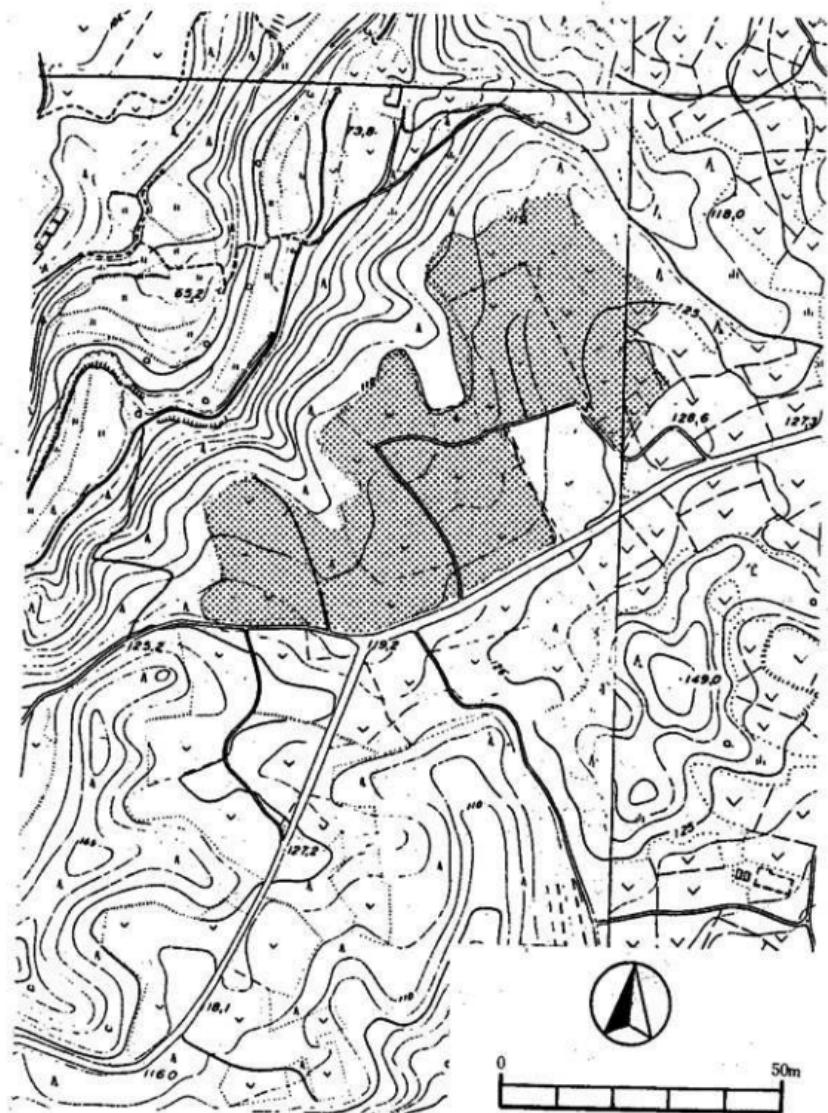


第67図 表面採集石器

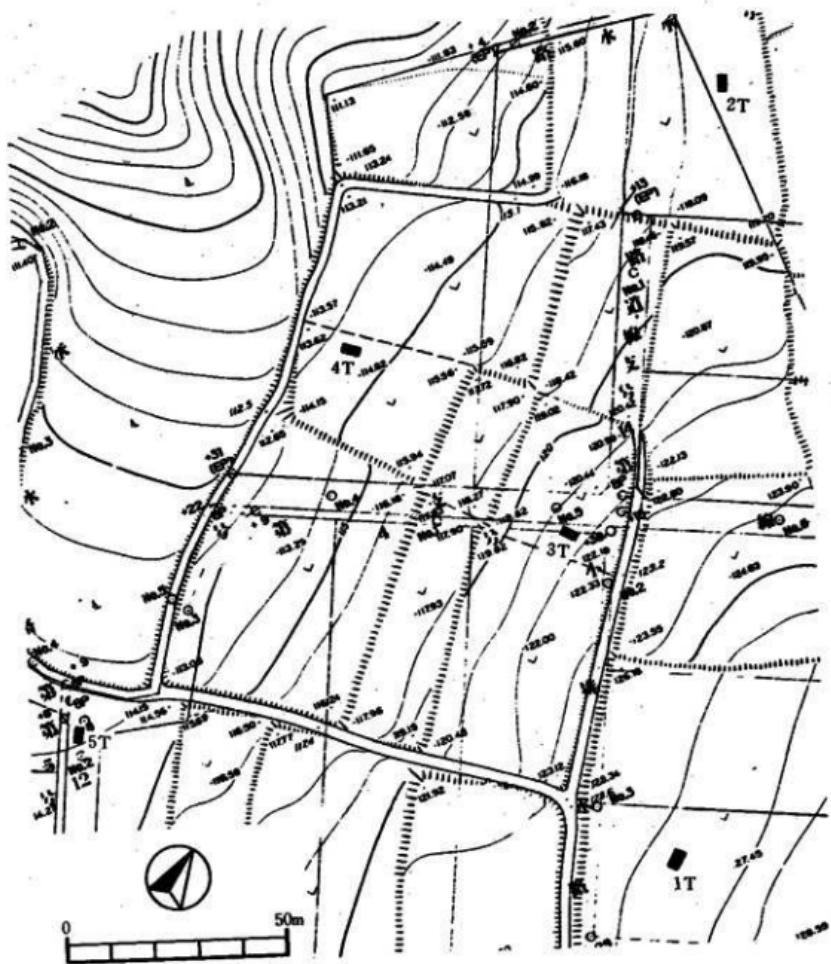


第9章 平原 A 遺跡

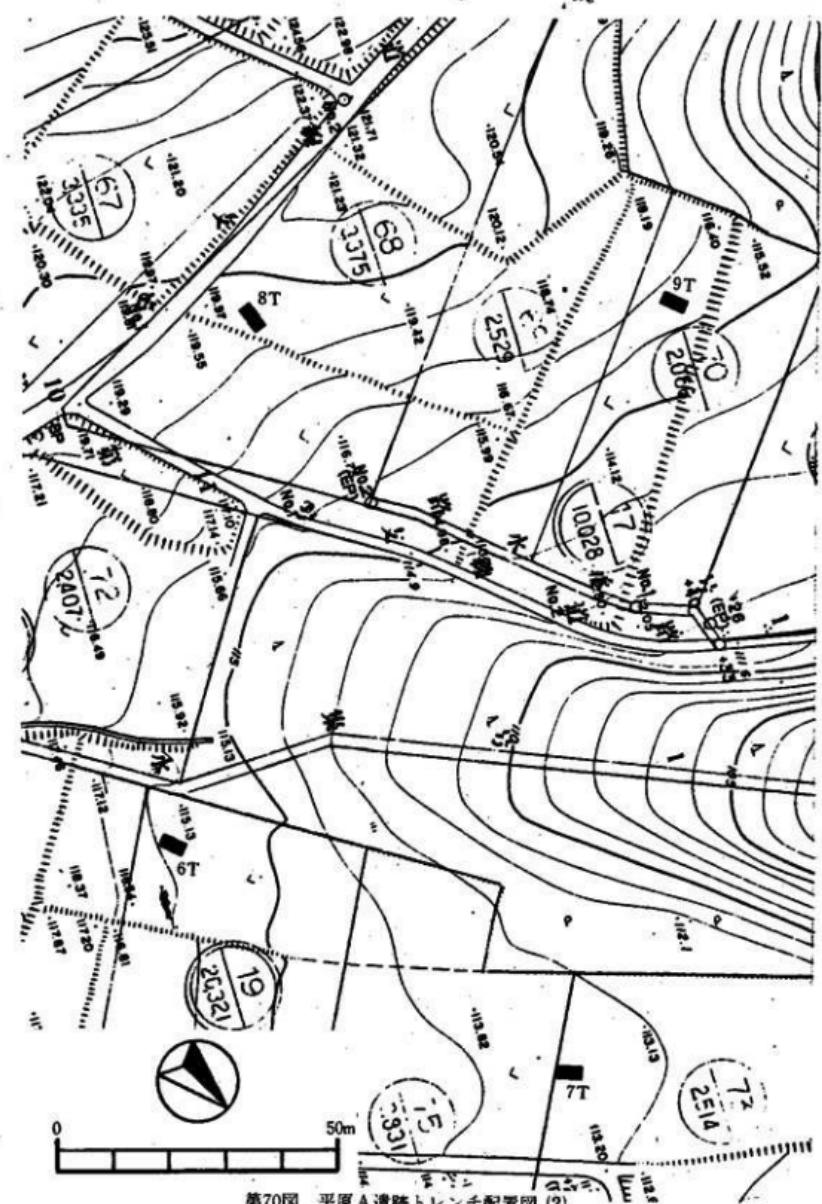




第68図 平原A遺跡位置図



第69図 平原A遺跡トレンチ配置図(1)



第70図 平原A遺跡トレンチ配置図(2)

第1節 調査の概要 (第68・69・70図、図版21・22)

平原A遺跡は、志布志町の北西部の曾於郡松山町境寄りに位置する。

遺跡は町道樽野・山久保線の北側で、北西部には南流してきた安楽川と、安楽川によって形成された侵食谷がほぼ北から南へ狹少な谷となっている。

この谷と河川によって分断された台地は、安楽川に向かって直角な小谷も形成しているために、台地縁辺部には入り込んだ沼状の窪地を呈する所も多い。

今回の平原A遺跡も、この台地の縁辺部に位置するもので、遺跡の範囲も縁辺部に添って立地し、内陸部へは広がっていない。

調査はこのような地形や、分布調査によって確認した範囲に、工事により切土となる部分、あるいは道路敷となる部分を選択、加味して基本的には $2\text{m} \times 3\text{m}$ のトレンチを設定、順次表土層より掘り下げを行なった。

トレンチは、合計9ヶ所である。

各トレンチにおける調査結果は、以下各トレンチごとに記述するが、平原A遺跡全体を概観すれば、明確な遺構ではなく、出土遺物も上層部において縄文時代晚期の土器片が散見されたほか、少數の石器が下層から出土したのみである。

第2節 各トレンチの調査 (第71図、図版22)

平原A遺跡1トレンチは、本遺跡の最東南端部、町道樽野・山久保線等に設定したものである。このあたりは、標高約123mを測る台地の内陸部に位置する。現況は畠地である。

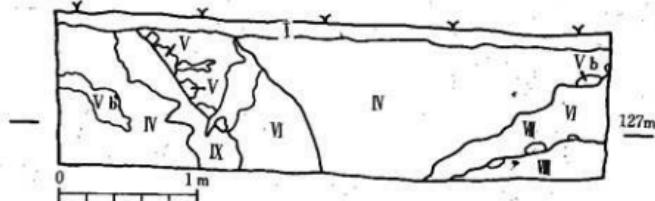
土層

1トレンチは、台地の内部のほぼ中央に位置し、平坦であるため各層もほぼ水平に堆積しているが、以下に記述するように上層の横転がみられるため、著しく不整合を呈する。

I層の耕作土は安定して堆積しているが、以下は横転や不整合が著しい。

IV層黒褐色火山灰土をはさみ、北側はVb層がブロック状となり、VI層は北より南にかけて傾斜してVII層、VIII層となる。VI層は地表下約1.4mで消滅する。

一方南側は層位が直角に近い状態で横転している。すなわちIV層に接して、VI層、V層、IX層、VII層となり、かなりの混乱がみられる。



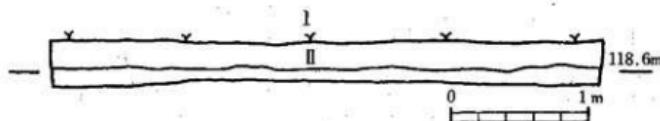
第71図 1トレンチ土層断面図

2トレンチ（第72・73・74図・図版22・23）

2トレンチは、平原A遺跡のうちでは最北端、北面する台地縁辺部に設定したものである。このあたりは、標高約118mを測る。II層中に多量の自然礫や自然礫を破碎したものの、あるいは若干の石器が出土したため、II層で掘り下げる中止した。

土層

2トレンチのI層は約20cmの厚さではほぼ水平にじかも均一に堆積しているもので現代の耕作土である。II層は、黒色腐植火山灰土でやや粘質を帯びている。層厚は下位まで完掘しなかつたため不明である。



第72図 2トレンチ土層断面図

遺構

本トレンチは、北面する台地縁辺部端で、トレンチはこの傾斜に向て2m×4mの細長いものであった。今回の調査は、遺物等の所在の確認に主眼を置いていたため、検出した礫や石器片の性格については不明であるが、ここでは遺構として取扱った。

安山岩質の自然礫や、砂碎された同質の自然礫、あるいは磨石や叩石片が、多くの集礫に混在して出土した。出土層はII層の上部より下部にかけてであるが、ひとつのまとまりをもつたものではなく散在している状態であった。この集礫中からは一片の土器片も出土しなかった。

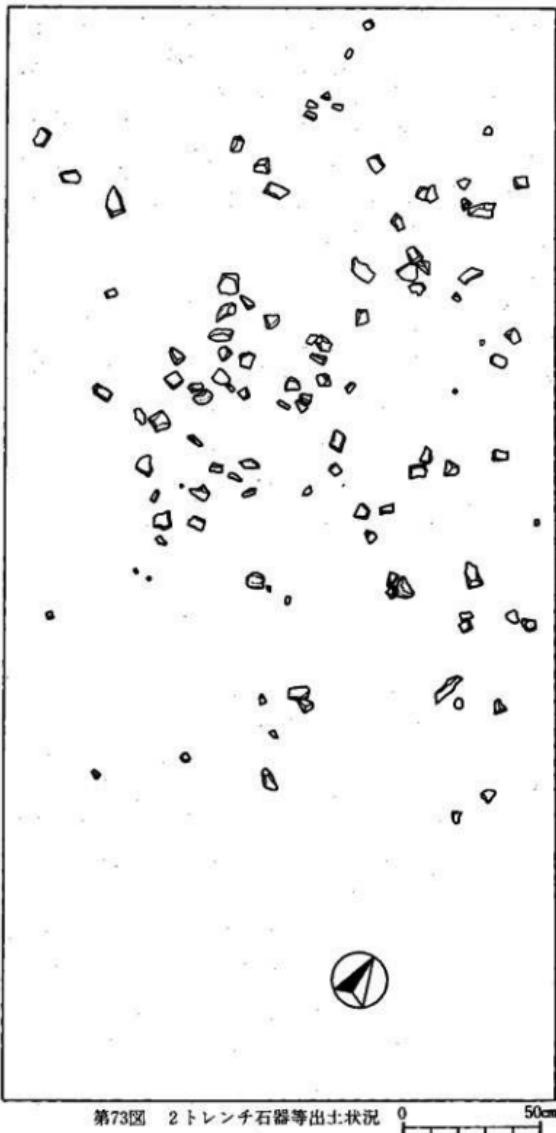
石器

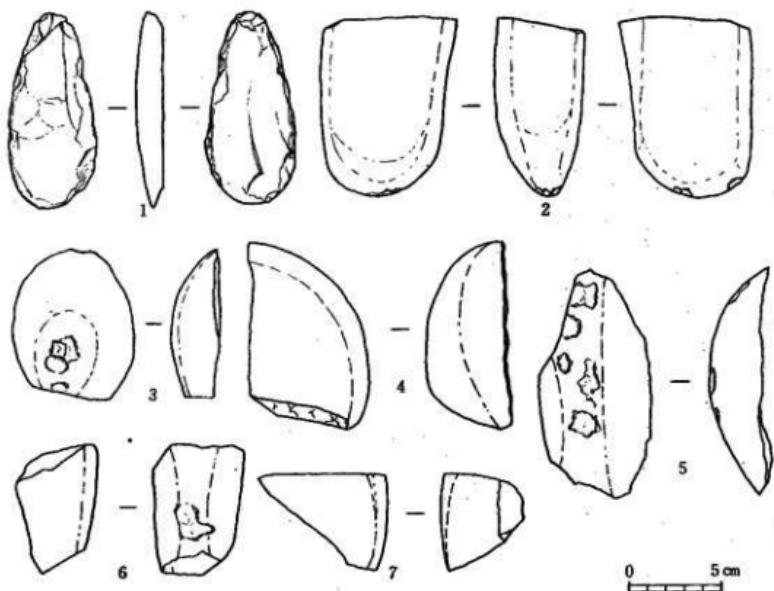
1は、表層より出土した安山岩を素材とした打製石斧である。全長10.8cm、最大幅は刃部近くで4.8cmを測る。両面とも荒い主要剥離面が継長に残り、刃部や周縁部には細かい調整剥離を施している。また、基部のうち片側周縁部には、狭く浅い抉りが施されている。

2は長方形の砂岩の自然礫を素材とした叩石である。各面に調整痕はなく、先端部に敲打による敲打痕をわずかに認める。約半分は欠損し、残存する部分も3つに割れ、接合したものである。

3は砂岩質の円礫を素材とする叩石である。大部分を欠損しているが、周縁部と思われる位置にはわずかに敲打痕が認められる。

4も砂岩質の円礫を素材として石器に使用したもので多くは欠損している。残存する周縁部の一部にすりこんだ痕が認められることから磨石として使用したものである。5も砂岩質の円礫を素材としたもので、多くが欠損する。残存部からみると比較的大型の叩石であろう。周縁部に敲打痕が認められる。6・7も石器の一部であるが小片のため器種は詳かでない。表面には黒く煤が付着している。この煤が当時のものかどうかについては、出土位置が浅く明確にはえない。





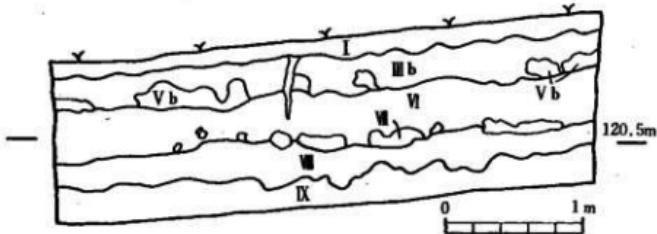
第74図 2トレンチ出土石器

3トレンチ(第75図)

3トレンチは、平原A遺跡の東側に設定したものである。

このあたりは、台地がやや西に傾斜する標高約122mのところで、一部畠地造成のため高位部は削平されている。遺構、遺物とも認められなかった。

土層



第75図 3トレンチ土層断面図

西へ傾斜する地形のため層も西へ傾斜して堆積する。I層は20~30cmの層厚な耕作土である。II層は削平されIIIb層の明黄褐色火山灰土層約25cmほどをもってVb層の黄褐色軽石層（アカホヤ）に達する。Vb層はブロック状に堆積する。

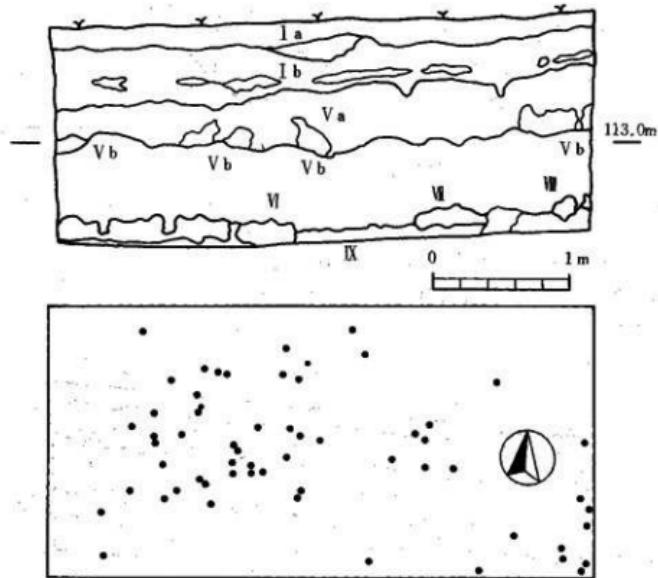
以下は、VI層の黒褐色火山灰土で粘質を帯び、層厚約40cmと厚い堆積を示す。VII層は、淡黄褐色火山灰土でブロック状となる。VIII層は、暗茶褐色上で粘質が強くIX層上面ではやや不整合な堆積となる。IX層は、明茶褐色上で粘質が強い。

4トレンチ（第76・77・78・79図、図版23・24）

4トレンチは、平原A遺跡のやや北寄りに設定した。このあたりは標高約115mを測る西面する傾斜地で、西側には幅約50mの深い谷状の窪地が台地と直交する。トレンチはこの谷頭の東側に隣接する。

調査の結果、上層を中心に土器や小自然礫が出土した。主に遺物を出土する層は、II層の黒色腐植火山灰土で、縄文時代晚期の上器である。

このほかVI層中に石鉄1点が出土した。



第76図 4トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

土層

土層は、ほぼ水平に堆積する。Ia層は耕作土、Ib層は淡黒褐色を呈し40cm程の堆積を示す。この層中には大正年間の桜島の噴出した灰白色の火山灰が薄く、ブロック状に堆積する。

Va層は、明黄褐色火山灰土で30~50cm程堆積し層中には、径1~2cm程の軽石を若干含んでいる。Va層下部には、黄褐色軽石（アカホヤ）がブロック状に堆積している。

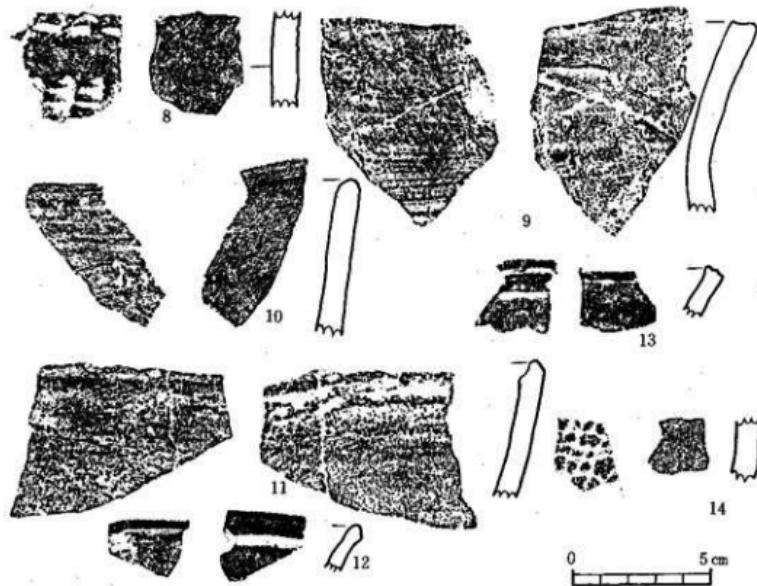
VI層は、黒褐色火山灰土でさわめて粘質が強く、乾燥するとクラックが走る。VII層は「薩摩」といわれる桜島を噴出源とする火山灰で、淡黄褐色のバミスで、ブロック状に堆積している。V層は暗茶褐色で粘質がさわめて強い土層である。

土器

土器は、Ia層を主体に出土した。出土土器は小片が多く図化したものは7点であった。

8は、淡黒褐色を呈する土器片で、器面には筋の大きい貝殻を用いて押引文を施している。胎土は砂粒を含み焼成は粗い。9は、外反する口縁部から平坦な口唇部をもつ黒褐色の土器片である。平坦な口唇部には浅い窪みを有する。

10, 11は黒褐色を呈する深鉢形土器で、11の器面には煤が付着する。12, 13は、浅鉢形土器13には器面に網目の圧痕をもつ土器片である。



第77図 4トレンチ出土土器

石器

15は、4層から出土した頁岩を石材とした石鉄である。交互削離により調整を施し、先端部は純く側刃がまっすぐで三角形を呈する。基部は逆刺が鋭く状が浅い。

16は、表土層中より出土したもので、砂岩質の自然礫を素材とした叩石である。周縁部を敲打痕が巡るが、両先端部が顕著である。17は、Va層中に出土した砂岩質の自然礫を用いた叩石である。



15

第79図 4トレンチ出土石器

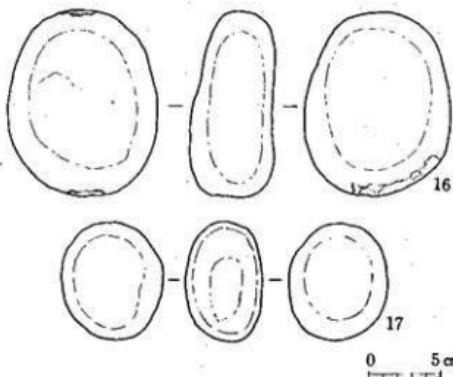
5トレンチ

(第80・81図、図版24)

5トレンチは、平原遺跡の中ほど、幅約50mの浅い谷の谷頭に設定した。標高約115mの北面する傾斜地である。谷頭のため土層の堆積は厚い。

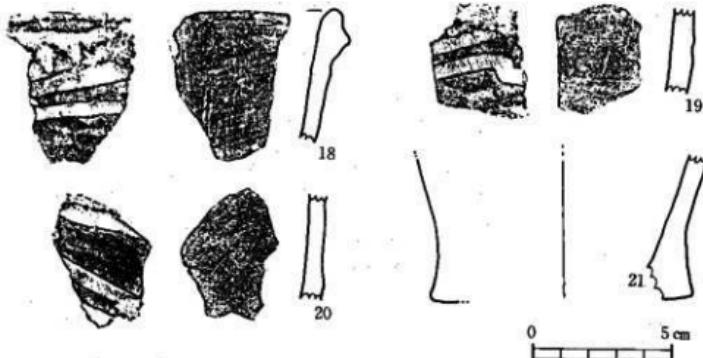
土層

谷頭のため各土層の堆積は他のトレンチと比較して厚い。I層は40cm程でその下位には薄く大正年間の桜島の火山灰が積り50~80cmのII層黒色腐殖火山灰土となる。遺物はVa層中より多く出土する。以下Va層は約50cmの堆積を示し、Vb層はでブロック状に堆積、VI層は安定して堆積するがVc層は再びブロック状に堆積するものである。



0 5 cm

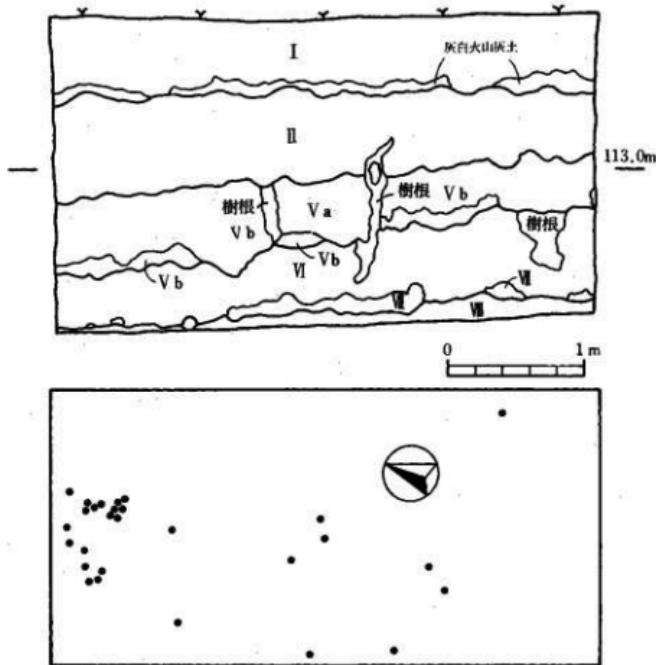
第79図 4トレンチ出土石器



第80図 5トレンチ出土土器

土 壁

18は舌状の口縁部下位に1条の刻目凸帯を有し、その凸帯際に浅く太い横位の沈線を施す。色調は黒褐色を呈し内外とともに貝殻条痕がみられる。凸帯の刻目は貝殻を使用する。19、20も18と同種で、横線文に曲線部がみられる。21は平底の底部で18~20と同様の底部であろう。



第81図 5 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

6 トレンチ (第82図)

6 トレンチは、平原A遺跡ではほぼ中央部に位置するところに設定した。このあたりは、沢状になった浅い湿地の基部で、北面する傾斜地である。標高は約115mを測る。地の基部で、現在は畑地であるが、削平部分もかなりみられる。遺物は出土しなかった。

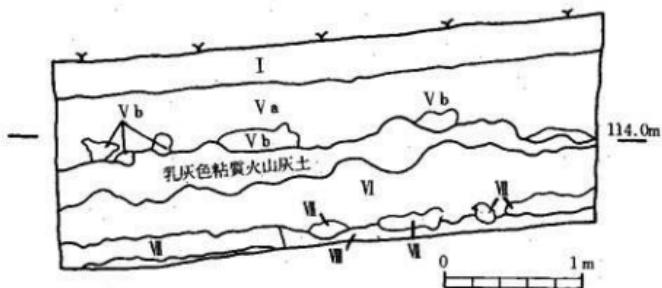
土 層

本トレンチは、沢状の基部と後世の削平により基本土層とは若干違う堆積状態を呈している。I層耕作土の直下は、直ちにVa層の明黄褐色火山灰土が、30~50cm程堆積し、その下部には

Va層の黄褐色軽石層(アカホヤ)がブロック状に堆積する。

他のトレンチではこの下部にはVI層がくるが、本トレンチでは乳灰色粘質土が20~40cm程の厚さであり、次のVI層黒褐色火山灰土となる。VI層は40~50cm程の層厚を示す。

VII層は「薩摩」に比定されている火山灰土でブロック状に堆積し、VIII層の暗茶褐色粘質土につながる。層全体は北に傾斜して堆積している。



第82図 6トレンチ土層断面図

7トレンチ (第83・84・85図、図版24)

7トレンチは、北に向く浅い沢状の窪地が平行するその沢間に設定したものである。

標高約113mを測り、台地中央部からなだらかに傾斜した斜面が平坦となるあたりで、台地縁辺部に位置する。

本トレンチからは比較的多くの土器片が出土した。

土層

Ia層は黒褐色土の耕作土である。Ib層は淡黒褐色土で耕作により削平された部分もみられる。基本上層でみるとII~VI層はすでに削平を受けVa層が直接認められる。Va層は明黄褐色火山灰土で1~2cmの軽石を含む。Va層は黄褐色軽石層(アカホヤ)でブロック状に堆積するVb層の下位には乳白色粘質火山灰土が約20cmの層厚であり、VI層は黒褐色火山灰土で粘質を帶びている。VII層はいわゆる「薩摩」でブロック状となり、VIII層は暗茶褐色粘質土となる。

土器

土器は、II層、IV層及びV層中に出土した。

23は、平底を呈する円筒形土器の底部付近の土器片で、器面には綾杉状の貝殻腹線による条痕を縱位に施す。色調は茶褐色を呈し胎土には金雲母を含む。焼成は良好である。24は、横位の沈線文の直下に縱位の撚糸文を施すもので、塞ノ神式に比定される土器である。器厚は薄く胎土には金雲母を含み焼成は良好である。

25、26も2と同様で塞ノ神式の土器片である。27は、内外面ともに粗い貝殻条痕を横位に施し、黒褐色を呈し胎土には金雲母を含み焼成は粗い、小片のため形式は不明である。

28は口縁部近くの土器片である。器面には貝殻による条痕が認められる。

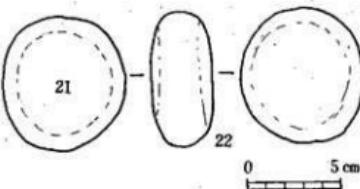
29, 30は口縁部下位に貼付凸帯をもち色調は褐色を呈する。

31, 32は幕目压痕を施す绳文時代晚期の土器片で色調はいずれも茶褐色を呈し、内面は研磨仕上げである。

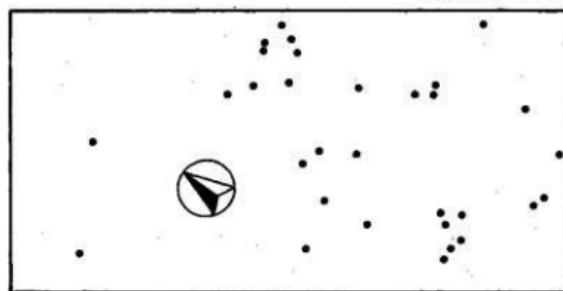
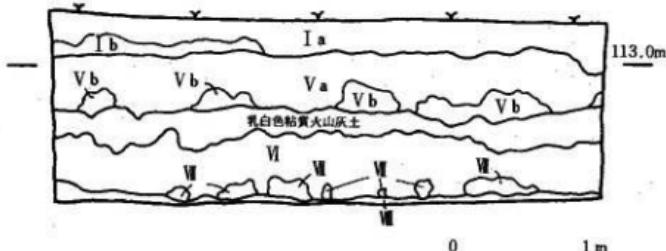
33~36は、浅鉢形土器で、内外面とも研磨される绳文時代晚期相当の土器である。口縁部が玉縁状となり、一条の沈線が横位に走る。焼成はいずれも良好である。37は底部が張り出し、やや上底状呈するもので晚期の底部である。

石 瓦

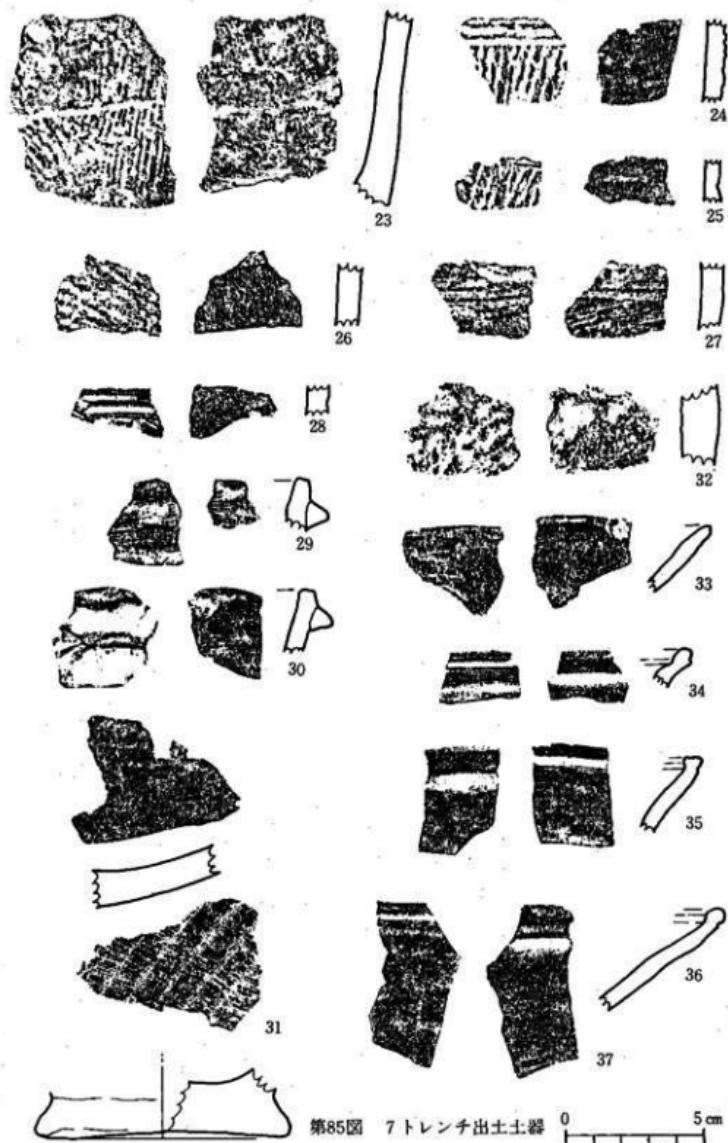
ここはIV層中より出土したものである。安山岩質の小編平な円礫を用いたもので、周縁部に敲打痕が認められる叩石である。



第83図 7トレンチ出土土器



第84図 7トレンチ土層断面図・遺物出土分布図



第85図 7トレンチ出土土器

0 5 cm

8 トレンチ (第86図)

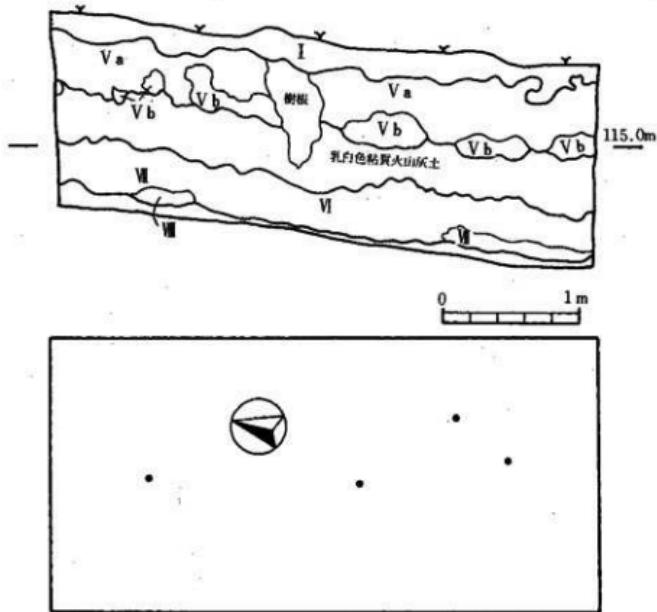
8 トレンチは、平原A遺跡では最北西部に設定したものである。このあたりは、沢状の窪地の西側で、台地縁辺部にある。標高は約118mを測る北面する傾斜地である。

土器は、層中より数点出土したが、小片のため図化できるものはなかった。

土層

土層は、傾斜面のため北に向かって堆積する。I層は黒褐色を呈する耕作土である。基本土層のII~IV層ではなくVa層の明黄褐色火山灰土が約40cmの厚さで堆積する。この層中には若干のバミスが含まれている。Vb層は黄褐色軽石層で(アカホヤ)と呼称されるものである。ブロック状に堆積する。

Vb下位は乳白色火山灰土で粘質を帯び約50cmの層厚を呈する。VI層は黒褐色火山灰土で、きわめて粘質が強く、乾燥するとクラックがはいる。VII層は「薩摩」と呼ばれている淡黄褐色軽石でブロック状に堆積する。VIII層は暗茶褐色粘質土である。



第86図 8 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

9トレンチ(第87図)

9トレンチは、平原遺跡の西端に設定した。

このあたりは台地の中央部で、西には小高い山が迫り、傾斜もややきびしい。このため畠地造成が行われ、一部の層はすでに削平されていた。遺物は出土しなかった。

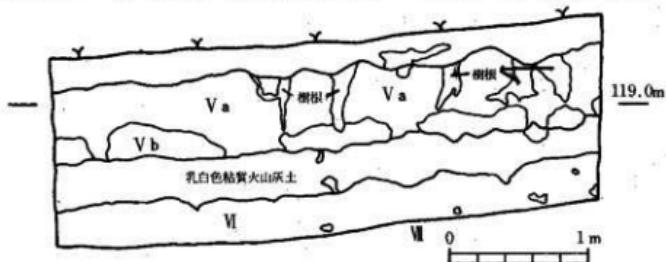
土層

I層は耕作土で、基本土層のII~IV層は畠地の造成のためすでに削平されていた。

Va層は明黄褐色火山灰土で60cm程の堆積を示し、厚い。Vb層は黄褐色輕石で、ブロック状に堆積する。

Va層下位は乳白色粘質火山灰土で約50cm堆積する。

VI層は黒褐色火山灰土で、きわめて粘質が強く、クラックが入りやすい。VII層のバミスは本トレンチでは小ブロックである。これは傾斜する地形のため流失したものと考えられる。



第87図 9トレンチ土層断面図

第3節 まとめ

平原A遺跡では都合9ヶ所のトレンチを設定し各々掘下げを実施した。

その結果、2トレンチと7トレンチに良好な遺物の出土をみ、他のトレンチでもわずかに土器や石器が出土したトレンチもあった。しかしその多くは実測不可能な細片が多く、論考するにいたらなものであった。それは本遺跡が縄文時代晩期を主体とするものであり、従って包含層が浅いため、個人の畠地造成等によりこの包含層まで削平が達していることに起因している。このような状況のなかで、2、7トレンチにおける遺物の出土は、稀有のことであった。

2トレンチでは8m²のトレンチ内に114個の自然礫、破片礫、石器片が集中して出土した。この礫等の集中区には一片の土器片も確認できなかったものの、礫等の集中は注目されよう。

性格や範囲には不明確な面が多いが、出土層が縄文時代晩期相当層であることは確かなので今後の類例の増加にまちたい。7トレンチ出土土器も多くの晩期の土器であった。

以上のことから、本遺跡は縄文時代晩期を主体とする遺跡で、残存する範囲も限定されるようである。

第10章 平原B遺跡

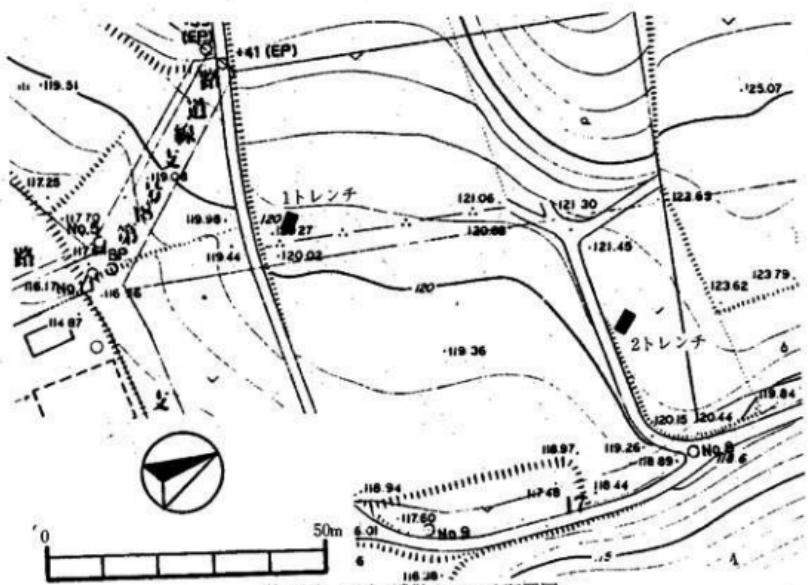




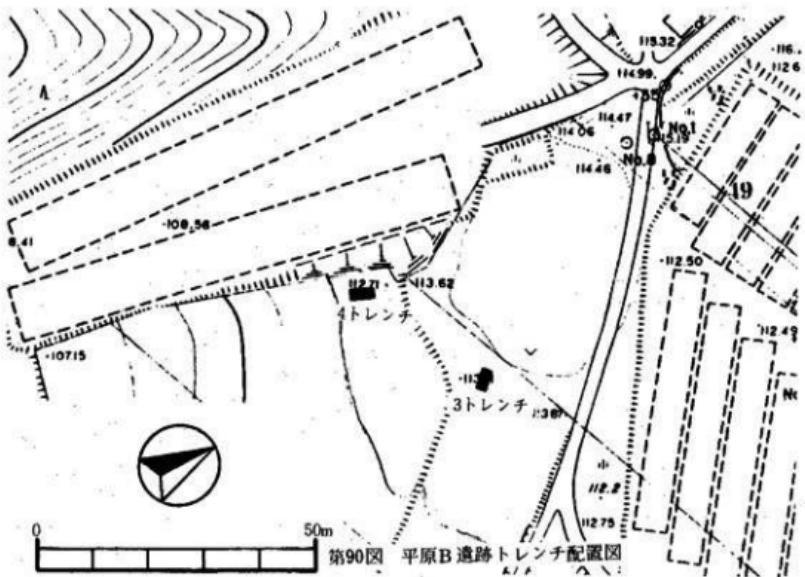
0

50m

第88図 平原B遺跡位置図



第89図 平原B遺跡トレンチ配置図



第90図 平原B遺跡トレンチ配置図

第1節 調査の概要(第88・89・90図)

平原B遺跡は、平原A遺跡の南側、町道樽野・山久保線を挟んだ同一台地上に立地する。

この台地は、南流する安楽川とその支流である森山川によって形成された侵食谷のために、台地は舌状の台地状を呈する。

平原B遺跡は、この台地の南面する縁辺部に位置するため、南側は深い谷に接する標高120m程の傾斜地である。トレンチは、工事の切土部及び道路予定地に削平されていない個所を選択し、4ヶ所を設定した。

第2節 各トレンチの調査

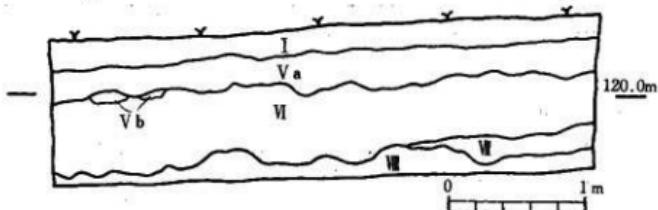
1 トレンチ(第91図)

1トレンチは、平原B遺跡では東側端に設定した。このあたりは、標高約120mの小高い丘の裾部で、傾斜しながら深い谷に続く台地縁辺部に位置している。

土層

層全体はやや南に傾斜する。

I層は、黒褐色土で耕作土である。基本土層のII層～IV層は削平されている。遺物は表土直下にわずかに痕跡を示す黒褐色腐植火山灰土中に数点出土する。Va層は、黄褐色火山灰土でこの層の下位にはアカホヤがわずかに残る。VI層は、黒褐色火山灰土で約60cm堆積し本トレンチでは厚く堆積する。以下Vb層、VII層と続いている。



第91図 1トレンチ土層断面図

2 トレンチ(第92図)

2トレンチは、1トレンチの東側約60mの畠地に設定した。遺物は小片で図化しえなかった。

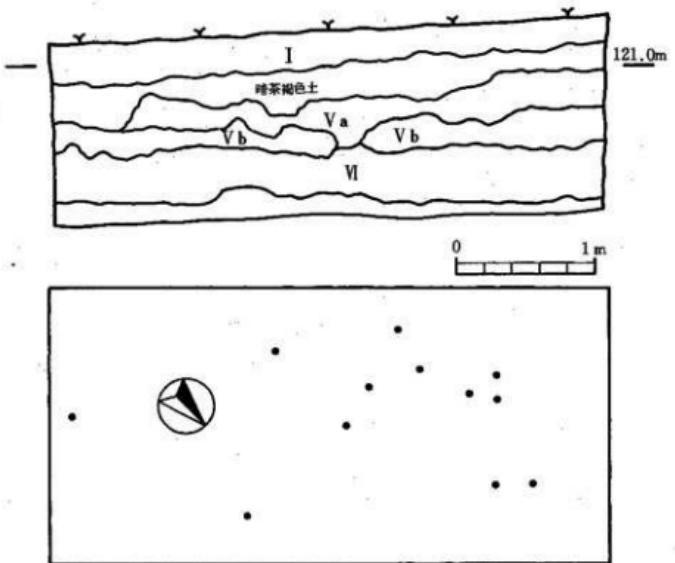
地形は1トレンチと同様に、南面する傾斜地の台地縁辺部で標高約121mを測る。

土層

本トレンチは、II層が比較的良好に残存していたトレンチである。

I層は、黒褐色土で耕作土である。II層は黑色腐植火山灰土で20cm程略水平に堆積する。若干の土器小片が出土した。小片のため図化はできなかつたが縄文時代晩期の土器片であろう。

Va層は、明黄褐色火山灰土。Vb層は黄褐色軽石(アカホヤ)で、本トレンチでは比較的堆積状況もよく10cm内外の堆積を示す。以下、VI、VII、VIII層と堆積しシラス層となる。



第92図 2トレンチ土層断面図

3トレンチ（第93図）

3トレンチは、平原B遺跡では西側に位置する。遺物は土器小片が1点出土したのみである。このあたりは、小谷がありくみわざかな舌状を呈し、その縁辺部である。畠地開墾のため高所は削平されV層が露呈する個所も見られる。

土層

I層の耕作土直下は不整合な堆積が見られ、安定するのはVI層に達してからである。

I層とVI層の間には、IV層の暗褐色火山灰土やVa層の明黄褐色火山灰土が30~50cmの厚さの中に混在し、あるいは大きなブロック状を呈す。

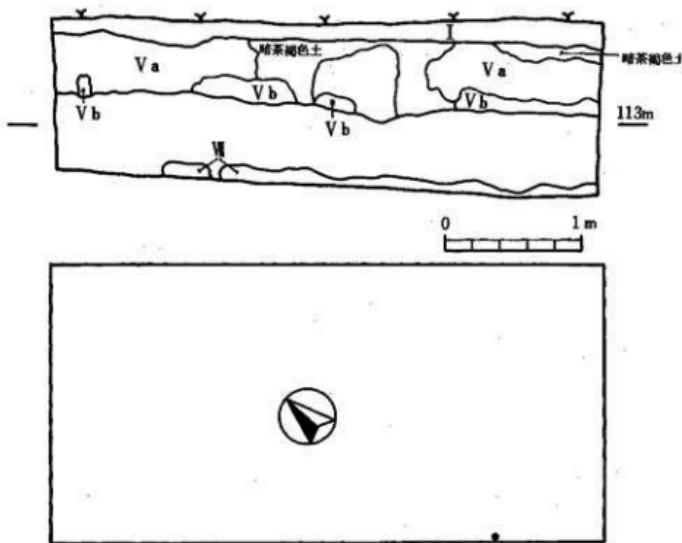
Vb層の黄褐色軽石層はブロック状に堆積する。VI層の黒褐色火山灰土は30~50cmの層厚をもって略水平となり、下位はブロック状のV層淡黄褐色火山灰土となる。

4トレンチ（第94図）

4トレンチは、3トレンチの西側約20mの位置に設定した。

トレンチの西側は、傾斜面を削平して鶏舎が作られているため4mの崖となっている。相対的には3トレンチ同様に南へ傾斜する地形である。

遺物はトレンチ壁面に1点小片が出土したのみである。



第93図 3トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

土層

土層は全体に南へ傾斜する。

I層は耕作土である。基本土層のII～IV層は削平されたため直接Va層となる。Va層は、明黄褐色火山灰土で20～50cm堆積する。Va層は、黄褐色軽石でVa層の下位にブロック状にはいる。

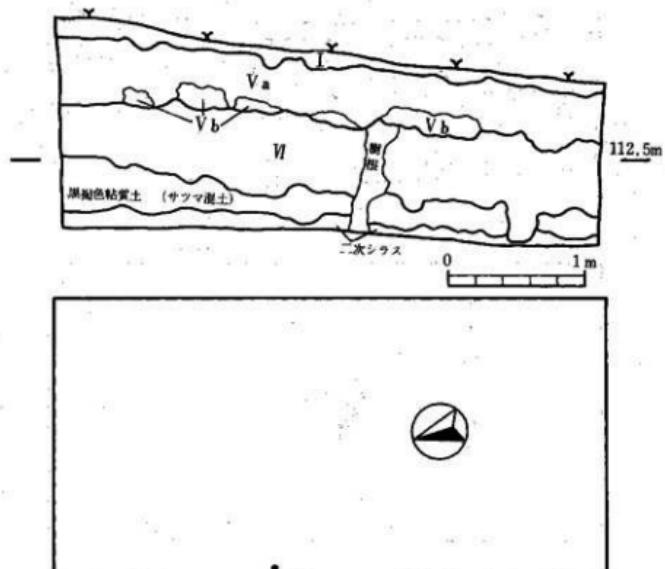
VI層は、黒褐色火山灰土で粘質が強く、乾くとクラックがはいる。VI層の下位は、黒褐色粘質土でVI層「薩摩」が混在した層である。基盤は二次シラスである。

第3節 表面採集遺物 (第95・96・97図、図版25)

トレンチからの出土遺物は、細片で形式名を設定できるものはなかったが、周辺の表面採集中にいくつかの良好な資料を得た。

1は、肥厚する口縁部を文様帯とし、2条の平行な沈線を横位に施す。内外面ともヘラ研磨の仕上げである。色調は黒褐色を呈す。縄文時代後期に比定される土器である。2, 3は口縁部が断面三角形状に肥厚する土器で、外面はていねいな仕上げである。縄文時代晩期に比定されるものである。

4は、器面に蓆目圧痕を施すもので、色調は淡茶褐色を呈し、焼成は粗い。



第94図 4 トレンチ土層断面図・遺物出土分布図

5は、肩部に3条の凸帯を横位に巡らした壺形土器である。色調は茶褐色を呈する。弥生時代中期に属するものである。6、7は底部片でいずれも茶褐色を呈する。

8、9は表面採集された石鏃である。8はチャートを石材とし、側刃がまっすぐで三角形を呈する。基部は平基であり、交瓦刺離によって丁寧な調整を施している。9は頁岩を石材とし、側刃は外湾し、基部は逆刺が鈍く折りはやや深いものである。

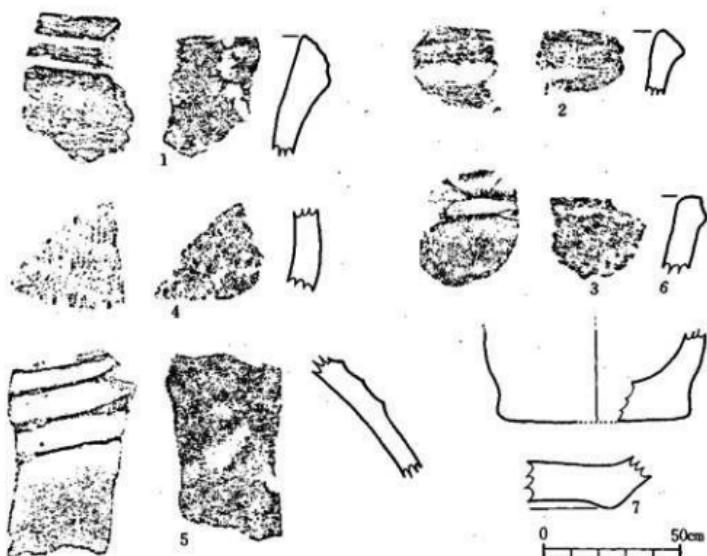
10は肩部及び刃部を欠損する安山岩質の扁平な有肩打製石斧である。11も扁平な安山岩を使用した打製石斧で、片面中央部が研磨されている。

第4節 まとめ (第95・96・97図)

設定したトレンチからは良好な遺物は出土しなかったが、周辺の畠地からはいくつかの好資料を得ることができた。特に弥生時代中期の土器片を採集したことは、本遺跡が内陸部に位置し、しかし台地という自然条件を加味すれば、今後の検討資料となろう。

ただ、弥生時代の包含層は個人による畠地造成等で多くは削平されているという現状もあり遺跡の発見を困難にしている要因ともなっている。

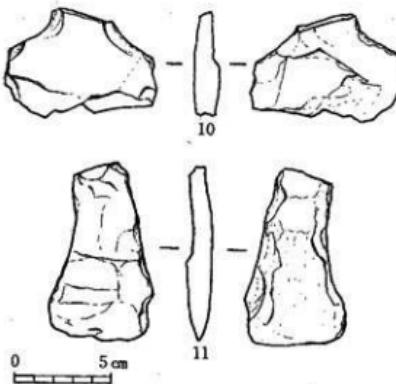
それだけに表面採集とはいって、本町ではあまり発見例のなかった弥生時代中期相当の土器片等を採集できたことに意義があるといえよう。



第95図 表面採集土器



第96図 表面採集石器



第97図 表面採集石器

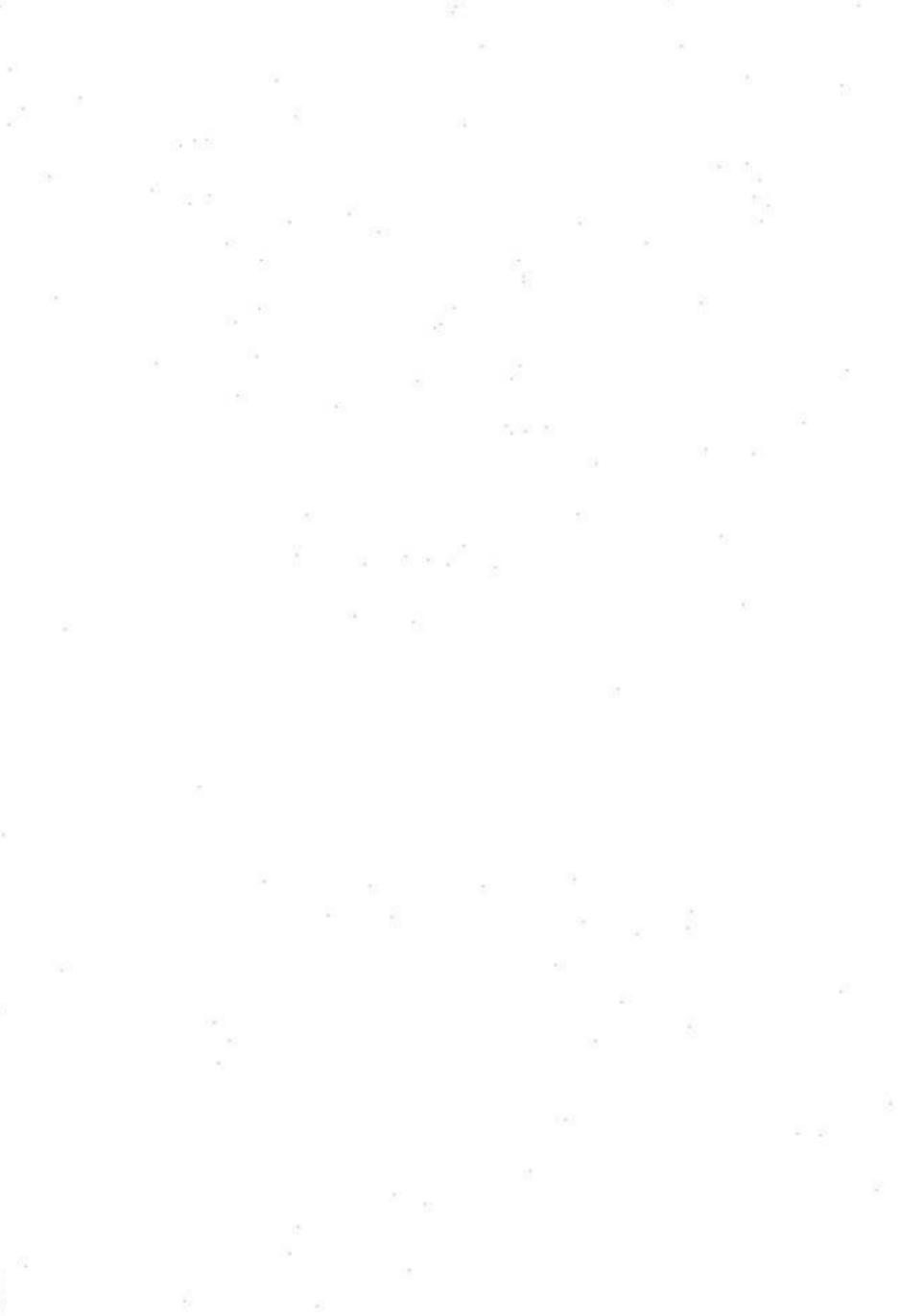
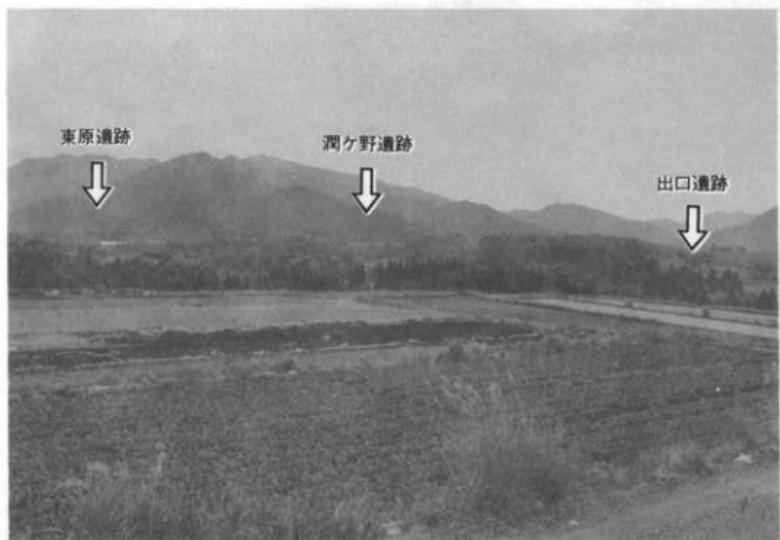


図 版

—



各遺跡造景



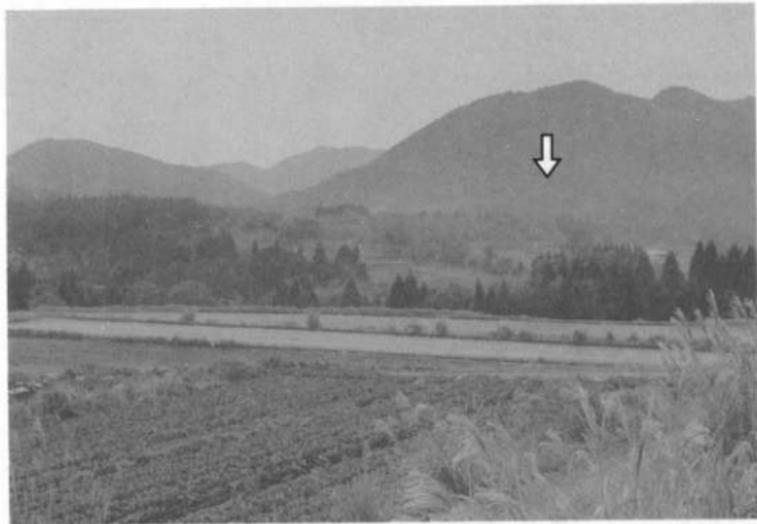
発掘風景（潤ヶ野遺跡 1トレンチ）



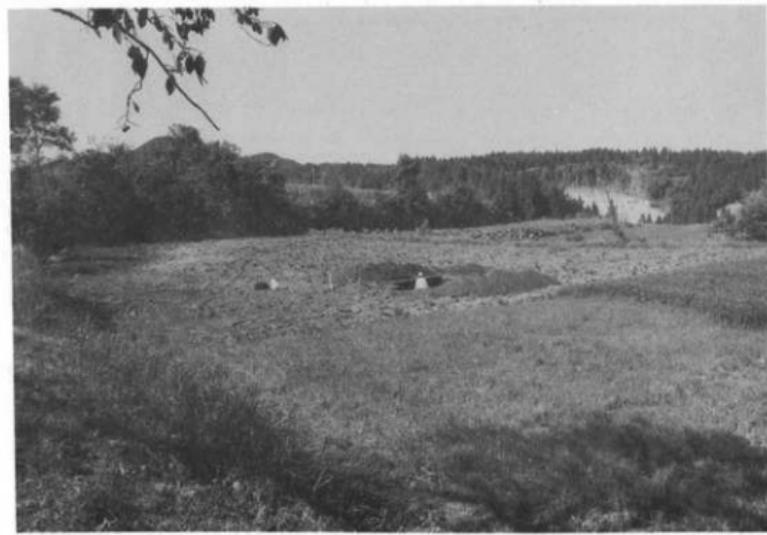
発掘調査風景（出口B遺跡8トレンチ）



発掘調査風景（上原遺跡1トレンチ）



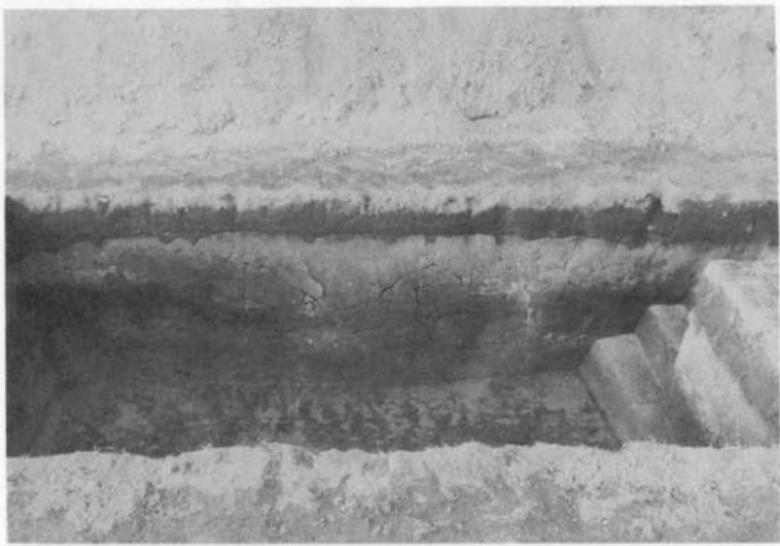
1. 出口B 遺跡遠景 (北から)



2. 8 トレンチ近景 (南から)



1, 12 トレンチ近景（南から）



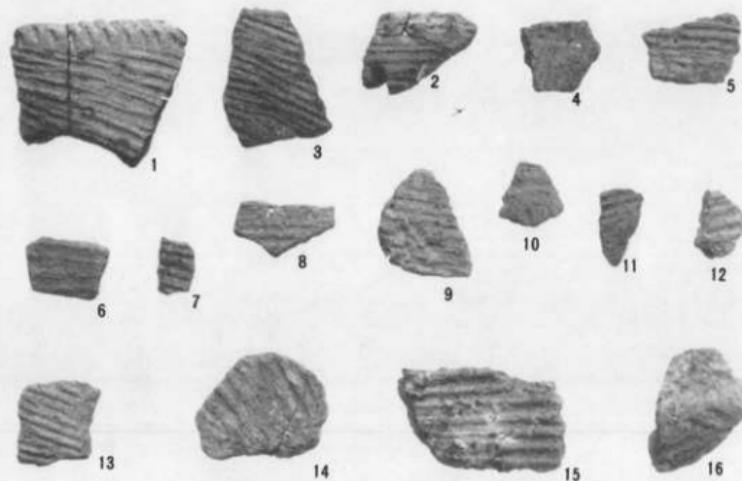
2, 3 トレンチ土層断面



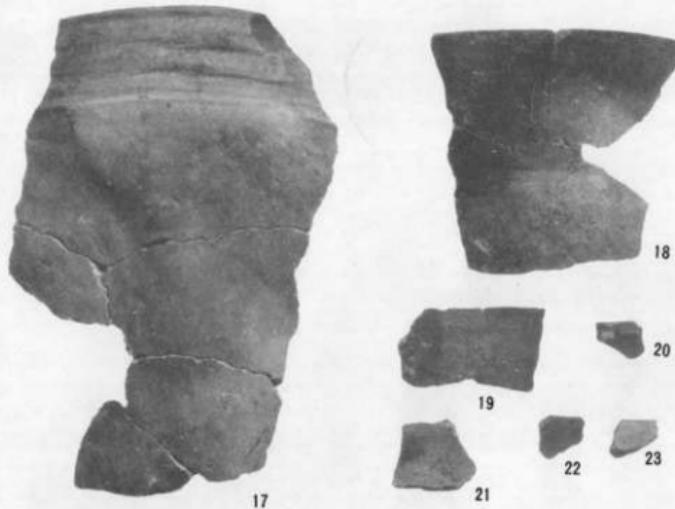
1. 7トレンチ土層断面



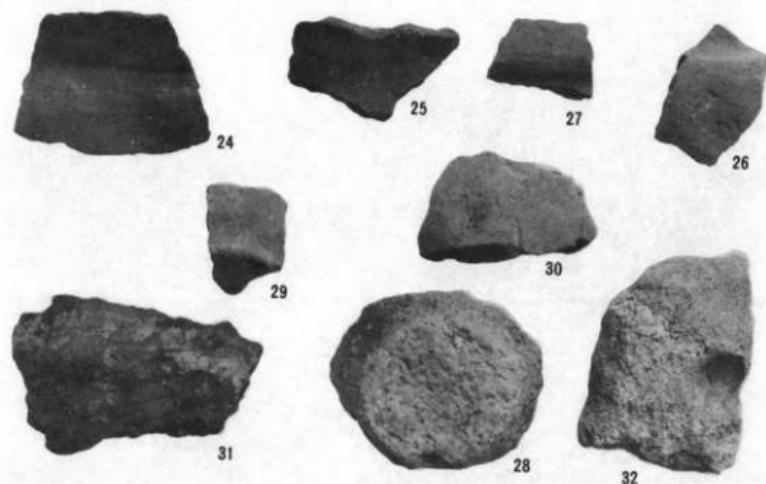
2. 8トレンチ遺物出土状況



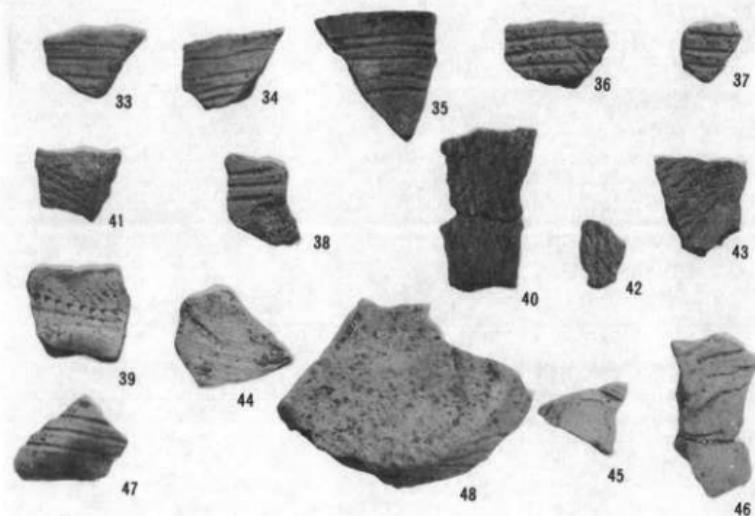
1, 2 トレンチ出土土器



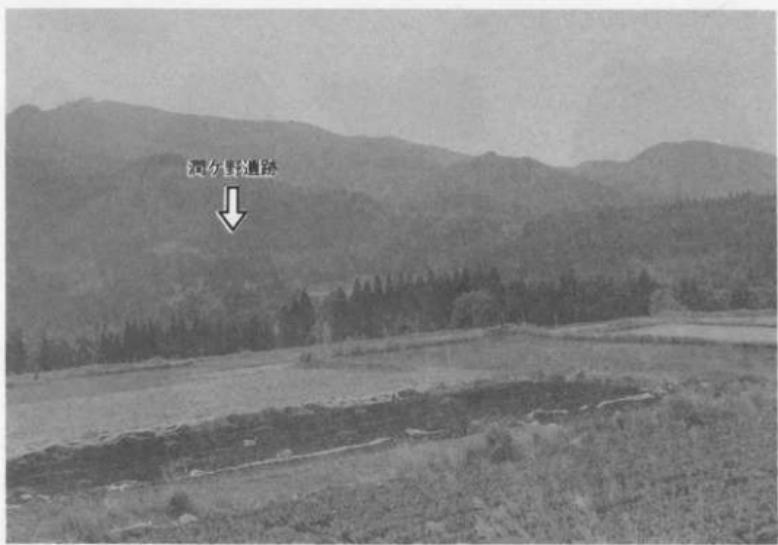
2, 8 トレンチ出土の土器 (1)



1, 8トレンチ出土土器 (2)



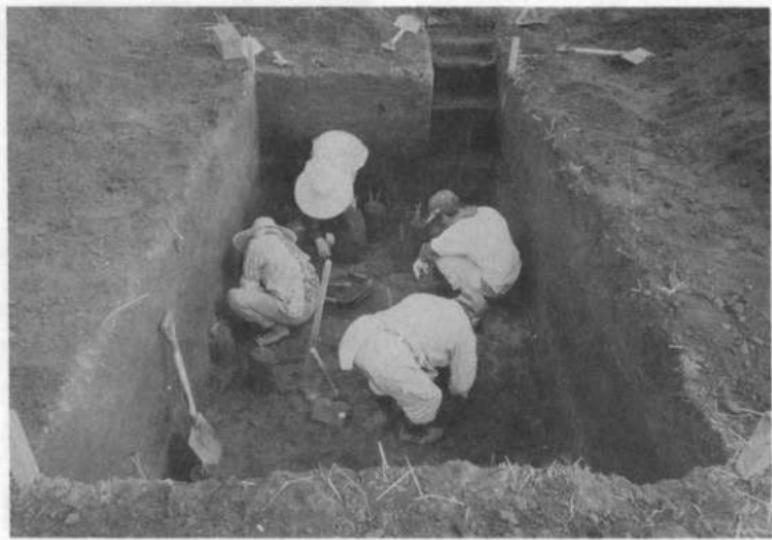
2, 12トレンチ出土土器



潤ヶ野遺跡遠景



2 トレンチ集石造構

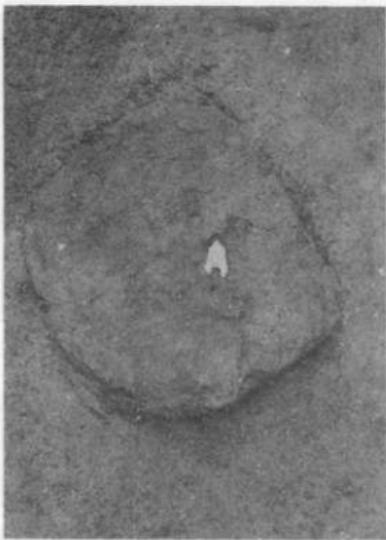


発掘調査風景



3 トレンチ遺物出土状況（1）

3 トレンチ遺物出土状況（2）



6 トレンチ遺物出土状況（1）



潤ヶ野遺跡

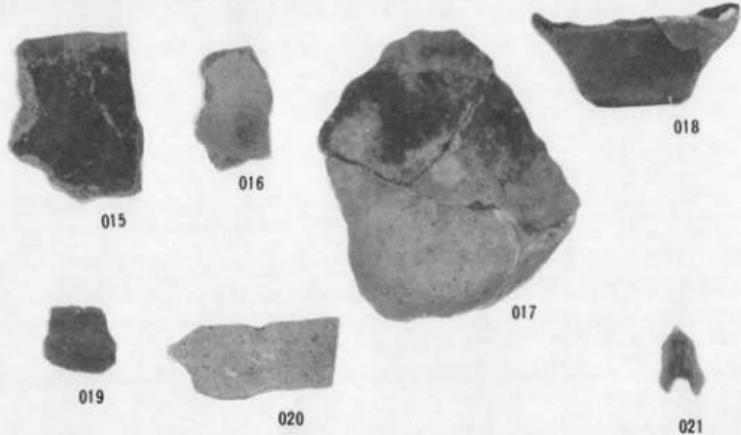
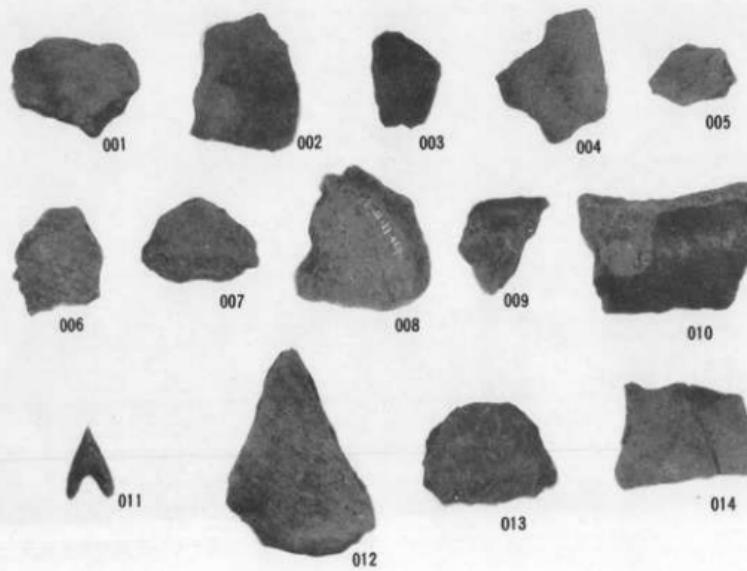


6 トレンチ遺物出土状況（2）

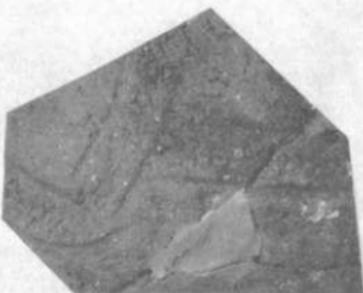


洞ヶ野遺跡

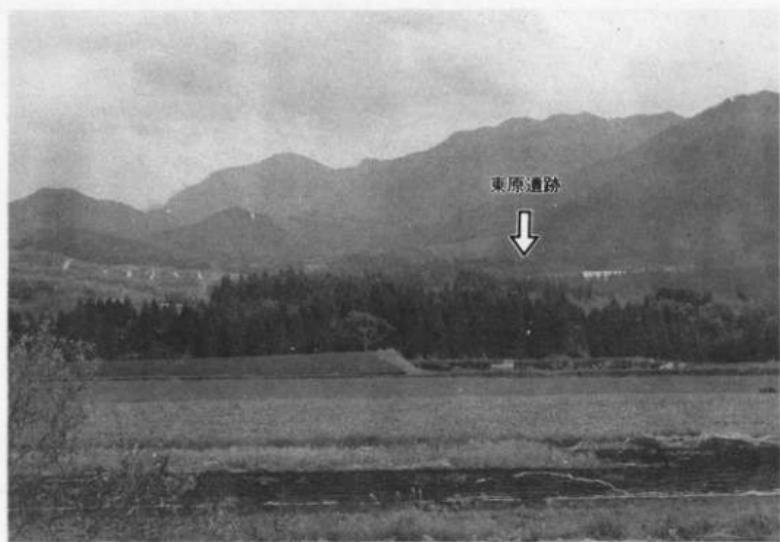
6 トレンチ遺物出土状況（3）



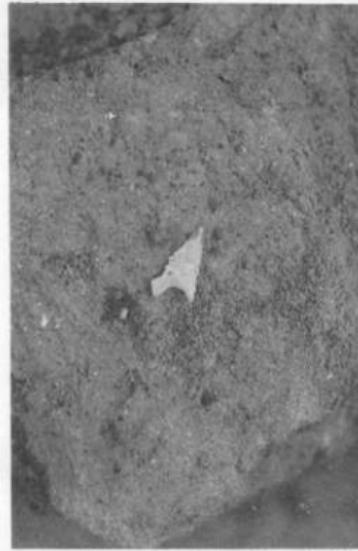
1・2・3トレンチ出土遺物


028 の 拡 大

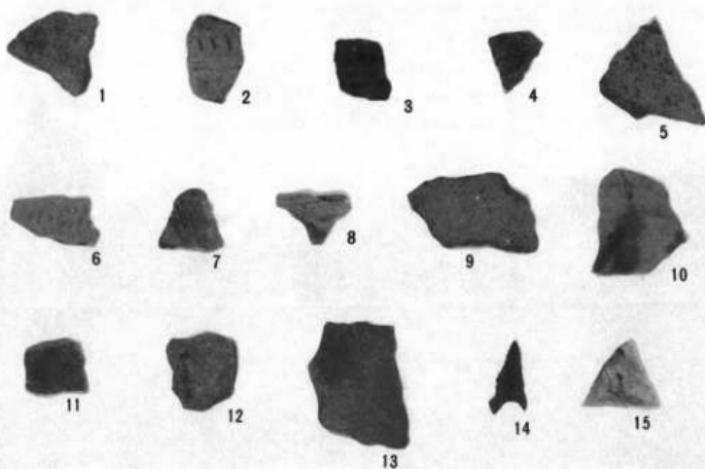
6・7・II トレンチ出土遺物



東原遺跡遠景



1 トレンチ遺物出土状況



1 トレンチ出土遺物



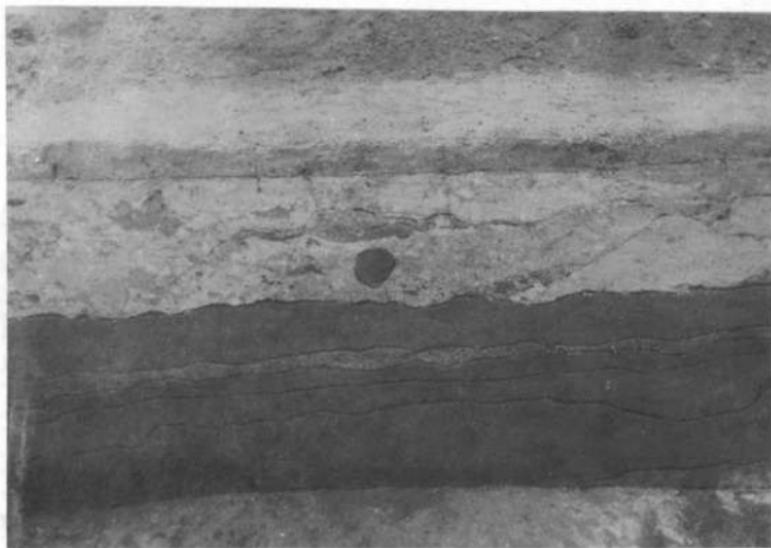
3 トレンチ遺構等出土状況



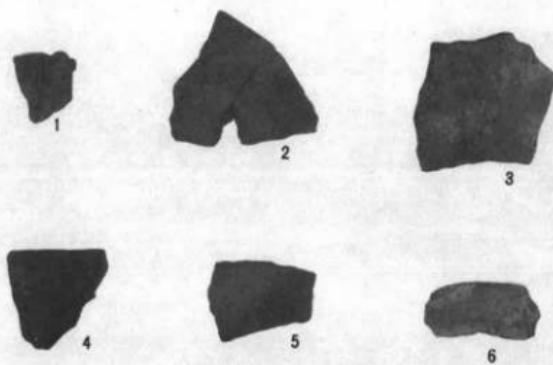
樽野遺跡近景



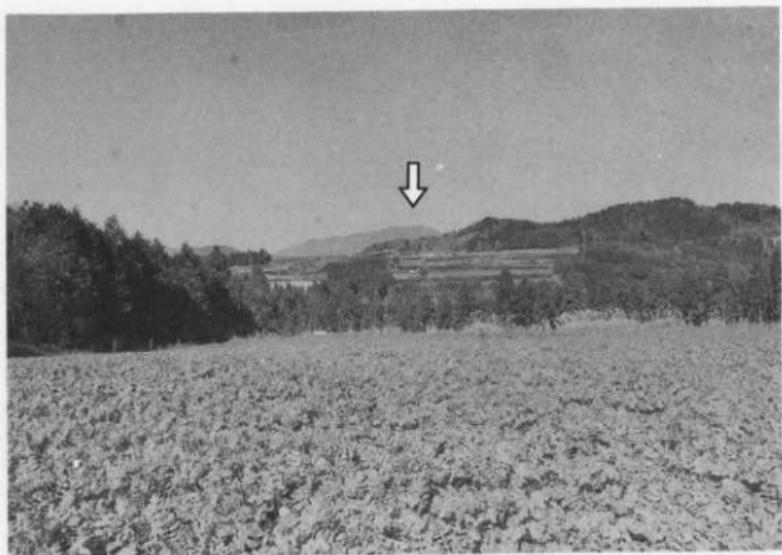
3 トレンチ土層断面



4 トレンチ土層断面



4 トレンチ出土遺物



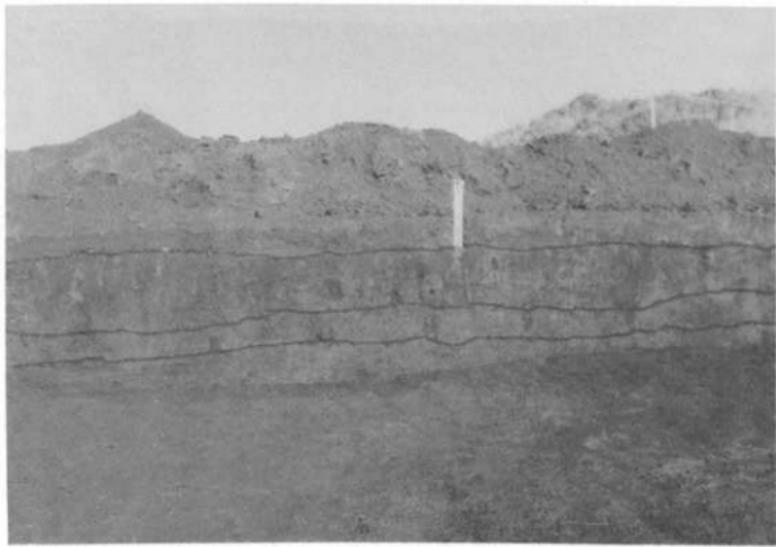
1. 上原遺跡遠景



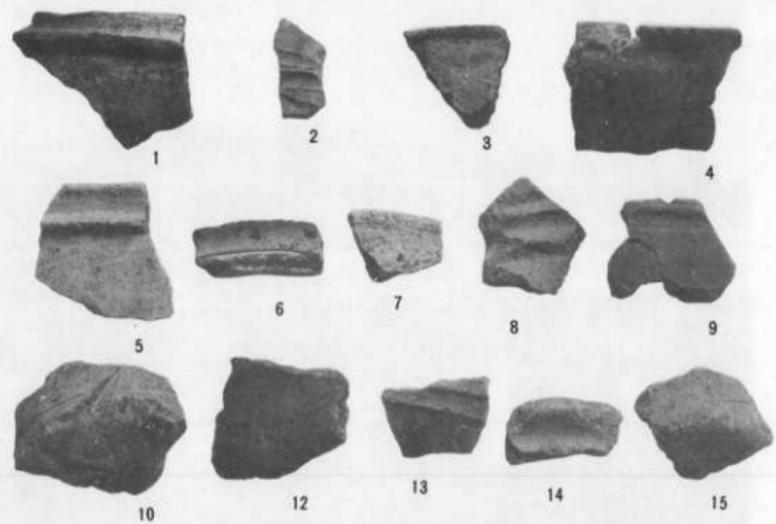
2. 上原遺跡近景



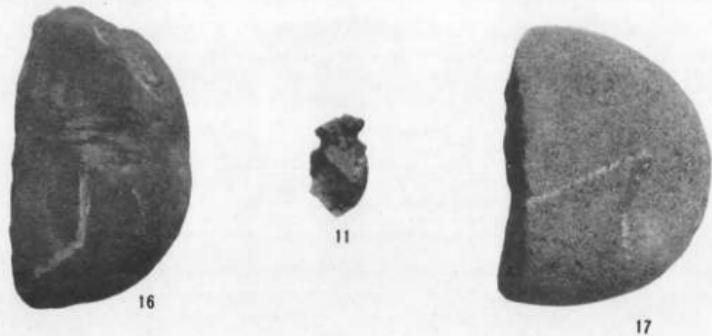
1. 上原遺跡近景



2. 1トレンチ土層断面



1. 上原遺跡出土の土器



2. 上原遺跡出土・表面採集遺物



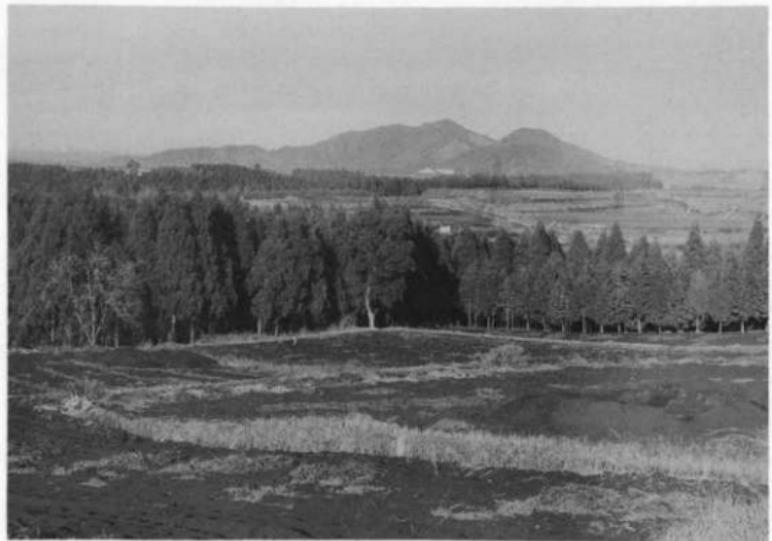
1. 平原A遺跡遠景



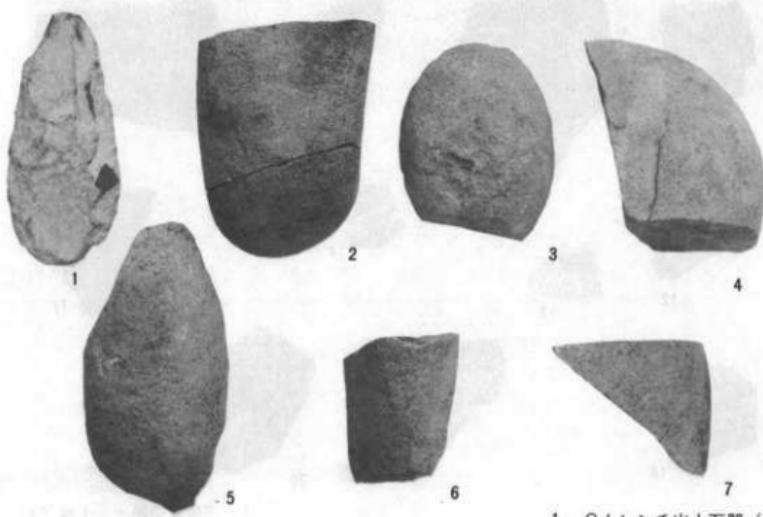
2. 平原A遺跡近景



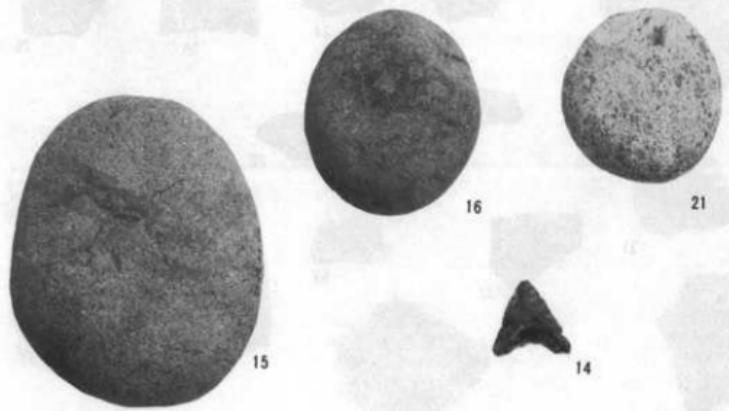
1, 1 トレンチ近景



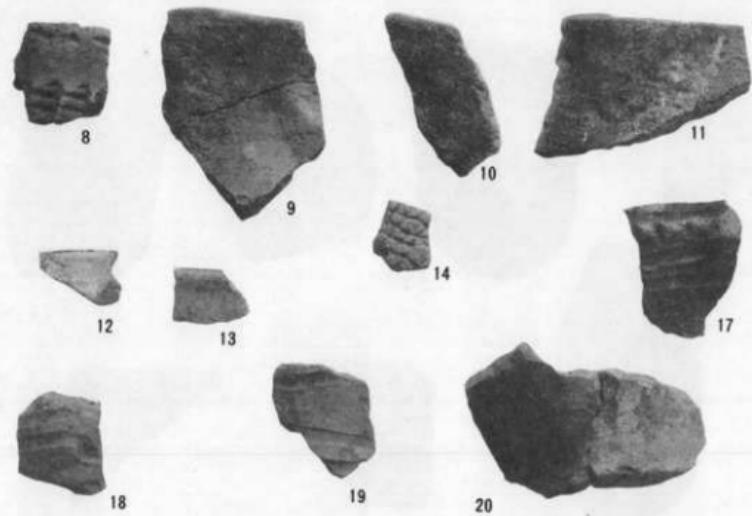
2, 2 トレンチ近景



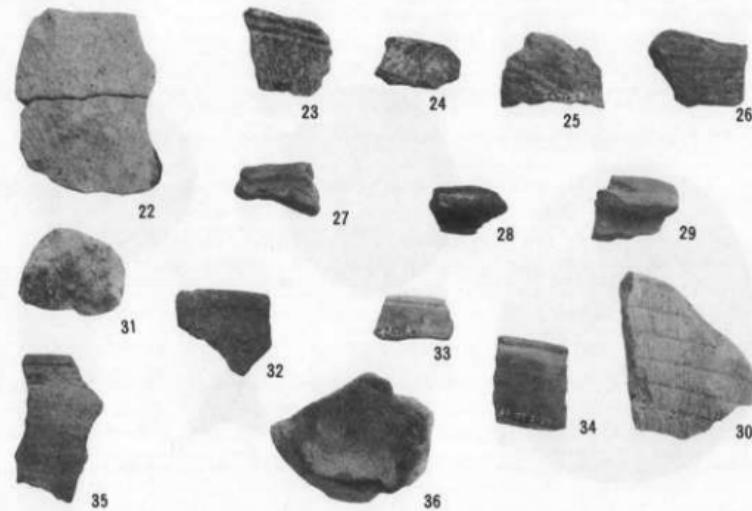
1, 2 トレンチ出土石器 (1)



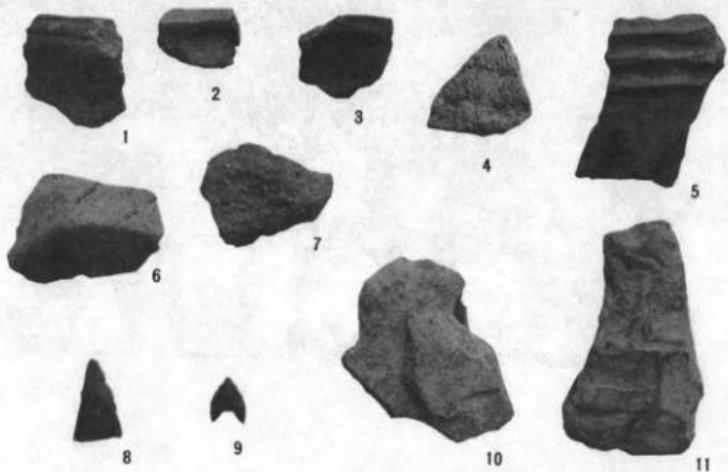
2, 平原A遺跡出土石器 (2)



1. 平原A遺跡出土土器 (1)



2. 平原A遺跡出土土器 (2)



1. 平原B遺跡・表面採集遺物



2. 発掘風景



発掘作業員の皆さん

あとがき

平原遺跡発掘調査報告書もようやく刊行にこぎつけた。発掘調査は例によって、からいも収穫期の10月にスタートし寒風の吹きすさぶ歳の瀬に終了した。

調査対象地区は二地区にまたがり。しかもそれぞれ広域な調査地区内に7つ遺跡が散在しているため、発掘関係者は各トレンチからトレンチへ、遺跡から遺跡へとびまわる毎日であった。しかしこのような条件にも勞をいとわず発掘作業に従事していただいた作業員の皆さんのおかげで、発掘調査、整理作業、報告書作成という過程をこなすことが出来ました。

ここに発掘作業に従事された皆さんをはじめ、整理作業を担当された県文化課収蔵庫の皆さん、又心よく農地を堀らせてくださった地主の方々に心から感謝の意を表します。

発掘作業員

永吉 ノリ・上迫 モミ・園田トシ子・浜平 民子・郷田 宏子・的場 郁子
山迫つるみ・入口スミ子・竹下 順子・竹下タツエ・竹下リツ子・潤野チナ子
鮎川アキヨ・牧 サエ子・後藤エイ子・下山 エル・下渡エツ子・下渡 章子
春口フミエ・水流トシ子・水流 ミホ・吉岡 章子・村岡 洋子・村岡サツミ
山内ヒミ子・川畑 幸子・川辺ミヨ子・馬場宏子・上園 フミ・牟田島昭子
尾川 濱・園田 松市・竹下 純雄・竹下 瑛・竹下 昭市・森村 和裕
山下 重盛・春口 峯次

整理作業員

有留 琢美・浜田 幸江・河野 陽子

志布志町埋蔵文化財発堀調査報告書（12）

発行日 昭和62年3月

発行 志布志町教育委員会

〒899-71 鹿児島県曾於郡志布志町志布志2542

TEL 0994-72-1111

印刷 新志布志新生社印刷

〒899-71 鹿児島県曾於郡志布志町志布志3223-7

TEL 0994-72-2422